

JP1 Version 12

JP1/Integrated Management 2 - Event Gateway
for Network Node Manager i

3021-3-D57

前書き

■ 対象製品

適用 OS のバージョン, JP1/Integrated Management 2 - Event Gateway for Network Node Manager i が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細についてはリリースノートで確認してください。

●JP1/Integrated Management 2 - Event Gateway for Network Node Manager i (適用 OS : Windows Server 2016, Windows Server 2012)

P-2A2C-8GCL JP1/Integrated Management 2 - Event Gateway for Network Node Manager i 12-00

●JP1/Integrated Management 2 - Event Gateway for Network Node Manager i (適用 OS : Linux 7, Linux 6 (x64), Oracle Linux 7, Oracle Linux 6 (x64), CentOS 7, CentOS 6 (x64), SUSE Linux 12)

P-812C-8GCL JP1/Integrated Management 2 - Event Gateway for Network Node Manager i 12-00

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

HITACHI, JP1 は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。

Active Directory は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

RSA および BSAFE は、米国 EMC コーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

JP1/Integrated Management 2 - Event Gateway for Network Node Manager i は、米国 EMC コーポレーションの RSA BSAFE(R)ソフトウェアを搭載しています。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by Daisuke Okajima and Kohsuke Kawaguchi (<http://relaxngcc.sf.net/>).

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from <ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>

This product includes software developed by Ralf S. Engelschall <rse@engelschall.com> for use in the mod_ssl project (<http://www.modssl.org/>).



Java is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.



株式会社 日立製作所



■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記		製品名
Windows Server 2012	Windows Server 2012	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard
	Windows Server 2012 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard
Windows Server 2016	Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Datacenter	
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard	

Windows Server 2016 および Windows Server 2012 を総称して、Windows と表記することがあります。

■ 発行

2019年1月 3021-3-D57

■ 著作権

Copyright (C) 2019, Hitachi, Ltd.

Copyright (C) 2019, Hitachi Solutions, Ltd.

変更内容

変更内容(3021-3-D57) JP1/Integrated Management 2 - Event Gateway for Network Node Manager i 12-00

追加・変更内容	変更箇所
次の前提 OS を削除した。 <ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2008 R2	—
NNMi との https 接続で、TLSv1.2 に対応した。これに伴い、SSL の表記を TLS の表記に変更した。	2.1, 2.4.1, 7.jegn_setup
資料採取ツールで取得できる情報を増やした。	10.3.1, 10.3.2

(凡例)

— : 該当なし

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、JP1/Integrated Management 2 - Event Gateway for Network Node Manager i の機能、システム構築方法、および操作方法について説明したものです。なお、このマニュアルでは、JP1/Integrated Management 2 - Event Gateway for Network Node Manager i を **JP1/IM - EG for NNMi** と表記します。また、このマニュアルでの JP1/Integrated Management - Event Gateway for Network Node Manager i は、**JP1/IM - EG for NNMi** と読み替えてください。

■ 対象読者

JP1/Network Node Manager i, JP1/Network Node Manager i Advanced, JP1/Cm2/Network Node Manager i, または JP1/Cm2/Network Node Manager i Advanced が発行する NNMi インシデントを JP1 イベントに変換して、JP1/Integrated Management で管理・監視する方を対象としています。また、対象読者には JP1/Base, JP1/Integrated Management, JP1/Network Node Manager i, JP1/Network Node Manager i Advanced, JP1/Cm2/Network Node Manager i, および JP1/Cm2/Network Node Manager i Advanced に関する知識があることを前提としています。

■ マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す編から構成されています。

第 1 編 概要編

JP1/IM - EG for NNMi の概要、システム構成、NNMi インシデントを変換する流れについて説明しています。

第 2 編 構築・運用編

JP1/IM - EG for NNMi のインストールとセットアップの方法、および運用時に必要な作業について説明しています。

第 3 編 リファレンス編

JP1/IM - EG for NNMi で使用できるコマンド、JP1/IM - EG for NNMi が出力する JP1 イベント、およびメッセージについて説明しています。

第 4 編 トラブルシューティング編

JP1/IM - EG for NNMi でトラブルが発生した場合の対処について説明しています。

■ 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択して読むことができます。利用目的別にお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
JP1/IM - EG for NNMi の特長について知りたい。	1 章
インストールとセットアップ方法について知りたい。	2 章
クラスタシステムで運用する場合の環境構築および運用方法について知りたい。	3 章
NNMi インシデントを JP1 イベントに変換するための、定義ファイルの設定方法について知りたい。	4 章
起動および終了方法について知りたい。	5 章
バックアップとリストアの方法、および設定情報の変更方法について知りたい。	6 章
コマンドについて知りたい。	7 章
JP1 イベントについて知りたい。	8 章
メッセージについて知りたい。	9 章
トラブル発生時の対処について知りたい。	10 章

■ このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。

記号	意味
[]	メニュー項目、画面名、ボタン名、およびキーボードのキーなどを示す。 (例) メニュー項目：[新規作成] 画面名：[ログイン] 画面 ボタン名：[OK] ボタン キーボードのキー：[Ctrl] キー
[] - []	画面のメニューから項目を選択する操作を示す。 (例) [ファイル] - [新規作成] を選択する。 上記の例では、メニューバーの [ファイル] を選んで、プルダウンメニューの [新規作成] を選択することを示す。

■ コマンドの文法で使用する記号

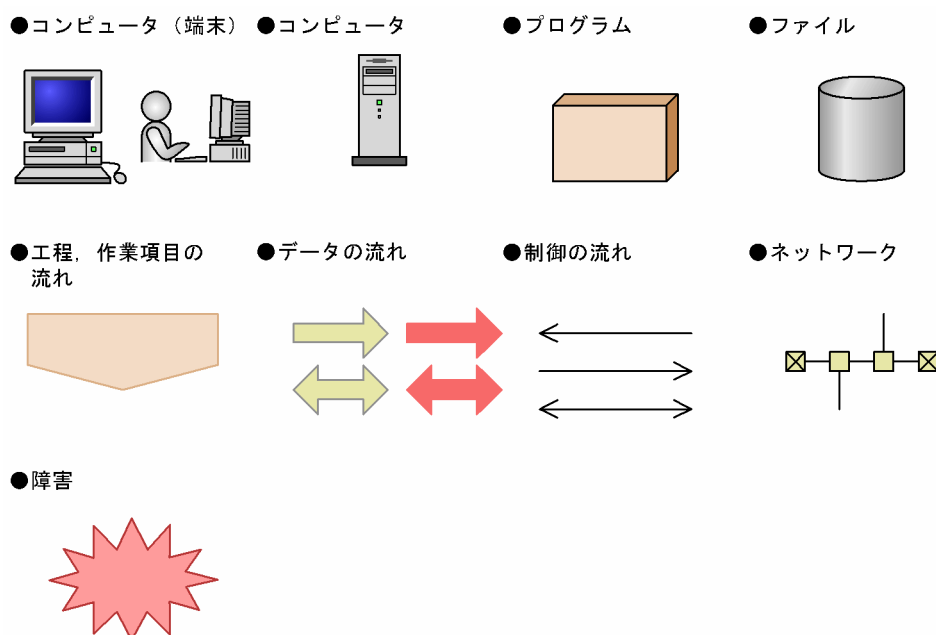
コマンドとパラメーターの説明で使用する記号を、次のように定義します。

記号	意味
 (ストローク)	複数の項目に対し、項目間の区切りを示し、「または」の意味を示す。 (例) [A B C] は、「A, B または C」を示す。

記号	意味
{ }	この記号で囲まれている複数の項目の中から、必ず1組の項目を選択する。項目の区切りは で示す。 (例) {A B C} は「A, B または C のどれかを指定する」ことを示す。
[]	この記号で囲まれている項目は任意に指定できる (省略してもよい)。 (例) [A] は「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示す。
… (点線)	この記号の直前に示された項目を繰り返して複数個、指定できる。 (例) 「A, B, …」 は「A のあとに B を必要個数指定する」ことを示す。

■ 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。



■ Windows 版 JP1/IM - EG for NNMi, JP1/Base, JP1/IM のインストール先フォルダの表記

このマニュアルでは、Windows 版 JP1/IM - EG for NNMi, JP1/Base, JP1/IM のインストール先フォルダを次のように表記しています。

製品名	インストール先フォルダの表記	デフォルトインストール先フォルダ※
JP1/IM - EG for NNMi	EG for NNMi パス	システムドライブ:¥Program Files(x86)¥HITACHI¥JP1EG4NNMI
JP1/Base	Base パス	システムドライブ:¥Program Files¥HITACHI¥JP1Base
JP1/IM - Manager	Console パス	システムドライブ:¥Program Files¥HITACHI¥JP1Cons

注※ 各製品をデフォルトのままインストールした場合のインストール先フォルダを表しています。

■ このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について

このマニュアルで表記している「Administrators 権限」とは、ローカル PC に対する Administrators 権限です。ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザーであれば、ローカルユーザー、ドメインユーザー、および Active Directory 環境で動作に違いはありません。

目次

前書き	2
変更内容	5
はじめに	6

第1編 概要編

1	JP1/IM - EG for NNMi の概要	14
1.1	JP1/IM - EG for NNMi とは	15
1.2	JP1/IM - EG for NNMi を使用した運用の流れ	16
1.3	JP1/IM - EG for NNMi のシステム構成	17
1.3.1	前提 OS	17
1.3.2	前提プログラム	18
1.4	NNMi インシデント変換の流れ	19

第2編 構築・運用編

2	インストールとセットアップ	21
2.1	インストールとセットアップの流れ	22
2.2	インストール (Windows の場合)	23
2.2.1	インストール手順	23
2.2.2	アンインストール手順	24
2.3	インストール (UNIX の場合)	25
2.3.1	インストール手順	25
2.3.2	アンインストール手順	26
2.3.3	Hitachi PP Installer の使用方法	26
2.4	セットアップ	29
2.4.1	セットアップコマンドの実行	29
2.4.2	環境変数の設定 (UNIX 限定)	30
2.4.3	定義ファイルの設定	32
2.4.4	自動起動および自動終了の設定	32
2.4.5	トラブルに備えた設定	34
3	クラスタシステムでの運用と環境構築	37
3.1	環境設定の流れ	38
3.2	論理ホストのインストールとセットアップ	40
3.2.1	実行系サーバのインストールとセットアップ	40

3.2.2	待機系サーバのインストールとセットアップ	42
3.2.3	設定変更時の作業	43
3.3	クラスタソフトへの登録	44
3.3.1	クラスタソフトへの登録 (Windows の場合)	44
3.3.2	クラスタソフトへの登録 (UNIX の場合)	46
3.4	論理ホストの削除	49
3.5	クラスタ運用に関する注意事項	50
4	NNMi インシデントから JP1 イベントへの変換	51
4.1	NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの作成	52
4.1.1	NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの形式	53
4.1.2	フィルター条件ブロックの定義	55
4.1.3	マッピングブロックの定義	63
4.1.4	定義例 (サンプルファイル)	67
4.2	マッピング定義ファイルの作成	68
4.2.1	マッピング定義ファイルのファイル名と格納先	68
4.2.2	マッピング定義ファイルの書式	69
4.3	カスタム属性マッピング定義ファイルの作成	70
4.3.1	カスタム属性マッピング定義ファイルのファイル名と格納先	70
4.3.2	カスタム属性マッピング定義ファイルの書式	71
4.4	JP1/IM - Manager の定義ファイルの編集	73
4.4.1	イベント拡張属性定義ファイル	73
4.4.2	モニター画面呼び出し定義ファイル	78
5	起動と終了	79
5.1	JP1/IM - EG for NNMi を起動する	80
5.1.1	Windows の場合	80
5.1.2	UNIX の場合	80
5.2	JP1/IM - EG for NNMi を終了する	81
5.2.1	Windows の場合	81
5.2.2	UNIX の場合	81
6	JP1/IM - EG for NNMi の運用	82
6.1	バックアップとリストア	83
6.1.1	設定情報のバックアップ	83
6.1.2	設定情報のリストア	84
6.2	設定情報の変更	85
6.2.1	定義ファイルを変更する	85
6.2.2	JP1/IM - EG for NNMi が動作するホスト名, IP アドレス, ポート番号の設定を変更する	86
6.2.3	JP1/IM - EG for NNMi が動作するシステムの日時を変更する	87

第3編 リファレンス編

7 コマンド 91

- コマンドの記述形式 92
- コマンド一覧 93
- jegn_killall.cluster (UNIX 限定) 95
- jegn_log.bat (Windows 限定) 96
- jegn_log.sh (UNIX 限定) 99
- jegn_setup 102
- jegn_setup_cluster 107
- jegn_spmd_reload 109
- jegn_spmd_status 111
- jegn_start (UNIX 限定) 113
- jegn_start.cluster (UNIX 限定) 114
- jegn_stop (UNIX 限定) 115
- jegn_stop.cluster (UNIX 限定) 116

8 JP1 イベント 117

- 8.1 JP1 イベントの属性 118
- 8.2 NNMi インシデントを変換した JP1 イベント 119
- 8.3 JP1/IM - EG for NNMi が出力する JP1 イベント 125
- 8.4 JP1/IM - EG for NNMi が出力する JP1 イベントの詳細 126
- 8.4.1 JP1/IM - EG for NNMi が出力する JP1 イベント一覧 126
- 8.4.2 JP1 イベントの詳細 126

9 メッセージ 128

- 9.1 メッセージの出力先一覧 129
- 9.1.1 インストールに関するメッセージ (KNAG0001~KNAG0999) の出力先 129
- 9.1.2 コマンド実行に関するメッセージ (KNAG1000~KNAG1999) の出力先 129
- 9.1.3 サービスに関するメッセージ (KNAG2000~KNAG2999) の出力先 131
- 9.1.4 プロセス管理に関するメッセージ (KAVB3501~KAVB3999) の出力先 132
- 9.2 メッセージの形式 136
- 9.2.1 メッセージの出力形式 136
- 9.2.2 メッセージの記載形式 136
- 9.2.3 システム管理者の方へ 137
- 9.3 メッセージ一覧 138
- 9.3.1 インストールに関するメッセージ (KNAG0001~KNAG0999) 138
- 9.3.2 コマンド実行に関するメッセージ (KNAG1000~KNAG1999) 142
- 9.3.3 サービスに関するメッセージ (KNAG2000~KNAG2999) 160
- 9.3.4 プロセス管理に関するメッセージ (KAVB3501~KAVB3999) 181

第4編 トラブルシューティング編

10	トラブルシューティング	215
10.1	対処の手順	216
10.2	ログ情報の種類	217
10.2.1	統合トレースログ	217
10.2.2	JP1 イベント発行トレースログ	219
10.2.3	プロセス別トレースログ	221
10.3	トラブル発生時に採取が必要な資料	222
10.3.1	採取が必要な資料 (Windows の場合)	222
10.3.2	採取が必要な資料 (UNIX の場合)	230

付録 241

付録 A	ファイルおよびディレクトリ一覧	242
付録 A.1	ファイルおよびフォルダ (Windows の場合)	242
付録 A.2	ファイルおよびディレクトリ (UNIX の場合)	243
付録 B	プロセス一覧	247
付録 B.1	プロセス一覧 (Windows の場合)	247
付録 B.2	プロセス一覧 (UNIX の場合)	247
付録 C	制限値一覧	248
付録 D	性能と見積もり	249
付録 E	正規表現	250
付録 E.1	正規表現の文法	250
付録 E.2	正規表現の指定方法	251
付録 E.3	正規表現を使用する際のヒント	252
付録 E.4	正規表現の指定例	252
付録 F	定義ファイル	255
付録 F.1	拡張起動プロセス定義ファイル (jegn_service_0700.conf)	256
付録 F.2	JP1/IM - EG for NNMi パラメーター定義ファイル (jegn_param_V7.conf)	258
付録 G	各バージョンの変更内容	260
付録 G.1	12-00 の変更内容	260
付録 G.2	11-50 の変更内容	260
付録 H	このマニュアルの参考情報	261
付録 H.1	関連マニュアル	261
付録 H.2	このマニュアルでの表記	262
付録 H.3	このマニュアルで使用する英略語	263
付録 H.4	KB (キロバイト) などの単位表記について	263
付録 I	用語解説	264

索引 270

1

JP1/IM - EG for NNMi の概要

この章では、JP1/IM - EG for NNMi の概要、システム構成、NNMi インシデントを変換する流れについて説明します。

1.1 JP1/IM - EG for NNMi とは

JP1/IM - EG for NNMi は、JP1/NNMi または JP1/Cm2/NNMi が管理しているネットワーク機器で、障害などの何らかの事象が発生した場合に発行される NNMi インシデントを、JP1/Base の管理形式である JP1 イベントに変換する製品です。

変換した JP1 イベントは、システム統合管理製品の JP1/IM に転送され、ほかの JP1 シリーズのプログラムが発行する JP1 イベントと同様に、JP1/IM で一元管理・監視できます。

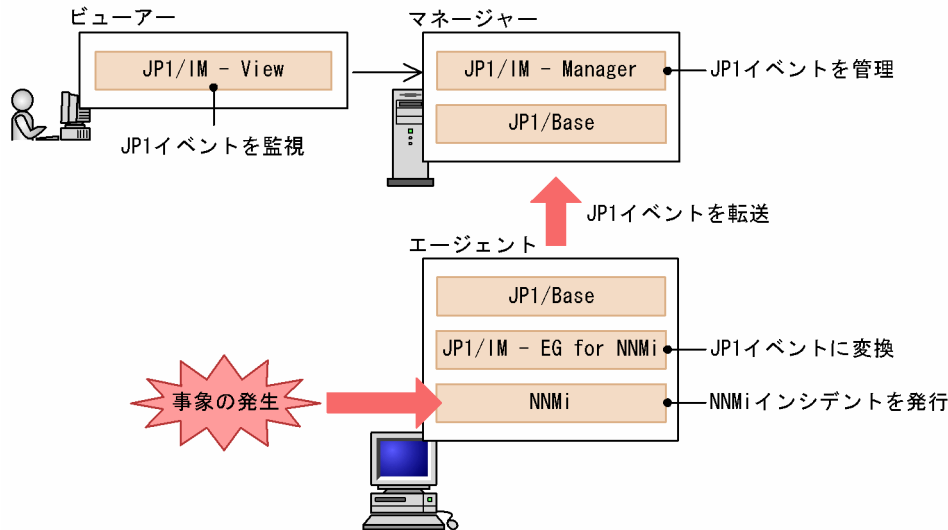
JP1/IM は、JP1/IM - EG for NNMi 以外にもジョブ管理やストレージ管理などのミドルウェア製品（JP1 シリーズ）と連携し、システム全体の構成管理および運用管理をすることで、システムを統合管理します。

なお、以降の説明では、JP1/NNMi または JP1/Cm2/NNMi を NNMi と略します。

1.2 JP1/IM - EG for NNMi を使用した運用の流れ

JP1/IM - EG for NNMi を使用して NNMi インシデントを JP1 イベントに変換し、JP1/IM で管理・監視する流れを次の図に示します。

図 1-1 JP1/IM - EG for NNMi で変換した JP1 イベントを管理・監視する



ネットワーク機器で障害などの事象が発生した場合、NNMi が NNMi インシデントを発行します。JP1/IM - EG for NNMi は、NNMi が発行した NNMi インシデントを取得して JP1 イベントに変換します。フィルター条件を定義すれば、特定の NNMi インシデントだけを JP1 イベントに変換することもできます。

JP1/IM - EG for NNMi を使用して変換した JP1 イベントは、JP1/Base のイベント DB に登録されたあと、マネージャーホストに転送されます。転送された JP1 イベントは、マネージャーホストの JP1/Base のイベント DB に登録されたあと、JP1/IM - Manager で一元的に管理されます。

変換した JP1 イベントの内容は、JP1/IM - View の [イベントコンソール] 画面で確認します。必要に応じて、[イベントコンソール] 画面から NNMi の画面をモニター起動し、事象が発生した要因を調査します。

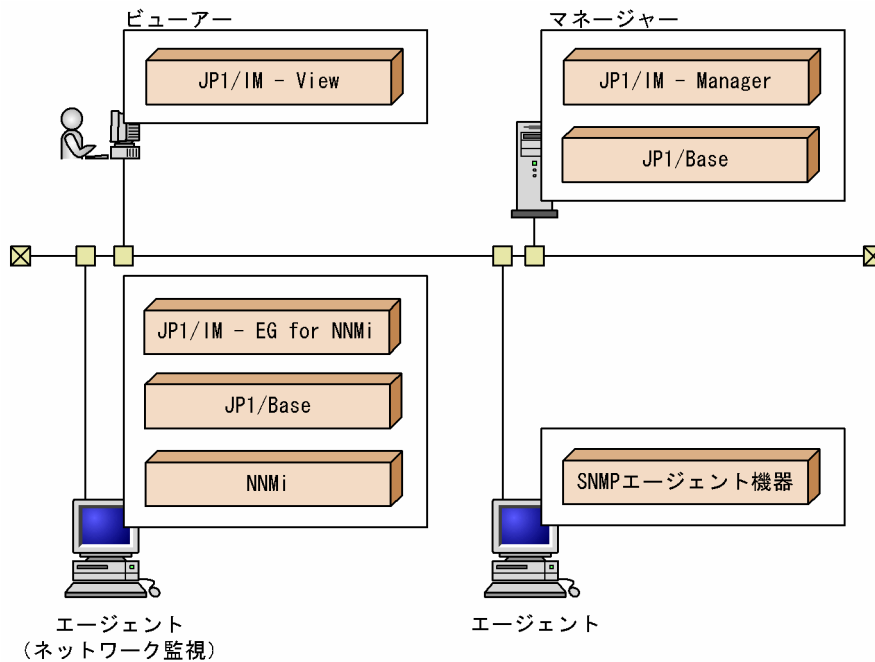
1.3 JP1/IM - EG for NNMi のシステム構成

JP1/IM - EG for NNMi は、JP1/IM システムと連携して使用します。

JP1/IM システムは、システムを統合管理するマネージャー、監視対象サーバで動作するエージェント、および監視や操作を行うビューアーから構成されます。

JP1/IM - EG for NNMi は、JP1/Base および NNMi とともにエージェントにインストールします。JP1/IM - EG for NNMi のシステム構成の例を次の図に示します。

図 1-2 JP1/IM - EG for NNMi のシステム構成の例



クラスタシステム対応

JP1/IM - EG for NNMi は、クラスタシステムでの運用に対応しています。JP1/IM - EG for NNMi をクラスタ運用することによって、サーバ障害などが発生しても実行系から待機系に処理を引き継ぐことができます。

1.3.1 前提 OS

JP1/IM - EG for NNMi の前提 OS を次に示します。なお、サポートしている OS のバージョンや種類 (例：Enterprise Edition など) については、リリースノートを参照してください。

Windows の場合

- Windows Server 2012
- Windows Server 2016

UNIX の場合

- Linux

1.3.2 前提プログラム

JP1/IM - EG for NNMi および JP1/IM システムの前提プログラムについて説明します。詳細については、各製品のリリースノートを参照してください。

(1) JP1/IM - EG for NNMi の前提プログラム

JP1/IM - EG for NNMi の前提プログラムを次に示します。

- JP1/Base
- NNMi

(2) JP1/IM システムの前提プログラム

(a) マネージャーホストの前提プログラム

マネージャーホストの前提プログラムを次に示します。

- JP1/IM - Manager
- JP1/Base

(b) ビューアーホストの前提プログラム

ビューアーホストの前提プログラムを次に示します。

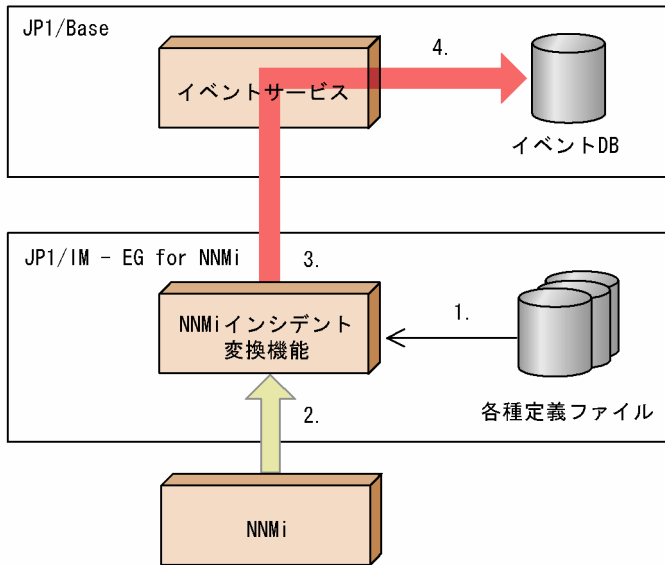
- JP1/IM - View

なお、NNMi の画面をモニター起動するには、Web ブラウザが必要です。サポートする Web ブラウザについては、NNMi の各製品のマニュアルを参照してください。

1.4 NNMi インシデント変換の流れ

NNMi インシデントを変換した JP1 イベントは、JP1/Base のイベントサービスで提供しているイベント DB に登録され、JP1 シリーズのプログラムが発行する JP1 イベントと同様に管理されます。NNMi インシデントを JP1 イベントに変換して、JP1/Base のイベント DB に登録する流れを次の図に示します。なお、図中の番号は処理が流れる順序を示します。

図 1-3 NNMi インシデント変換の流れ



(凡例)

- :プログラムの制御
- :NNMi インシデントの流れ
- :JP1 イベントの流れ

図中の各処理の詳細を次に説明します。

1. 定義ファイルを読み込む。

JP1/IM - EG for NNMi の起動時に、次に示すような各種定義ファイルを読み込みます。

- NNMi インシデント転送フィルター定義ファイル
- マッピング定義ファイル

2. 定期的に NNMi から NNMi インシデントを取得する。

定期的に NNMi に対して NNMi インシデントの取得を要求します。取得できる NNMi インシデントが存在した場合は、その NNMi インシデントを取得します。

3. NNMi インシデントを JP1 イベントに変換する。

取得した NNMi インシデントのうち、NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルで設定したフィルター条件と一致した NNMi インシデントだけを、JP1 イベントに変換します。

4. JP1/Base のイベント DB に JP1 イベントを登録する。

JP1/Base のイベントサービスを使って、イベント DB に JP1 イベントを登録します。

2

インストールとセットアップ

この章では、JP1/IM - EG for NNMi をインストール、セットアップ、およびアンインストールする手順について説明します。

2.1 インストールとセットアップの流れ

この節では、インストールとセットアップの作業の流れについて説明します。

なお、インストールおよびセットアップをするユーザーは、Windows の場合は Administrators 権限、UNIX の場合はスーパーユーザー権限が必要です。

図 2-1 インストールとセットアップの作業の流れ



JP1/Base のインストール

JP1/Base のインストールとセットアップの手順については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

NNMi のインストール

NNMi のインストール手順については、NNMi の各製品のマニュアルを参照してください。

NNMi のインストールは、いつでもかまいません。ただし、JP1/IM - EG for NNMi のセットアップ時に、次の表に示す NNMi の設定情報が必要になります。事前に設定情報を確認してください。

表 2-1 セットアップ時に必要な NNMi の設定情報

項目	内容
NNMi ユーザー名	NNMi の Web サービスクライアント*のユーザー名です。
NNMi パスワード	NNMi の Web サービスクライアント*のパスワードです。
NNMi ポート番号	接続する NNMi のポート番号です。
NNMi 言語	接続する NNMi の言語です。
TLS 使用可否	NNMi に接続するときに、TLS を使用するかどうかの情報です。

注※

NNMi の Web サービスクライアントの作成方法については、NNMi の各製品のマニュアルを参照してください。

2.2 インストール (Windows の場合)

この節では、Windows 環境で JP1/IM - EG for NNMi をインストール、およびアンインストールする手順について説明します。

2.2.1 インストール手順

JP1/IM - EG for NNMi は JP1/Base を前提製品としています。JP1/IM - EG for NNMi をインストールする前に、JP1/Base をインストールしてください。

なお、JP1/IM - EG for NNMi が使用する言語種別は、OS のシステムロケールに応じて、次の表に示すように設定されます。

表 2-2 JP1/IM - EG for NNMi で使用する言語種別 (Windows の場合)

OS のシステムロケール	使用する言語種別
日本語	日本語
英語	英語

❗ 重要

JP1/IM - EG for NNMi は、インストール後に言語環境を変更できません。言語環境を変更する場合は、JP1/IM - EG for NNMi をアンインストールしたあとに OS のシステムロケールを変更し、JP1/IM - EG for NNMi を再インストールしてください。

JP1/IM - EG for NNMi をインストールする手順を次に示します。

1. プログラムを終了する。

「JP1/Base」のサービスを停止してください。

「NNMi」のサービスを停止してください。

2. 提供媒体を該当するドライブに入れる。

起動したインストーラーの指示に従ってインストールを進めてください。新規インストール時には、次の項目を設定します。

- ユーザー情報
- インストール先フォルダ

デフォルトのインストール先フォルダを次に示します。

システムドライブ: %Program Files(x86)%HITACHI\JP1EG4NNMI

上書きインストールまたはバージョンアップインストールの場合は、前回のインストール時に設定した情報が引き継がれます。インストール先フォルダを変更したい場合は、一度アンインストールしてから再度インストールしてください。

JP1/NETM/DM を使ったリモートインストールについて

JP1/IM - EG for NNMi は、JP1/NETM/DM を使ったリモートインストール（ソフトウェアの配布）に対応しています。JP1/NETM/DM を使った実際のリモートインストール方法については、マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R)用)」を参照してください。

上書きインストールおよびバージョンアップインストールについて

JP1/IM - EG for NNMi を上書きインストールまたはバージョンアップインストールする場合は、JP1/IM - EG for NNMi のサービスを停止してください。

2.2.2 アンインストール手順

JP1/IM - EG for NNMi をアンインストールする手順を次に示します。

1. プログラムを終了する。

「JP1/Base」のサービスを停止してください。

「NNMi」のサービスを停止してください。

「JP1/IM - EG for NNMi」のサービスを停止してください。

2. JP1/IM - EG for NNMi を削除する。

Windows の [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] から「JP1/Integrated Management 2 - Event Gateway for Network Node Manager i」を削除してください。

3. ユーザーファイルを削除する。

インストール後に作成された定義ファイルやログファイル、ユーザーが修正する可能性のあるファイルは削除されません。これらのファイルを削除する場合は、JP1/IM - EG for NNMi をインストールしていたフォルダを、エクスプローラで削除してください。

❗ 重要

JP1/Base をアンインストールすると、JP1/IM - EG for NNMi の共通定義情報も削除されます。JP1/Base を再インストールしても、JP1/IM - EG for NNMi は動作しません。この場合、JP1/IM - EG for NNMi を上書きインストールする必要があります。

2.3 インストール (UNIX の場合)

この節では、UNIX 環境で JP1/IM - EG for NNMi をインストール、およびアンインストールする手順について説明します。

2.3.1 インストール手順

JP1/IM - EG for NNMi は JP1/Base を前提製品としています。JP1/IM - EG for NNMi をインストールする前に、JP1/Base をインストールしてください。

また、一時ディレクトリ (/tmp) に、1MB の空きがあることを確認してからインストールを実行してください。

なお、JP1/IM - EG for NNMi が使用する言語種別は、JP1/IM - EG for NNMi のインストール後のセットアップ時に行う環境変数ファイルの設定に応じて、次の表に示すように設定されます。

表 2-3 JP1/IM - EG for NNMi で使用する言語種別 (UNIX の場合)

環境変数ファイル (jegn_env.conf ファイル) の環境変数 LANG の値	使用する言語種別
ja_JP.UTF-8, ja_JP.utf8, ja_JP.SJIS, または ja_JP.sjis	日本語
C	英語
上記以外	

JP1/IM - EG for NNMi をインストールする手順を次に示します。

1. プログラムを終了する。

「JP1/Base」のサービスを停止してください。

「NNMi」のサービスを停止してください。

2. Hitachi PP Installer を実行する。

Hitachi PP Installer の指示に従ってインストールしてください。操作手順については、「[2.3.3 Hitachi PP Installer の使用方法](#)」を参照してください。

JP1/NETM/DM を使ったリモートインストールについて

JP1/IM - EG for NNMi は、JP1/NETM/DM を使ったリモートインストール (ソフトウェアの配布) に対応しています。JP1/NETM/DM を使った実際のリモートインストール方法については、マニュアル「JP1/NETM/DM 構築ガイド(Windows(R)用)」および「JP1/NETM/DM Client (UNIX(R)用)」を参照してください。

上書きインストールおよびバージョンアップインストールについて

JP1/IM - EG for NNMi を上書きインストールまたはバージョンアップインストールする場合は、JP1/IM - EG for NNMi のサービスを停止してください。

2.3.2 アンインストール手順

JP1/IM - EG for NNMi をアンインストールする手順を次に示します。

1. プログラムを終了する。

「JP1/Base」のサービスを停止してください。

「NNMi」のサービスを停止してください。

「JP1/IM - EG for NNMi」のサービスを停止してください。

2. ユーザーファイルをバックアップする。

定義ファイルやログファイルなども含めて、ディレクトリごと削除されます。必要に応じて、これらのファイルをバックアップしてください。

3. Hitachi PP Installer を実行する。

Hitachi PP Installer の指示に従ってアンインストールしてください。操作手順については、「[2.3.3 Hitachi PP Installer の使用方法](#)」を参照してください。

❗ 重要

- JP1/Base をアンインストールすると、JP1/IM - EG for NNMi の共通定義情報も削除されます。JP1/Base を再インストールしても、JP1/IM - EG for NNMi は動作しません。この場合、JP1/IM - EG for NNMi を上書きインストールする必要があります。
- JP1/IM - EG for NNMi のアンインストール後、次のディレクトリが残っていないか確認し、残っている場合は削除してください。
 - ・ /etc/opt/jpleg4nnmi
 - ・ /opt/jpleg4nnmi
 - ・ /var/opt/jpleg4nnmi

2.3.3 Hitachi PP Installer の使用方法

Hitachi PP Installer は、JP1/IM - EG for NNMi の提供媒体に格納されています。ここでは、次の操作について説明します。

- Hitachi PP Installer の起動方法
- Hitachi PP Installer を使用して JP1/IM - EG for NNMi をインストールする方法
- Hitachi PP Installer を使用して JP1/IM - EG for NNMi をアンインストールする方法
- Hitachi PP Installer を使用して現在インストールされている日立製品のバージョンを確認する方法

Hitachi PP Installer 実行時のユーザー権限

Hitachi PP Installer を使用するときはスーパーユーザー権限が必要です。スーパーユーザーでログインするか、またはsu コマンドでユーザーをスーパーユーザーに変更してください。

(1) Hitachi PP Installer の起動

Hitachi PP Installer の起動手順を次に示します。

1. ドライブに JP1/IM - EG for NNMi の提供媒体をセットする。

2. 提供媒体をマウントする。

マウント方法は、ご使用の OS、ハードウェアおよび環境によって異なります。マウント方法の詳細は OS のマニュアルを参照してください。

- Linux の場合

```
/bin/mount -r -o mode=0544 /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

下線部の提供媒体ファイルシステムのマウントディレクトリ名は、環境によって異なりますので注意してください。

3. Hitachi PP Installer を起動する。

提供媒体のディレクトリ名やファイル名は、マシン環境によっては記載されている内容と見え方が異なる場合があります。ls コマンドで確認の上、表示されたファイル名を入力してください。

- Linux の場合

```
/mnt/cdrom/linux/setup /mnt/cdrom
```

下線部にはご使用になる提供媒体のマウントディレクトリ名を指定してください。

4. 提供媒体をアンマウントする。

インストール完了後、アンマウントします。アンマウント方法の詳細は OS のマニュアルを参照してください。

- Linux の場合

```
/bin/umount /mnt/cdrom
```

下線部にはご使用になる提供媒体のマウントディレクトリ名を指定してください。

(2) JP1/IM - EG for NNMi のインストール

Hitachi PP Installer を使用して JP1/IM - EG for NNMi をインストールする方法を説明します。Hitachi PP Installer を起動すると、初期画面が表示されます。

図 2-2 HitachiPP Installer の初期画面例

```
L) List Installed Software.  
I) Install Software.  
D) Delete Software.  
Q) Quit.  
  
Select Procedure ==>  
  
+-----+  
CAUTION!  
YOU SHALL INSTALL AND USE THE SOFTWARE PRODUCT LISTED IN THE  
"List Installed Software." UNDER THE TERMS AND CONDITION OF  
THE SOFTWARE LICENSE AGREEMENT ATTACHED TO SUCH SOFTWARE PRODUCT.  
+-----+
```

初期画面で「I」を入力すると、インストールできるソフトウェアの一覧が表示されます。インストールしたいソフトウェアにカーソルを移動し、スペースバーで選択します。さらに「I」を入力すると、JP1/IM - EG for NNMi がインストールされます。インストール完了後、「Q」を入力すると初期画面に戻ります。

(3) JP1/IM - EG for NNMi のアンインストール

次のコマンドを実行して、Hitachi PP Installer を起動します。

```
/etc/hitachi_setup
```

Hitachi PP Installer の初期画面が表示されます。

初期画面で「D」を入力すると、アンインストールできるソフトウェアの一覧が表示されます。アンインストールしたいソフトウェアにカーソルを移動し、スペースバーで選択します。さらに「D」を入力すると、JP1/IM - EG for NNMi がアンインストールされます。アンインストール完了後、「Q」を入力すると初期画面に戻ります。

(4) バージョン情報の表示

次のコマンドを実行して、Hitachi PP Installer を起動します。

```
/etc/hitachi_setup
```

Hitachi PP Installer の初期画面が表示されます。

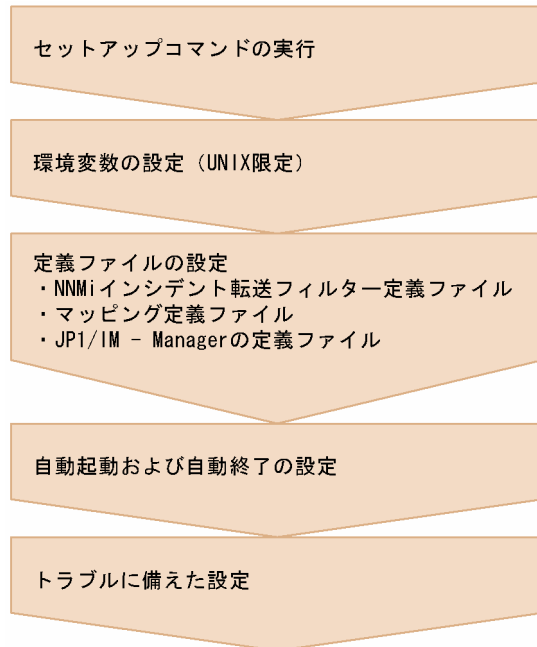
初期画面で「L」を入力すると、インストール済みの日立製品の一覧が表示されます。

2.4 セットアップ

この節では、JP1/IM - EG for NNMi のセットアップについて説明します。

セットアップの作業の流れを次の図に示します。

図 2-3 セットアップの作業の流れ



2.4.1 セットアップコマンドの実行

JP1/IM - EG for NNMi をインストールしたら、セットアップコマンド (`jegn_setup`) を実行して、JP1/IM - EG for NNMi の動作環境を設定します。

`jegn_setup` コマンドの詳細については、「7. コマンド」の「[jegn_setup](#)」を参照してください。

`jegn_setup` コマンドで設定する情報を次の表に示します。

表 2-4 `jegn_setup` コマンドで設定する情報

項目	内容	設定
NNMi ユーザー名	NNMi の Web サービスクライアント*のユーザー名を設定します。	○
NNMi パスワード	NNMi の Web サービスクライアント*のパスワードを設定します。	○
NNMi ポート番号	接続する NNMi のポート番号を設定します。	—
NNMi 言語	接続する NNMi の言語を設定します。	—

項目	内容	設定
NNMi インシデント再取得間隔	取得できる NNMi インシデントが 1 件も存在しない場合、または通信エラーなどで例外が発生した場合に、NNMi インシデントを再取得する間隔を設定します。	—
NNMi インシデント取得方法	JP1/IM - EG for NNMi のサービス起動時（初回起動時を除く）に、サービス停止中に発行された NNMi インシデントを取得する場合、何時間前の NNMi インシデントから取得するかを設定します。	—
TLS 使用可否	NNMi に接続するときに、TLS を使用するかどうかを設定します。	—

(凡例)

- ：必ず設定する
- ：任意で設定する

注※

NNMi の Web サービスクライアントの作成方法については、NNMi の各製品のマニュアルを参照してください。

上書きセットアップについて

jegn_setup コマンドの `-update` オプションを使用すると、JP1/IM - EG for NNMi の動作環境を変更できます。

2.4.2 環境変数の設定 (UNIX 限定)

UNIX の場合は、JP1/IM - EG for NNMi の動作する言語コードを設定する必要があります。言語コードの設定は環境変数ファイルと共通定義の両方に設定します。

環境変数の設定内容について次の点にご注意ください。

- LC_ALL が未設定のとき、LC_MESSAGES, LANG, LC_CTYPE* の設定内容は同一としてください。
- LC_ALL, LC_MESSAGES が未設定のとき、LANG, LC_CTYPE* の設定内容は同一としてください。

注※

LC_CTYPE は未設定でも可

それぞれの設定は、ローカルホスト内で統一して運用してください。設定方法を次に示します。

(1) 環境変数ファイルの設定

`/etc/opt/jp1eg4nnmi/conf/jegn_env.conf` ファイルを `vi` などを開き、先頭行の「LANG=」の後ろに、次の表に従って環境変数 LANG の値を設定します。

表 2-5 jegn_env.conf ファイルの環境変数 LANG に指定できる値

OS			使用する言語 種別	環境変数 LANG の値
種別	言語種別	文字コード		
Linux	日本語	UTF-8※1	日本語	ja_JP.UTF-8 または ja_JP.utf8
		SJIS※2		ja_JP.SJIS または ja_JP.sjis
	英語	C	英語	C

注※1

UTF-8 コードでは、次に示す記号を二つの文字コードで表現します。

円記号(¥) : 0x5C または 0xC2A5

チルダ(`) : 0x7E または 0xE280BE

これらの記号について、JP1/IM - EG for NNMi では 0x5C、および 0x7E の文字コードを使用します。

注※2

SUSE Linux の場合だけ有効です。

環境変数ファイルの設定は、次回 JP1/IM - EG for NNMi を起動したタイミングで有効になります。

(2) 共通定義への言語環境設定

1. JP1/Base の jp1bs_param.conf ファイルを編集する。

/etc/opt/jp1base/conf/jp1bs_param.conf ファイルをテキストエディターで開き、「LANG=」の後ろに、次の表に従って共通定義への設定値を指定します。

表 2-6 jp1bs_param.conf ファイルの LANG に指定できる値

OS			使用する言語 種別	環境変数 LANG の値
種別	言語種別	文字コード		
Linux	日本語	UTF-8	日本語	UTF-8
		SJIS※		SJIS
	英語	C	英語	C

注※ SUSE Linux の場合だけ有効です。

2. JP1/IM - EG for NNMi を停止する。

3. JP1/Base を停止する。

4. 次のコマンドを実行する。

```
/opt/jp1base/bin/jbssetcnf /etc/opt/jp1base/conf/jp1bs_param.conf
```

5. JP1/Base を起動する。

6. JP1/IM - EG for NNMi を起動する。

2.4.3 定義ファイルの設定

NNMi インシデントを JP1 イベントに変換して、JP1/IM で管理・監視するには、次の表に示す定義ファイルを設定する必要があります。

表 2-7 定義ファイルの設定

定義ファイル名	説明
NNMi インシデント転送フィルター定義ファイル	NNMi から取得した NNMi インシデントを JP1 イベントに変換するときの条件を定義するファイルです。
マッピング定義ファイル	NNMi インシデントの属性であるカテゴリおよびファミリーのラベルを、JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面に表示するためのマッピングを定義するファイルです。
JP1/IM - Manager の定義ファイル	JP1/IM - Manager で使用する定義ファイルです。次の二つがあります。 イベント拡張属性定義ファイル JP1/IM - EG for NNMi 固有の拡張属性を JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面に表示するための定義ファイルです。 モニター画面呼び出し定義ファイル JP1/IM - View の [イベントコンソール] 画面から、NNMi の画面をモニター起動するための定義ファイルです。

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルおよびマッピング定義ファイルは、JP1/IM - EG for NNMi が提供しているサンプルファイルをコピーして作成します。

JP1/IM - Manager の定義ファイルは、JP1/IM - Manager に同梱されています。通常は同梱されている定義ファイルを編集する必要はありません。JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面に表示させる属性を追加したい場合、モニター起動させる NNMi の Web ブラウザを変更する場合などに編集してください。

各定義ファイルの設定の詳細については、「[4. NNMi インシデントから JP1 イベントへの変換](#)」を参照してください。

2.4.4 自動起動および自動終了の設定

JP1/IM - EG for NNMi のサービスを起動する場合は、NNMi および JP1/Base のサービスを先に起動する必要があります。また、JP1/IM - EG for NNMi のサービスを終了する場合は、NNMi および JP1/Base のサービスより先に終了する必要があります。

JP1/IM - EG for NNMi の自動起動および自動終了を設定すると、サービスの起動順序および終了順序を、あらかじめ指定することができます。必要に応じて、自動起動および自動終了を設定してください。

自動起動と自動終了の設定は、OS によって異なります。

(1) Windows の場合

Windows の場合は、JP1/Base の起動管理機能を使用して、JP1/IM - EG for NNMi の自動起動および自動終了を設定します。起動管理機能は、あらかじめ設定した順序に従って、サービスを起動または終了する機能です。起動管理機能の詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

自動起動を設定する

JP1/Base の起動順序定義ファイル (JP1SVPRM.DAT) に、JP1/IM - EG for NNMi の定義を記述することで、自動起動を設定します。JP1/IM - EG for NNMi の定義を次に示します。

```
[Jp1IMEGforNNMi]
Name=JP1/IM - EG for NNMi
ServiceName=JP1_IM-EG_for_NNMi
StopCommand=<JP1/IM - EG for NNMi Path>%bin%jegn_spm�_stop.exe
```

新規インストール時には、行の先頭に「#」を付けてコメントアウトされているので、「#」を削除してください。

記述された順序でサービスが起動するため、起動順序定義ファイルを編集する場合は、JP1/Base の定義よりもあとの行に JP1/IM - EG for NNMi の定義を記述してください。

自動終了を設定する

JP1/Base の起動管理機能を使用して JP1/IM - EG for NNMi の自動終了を設定するには、同一マシン上に JP1/Power Monitor がインストールされている必要があります。JP1/Power Monitor の詳細については、マニュアル「JP1/Power Monitor」を参照してください。

JP1/Power Monitor を使って電源をオフにするときに、JP1/Base の起動順序定義ファイルに記述したサービスのうち、終了コマンド (StopCommand=) の記述されたサービスが起動時と逆の順序で終了します。

なお、終了コマンドは絶対パスで指定してください。新規インストール時には、次のように記述されています。

```
StopCommand=<JP1/IM - EG for NNMi Path>%bin%jegn_spm�_stop.exe
```

<JP1/IM - EG for NNMi Path>の個所を、実際に JP1/IM - EG for NNMi をインストールしたパスに修正してください。インストールしたパスに半角スペースが含まれる場合は、「StopCommand=」以降の文字列を「"」で囲ってください。

(2) UNIX の場合

UNIX の場合は、自動起動スクリプトおよび自動終了スクリプトを使用して、JP1/IM - EG for NNMi の自動起動および自動終了を設定します。

自動起動を設定する

次に示すコマンドを実行して、自動起動スクリプト (jegn_start) をコピーします。

```
# cd /etc/opt/jp1eg4nnmi
# cp -p jegn_start.model jegn_start
```

上記のコマンドを実行すると、システムの起動時に自動起動スクリプトが呼び出され、JP1/IM - EG for NNMi が自動で起動します。自動起動スクリプトの詳細については、「7. コマンド」の「[jegn_start \(UNIX 限定\)](#)」を参照してください。

自動終了を設定する

次に示すコマンドを実行して、自動終了スクリプト (jegn_stop) をコピーします。

```
# cd /etc/opt/jp1eg4nnmi
# cp -p jegn_stop.model jegn_stop
```

上記のコマンドを実行すると、システムの終了時に自動終了スクリプトが呼び出され、JP1/IM - EG for NNMi が自動で終了します。自動終了スクリプトの詳細については、「7. コマンド」の「[jegn_stop \(UNIX 限定\)](#)」を参照してください。

なお、自動起動スクリプトおよび自動終了スクリプトでは、デフォルトでは環境変数LANGにCが設定されています。スクリプト実行時の出力メッセージの言語を変更したい場合は、スクリプト内の環境変数LANGを設定している行を編集してください。

2.4.5 トラブルに備えた設定

JP1/IM - EG for NNMi は、JP1/IM - EG for NNMi 自身にトラブルが発生した場合に備えて、トラブルを解決するための調査資料を採取するツールや、プロセスの異常終了時に自動でプロセスを再起動する機能などを提供しています。

ここでは、JP1/IM - EG for NNMi のトラブルに備えた設定について説明します。

(1) トラブル発生時の資料採取の準備 (Windows 限定)

JP1/IM-EG for NNMi のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合、エラーダイアログボックスが表示されている状態で、次の手順でユーザーダンプを採取します。

1. タスクマネージャを起動する。

タスクマネージャは次のどちらかの手順で起動できます。

- タスクバーの空いている場所で右クリックをして「タスクマネージャ」を選択する
- [Ctrl] + [Shift] + [Esc] キーを押してタスクマネージャを起動する

2. [プロセス] タブをクリックする。

3. アプリケーションエラーで停止した JP1/IM-EG for NNMi のプロセス名を右クリックし、「ダンプファイルの生成」を選択する。

4. ユーザーダンプの出力先パスを示すダイアログボックスが表示されるので、そこから採取する。

❗ 重要

エラーダイアログボックスを消してしまうと正常なダンプは取得されないため、ユーザーダンプを採取できなくなってしまう可能性があります。誤って採取前にエラーダイアログボックスを（[OK] ボタンなどをクリックして）消してしまった場合は、現象を再現させてからユーザーダンプを採取してください。

(2) プロセス異常終了時の再起動の設定

JP1/IM - EG for NNMI を起動するとプロセスが生成されます。JP1/IM - EG for NNMI では、何らかの理由でプロセスが異常終了した場合に、自動でプロセスを再起動するように設定できます。

プロセスを再起動するための設定手順を次に示します。

1. プロセス再起動を設定する。

拡張起動プロセス定義ファイル (`jegn_service_0700.conf`) を編集します。格納先を次に示します。

Windows の場合

- ・物理ホスト：EG for NNMI パス¥conf
- ・論理ホスト：共有フォルダ¥JP1EG4NNMI¥conf

UNIX の場合

- ・物理ホスト：`/etc/opt/jp1eg4nnmi/conf`
- ・論理ホスト：共有ディレクトリ/`jp1eg4nnmi/conf`

「再起動可否」のパラメーターは「|」で区切られた 4 番目の値で、0（再起動しない：デフォルト）または 1（再起動する）を設定します。ほかのパラメーターの値は変更しないでください。

拡張起動プロセス定義ファイルの詳細については、「[付録 F.1 拡張起動プロセス定義ファイル \(jegn_service_0700.conf\)](#)」を参照してください。

2. 設定内容を反映する。

JP1/IM - EG for NNMI を再起動するか、`jegn_spm�_reload` コマンドを実行すると、設定内容が反映されます。`jegn_spm�_reload` コマンドの詳細については、「7. コマンド」の「`jegn_spm�_reload`」を参照してください。

3. Microsoft へのエラー報告を抑止する (Windows 限定)。

Windows の場合は、エラー検知時に表示される Microsoft へのエラー報告のダイアログボックスが表示されないように設定します。ダイアログボックスが表示されると、プロセスの再起動ができないためです。

Windows Server 2012 の場合

1. [コントロールパネル] - [システムとセキュリティ] - [アクションセンター] - [メンテナンス] を選択する。
2. [問題のレポートの解決策を確認] で [設定] をクリックする。

3. [Windows エラー報告の構成] ダイアログボックスで、[レポートを送信せず、この確認画面も今後表示しません] を選択する。
4. [OK] ボタンをクリックする。

Windows Server 2016 の場合

1. [ファイル名を指定して実行] で「gpedit.msc」と入力して [OK] ボタンをクリックする。
2. ローカルグループポリシーエディターで、[コンピュータの構成] - [管理用テンプレート] - [Windows コンポーネント] - [Windows エラー報告] をクリックする。
3. 画面右側の [Windows エラー報告を無効にする] を右クリックして [編集] を選択する。
4. 設定画面で [有効] のラジオボタンをオンにする。
5. [OK] ボタンをクリックする。

(3) プロセス異常検知時の JP1 イベントの発行の設定

JP1/IM - EG for NNMI では、プロセスの異常時や異常終了からの自動復旧時に JP1 イベントを発行できます。JP1 イベントを発行することによって、JP1/IM - EG for NNMI 自身のトラブルを履歴管理できるようになります。

JP1 イベントを発行するための設定手順を次に示します。

1. JP1 イベント発行を設定する。

JP1/IM - EG for NNMI パラメーター定義ファイル (jegn_param_V7.conf) を編集します。格納先を次に示します。

Windows の場合

- ・物理ホスト：EG for NNMI パス¥conf
- ・論理ホスト：共有フォルダ¥JP1EG4NNMI¥conf

UNIX の場合

- ・物理ホスト：/etc/opt/jp1eg4nnmi/conf
- ・論理ホスト：共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/conf

このファイルの「SEND_PROCESS_TERMINATED_ABNORMALLY_EVENT」と「SEND_PROCESS_RESTART_EVENT」が JP1 イベント発行の設定パラメーターです。JP1 イベントを発行するには、値を「dword:1」に変更します。

JP1/IM - EG for NNMI パラメーター定義ファイルの詳細については、「付録 F.2 JP1/IM - EG for NNMI パラメーター定義ファイル (jegn_param_V7.conf)」を、参照してください。

2. JP1/Base の jbssetcnf コマンドを実行して、定義内容を反映する。

jbssetcnf コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

3. JP1/IM - EG for NNMI を再起動する。

再起動後に設定内容が反映されます。

3

クラスタシステムでの運用と環境構築

この章では、JP1/IM - EG for NNMi のクラスタ運用およびセットアップ方法について説明します。
クラスタシステムの概要については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

3.1 環境設定の流れ

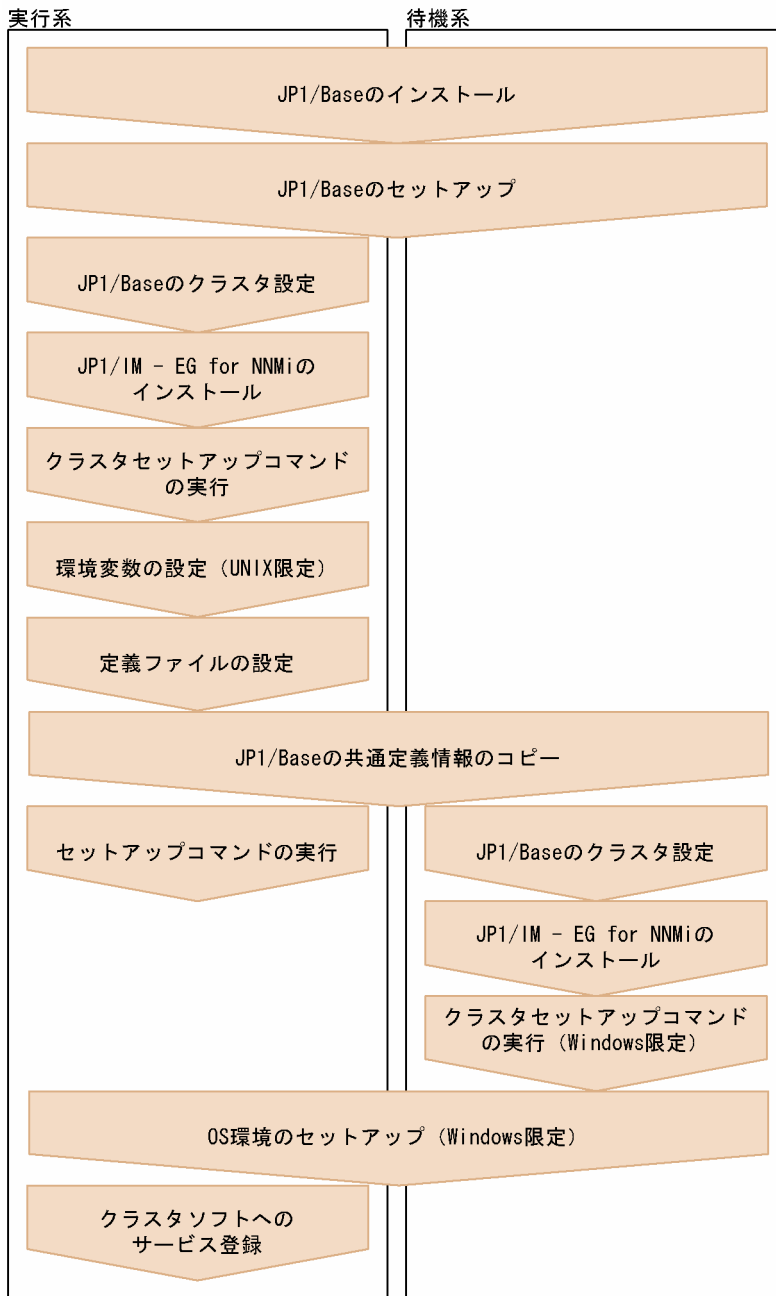
JP1/IM - EG for NNMi は、クラスタシステムでの運用に対応しています。JP1/IM - EG for NNMi をクラスタ運用することによって、サーバ障害などが発生しても実行系から待機系に処理を引き継ぐことができます。

JP1/IM - EG for NNMi をクラスタシステムで運用する場合には、JP1/IM - EG for NNMi がご使用になるクラスタソフトに対応しているか確認してから運用してください。

この節では、クラスタシステムで運用する場合の、環境設定の作業の流れについて説明します。

なお、インストールおよびセットアップをするユーザーは、Windows の場合は Administrators 権限、UNIX の場合はスーパーユーザー権限が必要です。

図 3-1 環境設定の作業の流れ（クラスタ運用）



JP1/Base のインストール

JP1/Base のインストール，セットアップ，およびクラスタ設定の手順については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

NNMi のインストール

JP1/IM - EG for NNMi をクラスタシステムで運用する場合，まず最初に NNMi をインストールしてセットアップを実行する必要があります。NNMi のセットアップ方法については，NNMi のマニュアル，およびリリースノートを参照してください。

また，JP1/IM - EG for NNMi のセットアップ時に NNMi の設定情報が必要になります。セットアップ時に必要な NNMi の設定情報については，「2.1 インストールとセットアップの流れ」の「表 2-1 セットアップ時に必要な NNMi の設定情報」を参照してください。

3.2 論理ホストのインストールとセットアップ

この節では、JP1/IM - EG for NNMi の論理ホストのインストールおよびセットアップについて説明します。

JP1/IM - EG for NNMi は、NNMi および JP1/Base と同一の論理ホストで動作する必要があります。

作業を始める前に、クラスタシステムについて次の情報を確認してください。

表 3-1 論理ホストのインストールとセットアップ前の確認

確認項目	説明
論理ホスト名	JP1/Base および NNMi を実行する論理ホストのホスト名
論理 IP アドレス	論理ホスト名に対応する IP アドレス
共有フォルダ (共有ディレクトリ)	論理ホストの JP1 の実行環境ファイル一式を格納する共有ディスク上のフォルダ (ディレクトリ)

クラスタ運用の前提条件とサポート範囲の詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

確認ができれば、実行系サーバと待機系サーバのインストールとセットアップを始めます。

❗ 重要

- Windows の場合は実行系サーバ・待機系サーバとも、同じ名称のドライブおよびフォルダにインストールしてください。また、共有ディスク上にはインストールしないでください。
- クラスタシステムで JP1/IM - EG for NNMi の設定をする場合は、物理ホストで動作している JP1/IM - EG for NNMi を停止してください。物理ホストの JP1/IM - EG for NNMi が起動しているときにクラスタシステムの設定をすると、論理ホストのサービスが正常に動作しなくなります。その場合は、サーバを再起動して回復する必要があります。

3.2.1 実行系サーバのインストールとセットアップ

実行系サーバのインストールとセットアップ手順を次に示します。

1. JP1/Base をインストールおよびセットアップする。

JP1/Base のインストールおよびセットアップ手順については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

2. JP1/Base のクラスタ設定をする。

実行系の論理ホストの設定をします。手順の詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

なお、UNIX 限定のプロセス強制終了コマンド (`jegn_killall.cluster`) で指定できる論理ホスト名は、32 バイトまでです。名称が 33 バイト以上の論理ホストのプロセスは強制終了できません。

3. JP1/IM - EG for NNMi をインストールする。

JP1/IM - EG for NNMi のインストール手順については、「[2.2 インストール \(Windows の場合\)](#)」または「[2.3 インストール \(UNIX の場合\)](#)」を参照してください。

4. OS 環境をセットアップする (Windows 限定)。

Windows の場合、エラー発生時にワトソン博士のダイアログボックスや Microsoft へのエラー報告のダイアログボックスが表示されると、JP1/IM - EG for NNMi が正常にフェールオーバーできないおそれがあります。そのため、これらの表示を抑止してください。抑止方法については、「[2.4.5\(2\) プロセス異常終了時の再起動の設定](#)」を参照してください。

また、トラブル発生時にトラブルの要因を調査するために、メモリーダンプやクラッシュダンプが必要になることがあります。万が一に備えて、これらのダンプファイルを出力するように設定しておくことをお勧めします。設定方法については、「[2.4.5\(1\) トラブル発生時の資料採取の準備 \(Windows 限定\)](#)」を参照してください。

5. クラスタセットアップコマンドを実行する。

クラスタセットアップコマンド (`jegn_setup_cluster`) を実行して、JP1/IM - EG for NNMi のクラスタ運用時の動作環境を設定します。

```
jegn_setup_cluster -h 論理ホスト名 -d 共有フォルダ
```

`jegn_setup_cluster` コマンドは、必ず共有ディスクをマウントした状態で実行してください。

`jegn_setup_cluster` コマンドの詳細については、「[7. コマンド](#)」の「`jegn_setup_cluster`」を参照してください。

注意

タイムゾーンは、クラスタ内で統一して運用してください。

6. 環境変数の設定 (UNIX 限定)

UNIX の場合は、JP1/IM - EG for NNMi の動作する言語コードを設定する必要があります。言語コードの設定は環境変数ファイルと共通定義の両方に設定します。

- 環境変数ファイルの設定

次のファイルに対して、言語コードを設定します。

共有ディレクトリ/`jp1eg4nnmi/conf/jegn_env.conf`

設定方法については、「[2.4.2\(1\) 環境変数ファイルの設定](#)」を参照してください。

- 共通定義への言語環境設定

設定方法については、「[2.4.2\(2\) 共通定義への言語環境設定](#)」を参照してください。

7. 定義ファイルを設定する。

次に示す定義ファイルを設定します。

- NNMi インシデント転送フィルター定義ファイル

- マッピング定義ファイル
- JP1/IM - Manager の定義ファイル

定義ファイルの設定の詳細については、「4. NNMi インシデントから JP1 イベントへの変換」を参照してください。

8. JP1/Base の共通定義情報をコピーする。

実行系サーバの JP1/Base の共通定義情報を待機系サーバにコピーします。

JP1/Base の `jbsgetcnf` コマンドを実行して、実行系サーバの共通定義情報を退避してください。

`jbsgetcnf -h 論理ホスト名 > 退避ファイル名`

`jbsgetcnf` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

9. セットアップコマンドを実行する。

セットアップコマンド (`jegn_setup`) を実行して、論理ホストの JP1/IM - EG for NNMi の動作環境を設定します。

セットアップコマンドの実行については「2.4.1 セットアップコマンドの実行」を、`jegn_setup` コマンドの詳細については「7. コマンド」の「`jegn_setup`」を参照してください。

10. クラスタソフトへサービスを登録する。

論理ホストの JP1/IM - EG for NNMi および JP1/Base をクラスタソフトに登録して、クラスタソフトからの制御で起動および停止するように設定します。詳細については、「3.3 クラスタソフトへの登録」を参照してください。

3.2.2 待機系サーバのインストールとセットアップ

待機系サーバのインストールとセットアップ手順を次に示します。

1. JP1/Base をインストールおよびセットアップする。

JP1/Base のインストールおよびセットアップ手順については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

2. JP1/Base の共通定義情報をコピーする。

実行系サーバの JP1/Base の共通定義情報を待機系サーバにコピーします。

実行系サーバで退避した共通定義情報を、FTP など任意の方法で待機系サーバにコピーしてください。実行系サーバからコピーした退避ファイルを使って、JP1/Base の `jbssetcnf` コマンドで共通定義情報を設定します。

`jbssetcnf 退避ファイル名`

`jbssetcnf` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

3. JP1/Base のクラスタ設定をする。

待機系の論理ホストの設定をします。手順の詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

4. JP1/IM - EG for NNMi をインストールする。

JP1/IM - EG for NNMi のインストール手順については、「[2.2 インストール \(Windows の場合\)](#)」または「[2.3 インストール \(UNIX の場合\)](#)」を参照してください。

5. OS 環境をセットアップする (Windows 限定)。

Windows の場合、エラー発生時にワトソン博士のダイアログボックスや Microsoft へのエラー報告のダイアログボックスが表示されると、JP1/IM - EG for NNMi が正常にフェールオーバーできないおそれがあります。そのため、これらの表示を抑止してください。抑止方法については、「[2.4.5\(2\) プロセス異常終了時の再起動の設定](#)」を参照してください。

また、トラブル発生時にトラブルの要因を調査するために、メモリーダンプやクラッシュダンプが必要になることがあります。万一に備えて、これらのダンプファイルを出力するように設定しておくことをお勧めします。設定方法については、「[2.4.5\(1\) トラブル発生時の資料採取の準備 \(Windows 限定\)](#)」を参照してください。

6. クラスタセットアップコマンドを実行する (Windows 限定)。

Windows の場合、クラスタセットアップコマンド (`jegn_setup_cluster`) を実行して、JP1/IM - EG for NNMi のクラスタ運用時の動作環境を設定します。

```
jegn_setup_cluster -h 論理ホスト名
```

`jegn_setup_cluster` コマンドの詳細については、「[7. コマンド](#)」の「`jegn_setup_cluster`」を参照してください。

注意

タイムゾーンは、クラスタ内で統一して運用してください。

3.2.3 設定変更時の作業

JP1/IM - EG for NNMi では、クラスタシステムでの運用開始後に実行系サーバの設定を変更しても、待機系サーバの設定を変更する必要はありません。

3.3 クラスタソフトへの登録

JP1/IM - EG for NNMi をクラスタ運用するには、論理ホストの JP1/IM - EG for NNMi および JP1/Base をクラスタソフトに登録して、クラスタソフトからの制御で起動および停止するように設定します。

この節では、JP1/IM - EG for NNMi および JP1/Base をクラスタソフトに登録する方法について説明します。

なお、NNMi のクラスタソフト登録方法について、NNMi のマニュアル、およびリリースノートを参照してください。また、JP1/IM - EG for NNMi と NNMi の起動および停止の順序または依存は、NNMi が JP1/IM - EG for NNMi より先に起動し、後に停止するように設定します。

クラスタソフトへの登録方法は、OS によって異なります。

3.3.1 クラスタソフトへの登録 (Windows の場合)

Windows 環境で、論理ホストの JP1/IM - EG for NNMi および JP1/Base をクラスタソフトに登録する方法について説明します。

クラスタソフトに登録する設定内容を次の表に示します。

表 3-2 クラスタソフトに登録する設定内容

項番	名前	サービス名	依存関係
1	JP1/Base Event 論理ホスト名	JP1_Base_Event 論理ホスト名	IP アドレス 物理ディスクリソース
2	JP1/Base 論理ホスト名	JP1_Base_論理ホスト名	項番 1 のクラスタリソース
3	JP1/IM-EG for NNMi 論理ホスト名	JP1_IM-EG_for_NNMi_論理ホスト名	項番 1, 項番 2 および NNMi のクラスタリソース

NNMi のクラスタリソースについては、NNMi のマニュアルを参照してください。

(1) クラスタソフトへの登録

注意事項

- JP1 の再起動について
クラスタ運用の場合は、JP1 のプロセス管理による再起動を使用しないでください。クラスタソフトからの制御で JP1 を再起動してください。

(a) MSCS の場合

JP1/IM - EG for NNMi および JP1/Base のサービスを、MSCS のリソースとして登録します。各リソースの設定内容を次に示します。[] は MSCS の設定項目です。

- [リソースの種類] は「汎用サービス」として登録します。
- [名前] [サービス名] [依存関係] を「表 3-2 クラスタソフトに登録する設定内容」のとおりを設定します。なお、[名前] はサービスを表示するときの名称で、[サービス名] は MSCS から制御するサービスを指定するときの名称です。
- [起動パラメータ] および [レジストリ複製] は設定しません。
- プロパティの [詳細設定] ページは、JP1/IM - EG for NNMi のトラブル時にフェールオーバーするかしないかの運用に合わせて設定してください。
例えば、JP1/IM - EG for NNMi のトラブル時に、フェールオーバーするように設定するには、[再開する] チェックボックスと [グループに適用する] チェックボックスをチェックし、3回を目安に再起動試行回数の [しきい値] を設定してください。

(b) サービスの起動および停止コマンドを登録する場合

JP1/IM - EG for NNMi および JP1/Base のサービスを、起動および停止するようクラスタソフトに登録してください。例えば、「表 3-2 クラスタソフトに登録する設定内容」の「名前」の項目で示すサービスを、`net` コマンドで起動および停止するように設定してください。

なお、JP1/IM - EG for NNMi および JP1/Base の動作確認をする場合は、次のコマンドを実行してください。

- `jegn_spmd_status`
JP1/IM - EG for NNMi の動作確認をする場合
- `jbs_spmd_status`
JP1/Base の動作確認をする場合
- `jevstat`
JP1/Base のイベントサービスの動作確認をする場合

`jegn_spmd_status` コマンドの詳細については、「7. コマンド」の「`jegn_spmd_status`」を参照してください。`jbs_spmd_status` および `jevstat` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

(2) リソースの起動および停止順序の設定

論理ホストの JP1/IM - EG for NNMi および JP1/Base を実行するには、共有ディスクおよび論理 IP アドレスを使用できる状態にする必要があります。

クラスタソフトの制御によって、次に示す動作をするように起動および停止の順序または依存関係を設定してください。

- 論理ホストの起動時
 1. 共有ディスクおよび論理 IP アドレスを割り当てて使用できる状態にする。
 2. JP1/Base, NNMi, JP1/IM - EG for NNMi の順に起動する。

- 論理ホストの停止時
 1. JP1/IM - EG for NNMi, NNMi, JP1/Base の順に停止する。
 2. 共有ディスクおよび論理 IP アドレスの割り当てを解除する。

3.3.2 クラスタソフトへの登録 (UNIX の場合)

UNIX 環境で、論理ホストの JP1/IM - EG for NNMi および JP1/Base をクラスタソフトに登録する方法について説明します。

(1) クラスタソフトに登録するスクリプトの作成

UNIX のクラスタソフトでは、通常、スクリプトなどによってアプリケーションを制御するツールを作成して、クラスタソフトに登録します。このときのスクリプトには一般的に、「起動」「停止」「動作監視」「強制停止」の機能が必要です。

ここでは、スクリプト設計に必要な JP1/IM - EG for NNMi の情報を説明します。この情報を基に、クラスタソフトの仕様に合わせて、JP1/IM - EG for NNMi を制御するスクリプトを作成し、クラスタソフトに登録してください。

表 3-3 クラスタ登録でのスクリプト設計のための詳細情報

登録する機能	説明
起動	<p>JP1/IM - EG for NNMi を起動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 使用するコマンド 「jegn_start.cluster 論理ホスト名」 • コマンドの終了タイミング 起動コマンドは、JP1/IM - EG for NNMi が起動するのを待って終了します。ただし、何らかの問題によって、タイムアウト時間（標準 60 秒）を過ぎても起動処理が完了しない場合は、起動処理の途中でコマンドが終了します。この場合、起動処理は中断されないで、起動処理を続けている状態のままコマンドが終了します。 • コマンドの結果判定 JP1/IM - EG for NNMi を起動した結果は、後述する動作監視の方法によって判定してください。通常は、クラスタソフトの動作監視によって判定します。なお、起動コマンドの戻り値は、0（正常終了）と 1（引数異常）のため、戻り値での結果判定はできません。
停止	<p>JP1/IM - EG for NNMi を停止します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 使用するコマンド 「jegn_stop.cluster 論理ホスト名」 • コマンドの終了タイミング 停止コマンドは、JP1/IM - EG for NNMi が停止するのを待って終了します。ただし、何らかの問題によって、タイムアウト時間（標準 60 秒）を過ぎても停止処理が完了しない場合は、停止処理の途中でコマンドが終了します。この場合、停止処理は中断されないで、停止処理を続けている状態のままコマンドが終了します。 • コマンドの結果判定

登録する機能	説明
停止	<p>JP1/IM - EG for NNMi を停止した結果は、後述する動作監視の方法によって判定してください。なお、停止コマンドの戻り値は、0（正常終了）と1（引数異常）のため、戻り値での結果判定はできません。</p> <p>なお、停止コマンドが終了したあと、後述する強制停止コマンドを実行することをお勧めします。これは、何らかの問題がある場合でも確実にプロセスを終了させ、フェールオーバーが失敗することを防ぐためです。</p>
動作監視※	<p>JP1/IM - EG for NNMi が正常に動作していることを監視します。</p> <p>正常に動作していることは、<code>jegn_spmdd_status</code> コマンドの戻り値によって判定します。このコマンドでは、各プロセスが動作しているか、動作していないかで動作状態を判定しています。</p> <p>なお、動作監視の機能を提供していないクラスタソフトもあります。また、JP1/IM - EG for NNMi のトラブル時にフェールオーバーする必要がない場合、この機能は登録しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用するコマンド 「<code>jegn_spmdd_status -h 論理ホスト名</code>」 動作監視の結果判定 各戻り値の判定方法を次に示します。 戻り値=0（すべて動作） JP1/IM - EG for NNMi は正常に動作しています。 戻り値=1（エラー） 回復不能なエラーが発生しました。異常と判定してください。 注意 共有ディスクがオフラインの待機系サーバで <code>jegn_spmdd_status</code> コマンドを実行すると、共有ディスクがないため戻り値が1になります。 戻り値=4（一部停止） JP1/IM - EG for NNMi の一部のプロセスが、何らかの問題によって停止しています。異常と判定してください。 戻り値=8（すべて停止） JP1/IM - EG for NNMi のプロセスが何らかの問題によって停止しています。異常と判定してください。 戻り値=12（リトライ可能エラー） <code>jegn_spmdd_status</code> コマンドによる動作状態の確認中に、リトライによって復旧可能なエラーが発生しました。一定回数を限度に、動作状態の確認をリトライしてください。
強制停止	<p>JP1/IM - EG for NNMi を強制的に停止し、使用中のリソースを解放します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用するコマンド 「<code>jegn_killall.cluster 論理ホスト名</code>」 <code>jegn_killall.cluster</code> コマンドを実行すると、JP1/IM - EG for NNMi の終了処理を一切行わずに、各プロセスを強制的に停止します。 注意 強制停止をする前に、停止コマンドによって JP1/IM - EG for NNMi を停止してください。

注※

Windows と UNIX の場合、使用するコマンドは同じですが、動作確認に関する JP1 の動作は異なりますので注意してください。

Windows の場合は、Windows のサービス制御との関連によって、UNIX の場合とは動作が異なります。Windows では、プロセスの一部が停止すると、JP1 のプロセス管理が自動的にすべての各プロセスを停止して、サービスを停止状態にします。

サービスの停止によって異常と判定するか、jegn_spm�_status コマンドの戻り値が 8 になるのを待ってから異常と判定してください。

JP1 の再起動について

クラスタ運用の場合は、JP1 のプロセス管理による再起動を使用しないでください。クラスタソフトからの制御で JP1 を再起動してください。

(2) リソースの起動および停止順序の設定

論理ホストの JP1/IM - EG for NNMi および JP1/Base を実行するには、共有ディスクおよび論理 IP アドレスを使用できる状態にする必要があります。

クラスタソフトの制御によって、次に示す動作をするように起動および停止の順序または依存関係を設定してください。

- 論理ホストの起動時
 1. 共有ディスクおよび論理 IP アドレスを割り当てて使用できる状態にする。
 2. JP1/Base, NNMi, JP1/IM - EG for NNMi の順に起動する。
- 論理ホストの停止時
 1. JP1/IM - EG for NNMi, NNMi, JP1/Base の順に停止する。
 2. 共有ディスクおよび論理 IP アドレスの割り当てを解除する。

3.4 論理ホストの削除

論理ホストを削除するための手順について説明します。論理ホストの削除手順は OS によって異なります。

Windows の場合

JP1/Base の `jp1bshasetup` コマンドを使用します。次の手順で削除してください。

1. `jp1bshasetup.exe` を実行する。
2. [Base クラスタ構成の設定] 画面の [論理ホストの削除] ボタンをクリックする。
3. 削除したい論理ホスト名を選択する。
4. [次へ] ボタンをクリックする。
5. 削除内容を確認し, [完了] ボタンをクリックする。

UNIX の場合

JP1/Base の `jbsunsetcnf` コマンドを使用します。次のコマンドを実行して削除してください。

```
/opt/jp1base/bin/jbsunsetcnf -i -h 論理ホスト名
```

なお, 論理ホストを削除すると, JP1/Base および JP1/Base を前提とする各製品の論理ホストも一括して削除されます。論理ホストから JP1/IM - EG for NNMi だけを削除する場合は, 実行系/待機系のマシンで次のコマンドを実行して共通定義を削除してください。

- [論理ホスト名¥JP1EG4NNMI¥] キー
`jbsunsetcnf -h 論理ホスト名 -c JP1EG4NNMI`

ただし, 共有ディスク上の共有ファイル (共有フォルダ) は削除されません。手作業で削除してください。

`jp1bshasetup` および `jbsunsetcnf` コマンドの詳細については, マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

3.5 クラスタ運用に関する注意事項

クラスタ運用に関する注意事項を次に示します。

- クラスタシステムで多重起動をする場合、多重起動する論理ホストの数だけ、システムのリソースが必要になります。
- JP1 イベントの発行中に系切り替えが発生した場合は、JP1 イベントが重複して登録されることがあります。
- クラスタシステムで JP1/IM - EG for NNMi をアンインストールする場合は、先に論理ホストの削除を実施してください。

詳細は「[3.4 論理ホストの削除](#)」を参照してください。

4

NNMi インシデントから JP1 イベントへの変換

この章では、NNMi インシデントを JP1 イベントに変換するための、定義ファイルの設定について説明します。

4.1 NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの作成

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルは、NNMi から取得した NNMi インシデントを JP1 イベントに変換するときの条件を設定するファイルです。次に示す項目を設定します。

- JP1 イベントに変換する NNMi インシデントの条件（フィルター条件）
- NNMi インシデントの属性と JP1 イベントの属性の対応づけ（マッピング条件）

フィルター条件と一致する NNMi インシデントだけが、設定したマッピング条件で JP1 イベントに変換され、JP1/Base のイベント DB に登録されます。

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの作成

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルは、インストール時には存在しません。サンプルファイルをコピーしてリネームしたあと、定義内容を編集して作成してください。NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルを作成しないと、NNMi インシデントは JP1 イベントに変換されません。

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルとサンプルファイルの、ファイル名と格納先を次に示します。

ファイル名

imevtgw_nnmi_forward_filter.conf

imevtgw_nnmi_forward_filter.conf.sample（サンプルファイル）

なお、UNIX 版で条件に日本語を設定する場合は、「[2.4.2 環境変数の設定（UNIX 限定）](#)」で指定した文字コードでエンコードしてください。

格納先

Windows の場合

- 物理ホスト：EG for NNMi パス¥conf
- 論理ホスト：共有フォルダ¥JP1EG4NNMI¥conf

UNIX の場合

- 物理ホスト：/etc/opt/jp1eg4nnmi/conf
- 論理ホスト：共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/conf

重要

JP1 イベントに変換される NNMi インシデントの各属性の値は、JP1/IM - EG for NNMi が、NNMi インシデントを取得した時点での値となります。JP1 イベントに変換された後、NNMi インシデントの情報を更新した場合、その更新された情報は、JP1 イベントには反映されませんので注意してください。

4.1.1 NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの形式

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルは、次の二つのブロックから構成されます。

- フィルター条件ブロック

JP1 イベントに変換する NNMi インシデントの条件（フィルター条件）を設定します。フィルター条件ブロックは必ず記述してください。

- マッピングブロック

NNMi インシデントの属性と JP1 イベントの属性の対応づけ（マッピング条件）を設定します。マッピングブロックは省略することもできます。

フィルター条件ブロックとマッピングブロックを合わせたブロックを、転送条件ブロックと呼びます。NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルに複数の転送条件ブロックが記述された場合、ファイルの記述順（上から下）に比較処理が実施されます。転送条件ブロック内のどれかの条件を満たした場合、以降の比較処理は実施されません。すべての転送条件ブロックの条件を満たさない場合は、JP1 イベントへ変換されません。

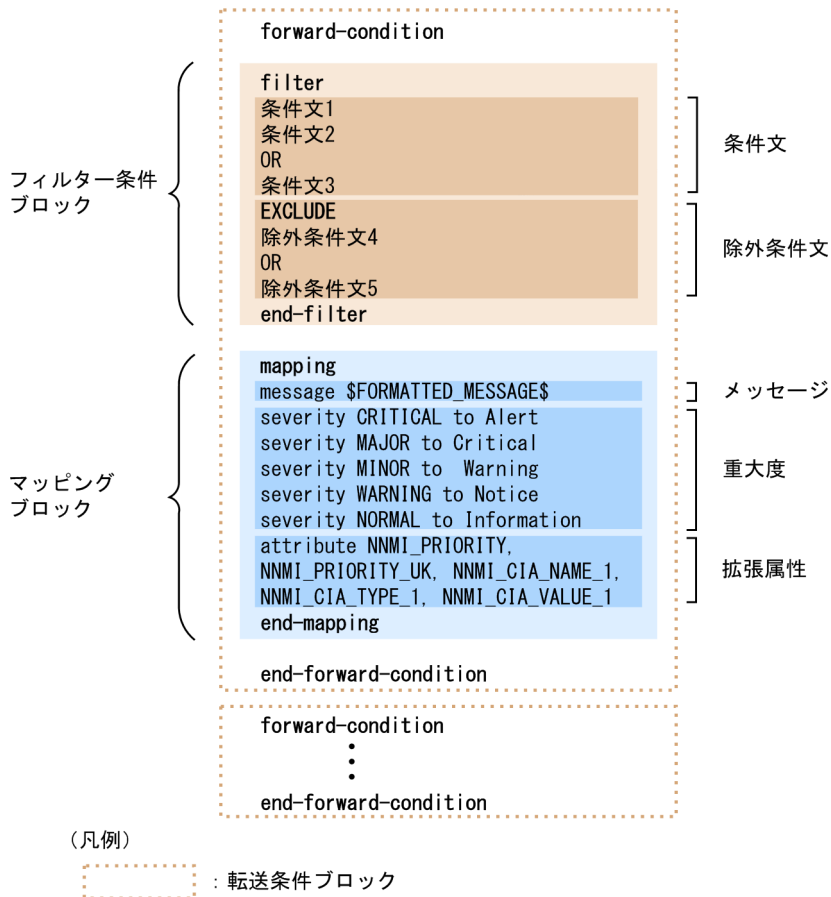
NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの構成を次の表に示します。

表 4-1 NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの構成

ブロック		設定項目	内容
転送条件ブロック	フィルター条件ブロック	条件文	JP1 イベントへの変換対象にする NNMi インシデントの条件を設定します。
		除外条件文	JP1 イベントへの変換対象から除外する NNMi インシデントの条件を設定します。
	マッピングブロック	メッセージ	メッセージのマッピングを設定します。
		重大度	重大度のマッピングを設定します。
		拡張属性	拡張属性のマッピングを設定します。

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの記述例を次の図に示します。

図 4-1 NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの記述例



forward-condition：転送条件ブロックの開始を宣言します。

filter：フィルター条件ブロックの開始を宣言します。

EXCLUDE：除外条件を意味します。

end-filter：フィルター条件ブロックの終了を宣言します。

mapping：マッピングブロックの開始を宣言します。

end-mapping：マッピングブロックの終了を宣言します。

end-forward-condition：転送条件ブロックの終了を宣言します。

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの条件

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの条件を次に示します。

- JP1/Base で設定した言語種別（文字コード）で保存してください。
- NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの最大サイズは 10MB です。
- 転送条件ブロックは 100 個まで記述できます。
- 一つの転送条件ブロックに、フィルター条件ブロックとマッピングブロックを複数記述しないでください。複数記述するとエラーになります。

- 条件文または除外条件文を OR で連結して、条件を複数設定できます。
- メッセージおよび拡張属性のマッピングの設定は、改行を入れないで 1 行で記述してください。
- 行頭に「#」を指定すると、その行はコメント行になります。

4.1.2 フィルター条件ブロックの定義

フィルター条件ブロックでは、JP1 イベントに変換する NNMi インシデントのフィルター条件文を設定します。フィルター条件文は、条件文と除外条件文を組み合わせて定義します。フィルター条件ブロックは必ず記述してください。

(1) フィルター条件文の書式

フィルター条件文は、次の書式で記述します。

属性名△比較キーワード△オペランド 1△オペランド 2△…

△は一つ以上の連続した半角のスペースまたはタブを示します。

- 属性名
NNMi インシデントの属性名を指定します。
- 比較キーワード
NNMi インシデントを絞り込むための条件を指定します。
- オペランド
NNMi インシデントを絞り込むための値を指定します。

属性名に対応する属性値とオペランドの値を大文字と小文字を区別して比較し、比較キーワードの条件を満たした場合に、フィルター条件が成立します。

例えば、名前 (NAME) が「SNMPLinkDown」の NNMi インシデントを JP1 イベントに変換したいときは、次のフィルター条件文を記述します。

```
NAME IN SNMPLinkDown
```

属性名、比較キーワード、およびオペランドの詳細については、これ以降で説明します。

(2) 比較キーワード

フィルター条件文で使用できる比較キーワードを次の表に示します。

表 4-2 フィルター条件文で使用できる比較キーワード

比較キーワード	指定できるオペランド数	条件
IN	一つ以上	属性値が、オペランドに指定した文字列、整数、または日付のどれかと一致する。
NOTIN	一つ以上	属性値が、オペランドに指定した文字列、整数、または日付のどれとも一致しない。
SUBSTR	一つ以上	属性値が、オペランドに指定した文字列のどれかを含んでいる。
NOTSUBSTR	一つ以上	属性値が、オペランドに指定した文字列のどれも含まない。
BEGIN	一つ以上	属性値が、オペランドに指定した文字列のどれかで始まる。
REGEX*	一つ以上	属性値が、オペランドに指定した正規表現のどれかと一致する。 使用できる正規表現については、「付録 E 正規表現」を参照してください。
RANGE	二つ	属性値が、オペランド 1 ≤ 属性値 ≤ オペランド 2 を満たす。

注※

フィルター条件文で使用できる比較キーワードの REGEX は、完全一致比較となります。そのため、前方一致比較を実施する場合は、比較する正規表現の後に「.*」を付与するなど正規表現で前方一致比較となるように正規表現を記載してください。

(3) オペランド

オペランドには、NNMi インシデントを絞り込むための値を、任意の文字列、整数、または日付で指定します。

ここでは、通常とは異なる形式で指定する場合について説明します。

(a) 2けたの16進数で表現する場合

オペランドには、半角スペース、タブ、CR、LF および%は使用できません。ただし、比較キーワードが「REGEX」以外のオペランドについては、次に示すような「% + ASCII コード (2けたの16進数)」で表現できます。

- 半角スペース：%20
- タブ：%09
- CR：%0d
- LF：%0a
- %：%25

また、上記以外の文字についても「% + ASCII コード (2けたの16進数)」で表現できます。

(b) 属性値のデータ型が日付の場合

属性値のデータ型が日付の場合は、次の表に示す形式でオペランドを指定してください。

表 4-3 オペランドの形式（日付型の場合）

比較キーワード	形式	説明
IN NOTIN	<ul style="list-style-type: none"> • yyyyMMddHHmmssSSS 	OS のロケールに従って 200001010000000000 ~ 20991231235959999 の範囲内で指定してください。
RANGE	<ul style="list-style-type: none"> • yyyyMMddHHmmssSSS • yyyyMMddHHmmss • yyyyMMddHHmm • yyyyMMddHH • yyyyMMdd 	OS のロケールに従って 200001010000000000 ~ 20991231235959999 の範囲内で指定してください。

(凡例)

yyyy : 年 (2000 ~ 2099 で指定する)

MM : 月 (01 ~ 12 で指定する)

dd : 日 (01 ~ 31 で指定する)

HH : 時 (00 ~ 23 で指定する)

mm : 分 (00 ~ 59 で指定する)

ss : 秒 (00 ~ 59 で指定する)

SSS : ミリ秒 (000 ~ 999 で指定する)

比較キーワードが「RANGE」の場合は、年月日 (yyyyMMdd) 以降の値は省略できます。値を省略した場合は、次の表に示す値が設定されます。

オペランド	時 (HH)	分 (mm)	秒 (ss)	ミリ秒 (SSS)
オペランド 1	00	00	00	000
オペランド 2	23	59	59	999

(4) NNMi インシデントの属性

NNMi インシデントの属性と、その属性に対して使用できる比較キーワードを次の表に示します。なお、属性の詳細な内容については NNMi の各製品のマニュアルを参照してください。

表 4-4 NNMi インシデントの属性と使用できる比較キーワード

属性	属性名	データ型	比較キーワード		
			IN NOTIN	SUBSTR NOTSUBSTR BEGIN REGEX	RAN GE
ソースオブジェクト	SRC_NAME	文字列	○	○	×
ソース種別	SRC_TYPE	文字列	○	○	×
ソースノード	SRC_NODE_NAME※1	文字列	○	○	×

属性	属性名	データ型	比較キーワード		
			IN NOTIN	SUBSTR NOTSUBSTR BEGIN REGEX	RAN GE
ソースノード (相互変換)	SRC* ¹	文字列	○	×	×
名前	NAME	文字列	○	○	×
重大度	SEVERITY_UK* ²	文字列	○	×	○* ³
優先度	PRIORITY_UK* ²	文字列	○	×	○* ³
ライフサイクル状態	LIFECYCLE_STATE_UK* ²	文字列	○	○	×
割り当て先	ASSIGNED_TO	文字列	○	○	×
カテゴリ	CATEGORY_UK* ²	文字列	○	○	×
ファミリー	FAMILY_UK* ²	文字列	○	○	×
発生元	ORIGIN_UK* ²	文字列	○	○	×
相関処理特性	NATURE_UK* ²	文字列	○	○	×
重複数	DUPLICATE_COUNT	整数	○	×	○
メッセージ	FORMATTED_MESSAGE	文字列	○	○	×
注	NOTES	文字列	○	○	×
RCA アクティブ	RCA_ACTIVE	文字列	○	×	×
元の発生日時	ORIGIN_OCCUR_TIME	日付	○	×	○
最初の発生日時	FIRST_OCCUR_TIME	日付	○	×	○
最後の発生日時	LAST_OCCUR_TIME	日付	○	×	○
作成日時	CREATED	日付	○	×	○
最終更新日時	MODIFIED	日付	○	×	○
カスタム属性数	CIANUM	整数	○	×	○
カスタム属性名	CIANAME_n* ⁴	文字列	○	○	×
カスタム属性タイプ	CIATYPE_n* ⁴	文字列	○	○	×
カスタム属性値	CIAVALUE_n* ⁴	文字列	○	○	×

(凡例)

○：使用できる

×：使用できない

注※1

「SRC」を使った条件文では、オペランドに指定したホスト名またはIPアドレスを、必要に応じて相互変換してから、属性値と比較します。

「SRC_NODE_NAME」を使った条件文では、オペランドに指定したホスト名またはIPアドレスを相互変換しないで、そのまま属性値と比較します。

注※2

属性値があらかじめ決められています。属性値の詳細については、「(5) NNMi インシデントの属性値」を参照してください。

注※3

重大度と優先度の範囲については、「(5) NNMi インシデントの属性値」の「表 4-5 NNMi インシデントの属性名、属性値、およびラベル」の、「SEVERITY_UK」および「PRIORITY_UK」を参照してください。なお、「SEVERITY_UK」および「PRIORITY_UK」の属性値は昇順で記載されています。

注※4

\$n はカスタム属性のインデックスを示します。1~カスタム属性数 (CIANUM) の数字が入ります。

例：4番目のカスタム属性値の場合「CIAVALUE_4」と定義してください。

(5) NNMi インシデントの属性値

NNMi インシデントの属性のうち、属性値（一意のキー）があらかじめ決められている属性があります。属性値が決められている属性の、属性名、属性値、および NNMi の画面での表示名（ラベル）を次の表に示します。

表 4-5 NNMi インシデントの属性名、属性値、およびラベル

属性名	属性値 (一意のキー)	ラベル (日本語)	ラベル (英語)
SEVERITY_UK	NORMAL	正常域	Normal
	WARNING	注意域	Warning
	MINOR	警戒域	Minor
	MAJOR	重要警戒域	Major
	CRITICAL	危険域	Critical
PRIORITY_UK	com.hp.nms.incident.priority.None	なし	None
	com.hp.nms.incident.priority.Low	低	Low
	com.hp.nms.incident.priority.Medium	中	Medium
	com.hp.nms.incident.priority.High	高	High
	com.hp.nms.incident.priority.Top	最上位	Top
LIFECYCLE_STATE_UK	com.hp.nms.incident.lifecycle.Registered	登録済み	Registered
	com.hp.nms.incident.lifecycle.InProgress	進行中	InProgress
	com.hp.nms.incident.lifecycle.Completed	完了	Completed
	com.hp.nms.incident.lifecycle.Closed	解決済み	Closed

属性名	属性値 (一意のキー)	ラベル (日本語)	ラベル (英語)
CATEGORY_UK*	com.hp.nms.incident.category.Accounting	アカウント ィング	Accounting
	com.hp.nms.incident.category.Alert	アプリケーシ ョ ンステータス	Alert
	com.hp.nms.incident.category.Status	ステータス	Status
	com.hp.nms.incident.category.Security	セキュリティ	Security
	com.hp.nms.incident.category.Performance	パフォーマンス	Performance
	com.hp.nms.incident.category.Fault	障害	Fault
	com.hp.nms.incident.category.Config	設定	Config
	jp.co.Hitachi.soft.jp1.sso.incident.category.Resource	リソース	Resource
	jp.co.Hitachi.soft.jp1.sso.incident.category.Process	プロセス	Process
	jp.co.Hitachi.soft.jp1.sso.incident.category.Service	サービス	Service
	jp.co.Hitachi.soft.jp1.sso.incident.category.Application	アプリケーション	Application
	FAMILY_UK*	com.hp.nms.incident.family.BGP	BGP
com.hp.nms.incident.family.HSRP		HSRP	HSRP
com.hp.nms.incident.family.OSPF		OSPF	OSPF
com.hp.nms.incident.family.RAMS		RAMS	RAMS
com.hp.nms.incident.family.RMON		RMON	RMON
com.hp.nms.incident.family.RRP		RRP	RRP
com.hp.nms.incident.family.STP		STP	STP
com.hp.nms.incident.family.Syslog		Syslog	Syslog
com.hp.nms.incident.family.VLAN		VLAN	VLAN
com.hp.nms.incident.family.VRRP		VRRP	VRRP
com.hp.nms.incident.family.Address		アドレス	Address
com.hp.nms.incident.family.Interface		インターフェ ィス	Interface
com.hp.nms.incident.family.ComponentHealth		コンポーネント の健康状態	Component Health
com.hp.nms.incident.family.Chassis		シャーシ	Chassis
com.hp.nms.incident.family.trap.Analysis		トラップ分析	Trap Analysis

属性名	属性値 (一意のキー)	ラベル (日本語)	ラベル (英語)
FAMILY_UK*	com.hp.nms.incident.family.Node	ノード	Node
	com.hp.nms.incident.family.Board	ボード	Board
	com.hp.nms.incident.family.License	ライセンス	License
	com.hp.nms.incident.family.AggregatePort	集約ポート	Aggregate port
	com.hp.nms.incident.family.Connection	接続	Connection
	com.hp.nms.incident.family.Correlation	相関処理	Correlation
	jp.co.Hitachi.soft.jp1.sso.incident.family.SSO	SSO	SSO
	jp.co.Hitachi.soft.jp1.sso.incident.family.APM	APM	APM
ORIGIN_UK	MANAGEMENTSOFTWARE	管理ソフトウェア	Management software
	MANUALLYCREATED	マニュアル操作で作成	Manually created
	REMOTELYGENERATED	リモートで生成	Remotely generated
	SNMPTRAP	SNMP トラップ	SNMP trap
	SYSLOG	システムログ	System log
	OTHER	その他	Other
NATURE_UK	ROOTCAUSE	根本原因	Root Cause
	SECONDARYROOTCAUSE	二次的な根本原因	Secondary root cause
	SYMPTOM	症状	Symptom
	STREAMCORRELATION	ストリームの相関処理	Stream Correlation
	NONE	なし	None

注※

カテゴリおよびファミリーの属性値のうち、NNMi が提供している属性値以外に、ユーザーが独自に作成した属性値がある場合は、マッピング定義ファイルの作成が必要です。詳細については、「4.2 マッピング定義ファイルの作成」を参照してください。

(6) フィルター条件文の記述例

フィルター条件文の記述例を次に示します。

ソースノードが「host1」(IP アドレスは「10.0.0.1」) の NNMi インシデントを選択します。

```
SRC_NODE_NAME IN host1 10.0.0.1
```

または

```
SRC IN host1
```

または

```
SRC IN 10.0.0.1
```

メッセージが Hello, world で始まる NNMi インシデントを選択します。なお、「,」と「w」の間の%20 は半角スペースを示します。

```
FORMATTED_MESSAGE BEGIN Hello,%20world
```

ソースノードが「host2」(IP アドレスは「10.0.0.2」) 以外で、かつ名前が「SNMP」で始まる NNMi インシデントを選択します。

```
SRC NOTIN host2
```

```
NAME BEGIN SNMP
```

2 番目のカスタム属性の属性名が「TASK_NAME」で、その値が「在庫管理」の NNMi インシデントを選択します。

```
CIANAME_2 IN TASK_NAME
```

```
CIAVALUE_2 IN 在庫管理
```

2010 年 1 月 1 日以降に発生した NNMi インシデントを選択します。

```
ORIGIN_OCCUR_TIME RANGE 20100101 20991231
```

次に示す NNMi インシデントを選択します。

- 重大度が「警戒域」から「危険域」で、かつ優先度が「低」以外である NNMi インシデント
- 優先度が「低」で、かつ NAME に「Interface」を含む NNMi インシデント

```
SEVERITY_UK RANGE MINOR CRITICAL
```

```
PRIORITY_UK NOTIN com.hp.nms.incident.priority.Low
```

OR

```
PRIORITY_UK IN com.hp.nms.incident.priority.Low
```

```
NAME SUBSTR Interface
```

カテゴリが「障害」および「セキュリティ」、または重大度が「危険域」の NNMi インシデントを選択します。ただし、ソースノード名が「host3 (IP アドレスは 10.0.0.3)」の NNMi インシデントは除外します。

```
CATEGORY_UK IN com.hp.nms.incident.category.Fault
```

```
com.hp.nms.incident.category.Security
```

OR

```
SEVERITY_UK IN CRITICAL
```

```
EXCLUDE
```

```
SRC IN host3
```

4.1.3 マッピングブロックの定義

マッピングブロックでは、NNMi インシデントの属性と JP1 イベントの属性の対応づけ（マッピング条件）を設定します。マッピングブロックで設定できる属性を次に示します。

- メッセージ
- 重大度
- 拡張属性

なお、マッピングブロックは省略することもできます。

(1) メッセージのマッピング

NNMi インシデントのメッセージと JP1 イベントのメッセージのマッピングを設定します。マッピングブロックのメッセージの書式を次に示します。

message△任意のメッセージ内容

△は一つ以上の連続した半角のスペースまたはタブを示します。

メッセージのマッピングを省略した場合は、NNMi インシデントのメッセージが、そのまま JP1 イベントのメッセージにマッピングされます。

(a) メッセージ内容の編集

メッセージ内容には、半角スペース、タブ、CR、LF および%は使用できません。ただし、次に示すような「% + ASCII コード (2 けたの 16 進数)」で表現できます。

- 半角スペース：%20
- タブ：%09
- CR：%0d
- LF：%0a
- %：%25

上記以外の文字についても「% + ASCII コード (2 けたの 16 進数)」で表現できます。

また、メッセージ内容に NNMi インシデントの属性名を埋め込むことで、属性名に対応する属性値をメッセージに表示できます。属性値を表示する場合は、属性名を「\$」で囲みメッセージ内容に埋め込みます。

例えば、メッセージ以外に重大度とソースノード名を表示させて、[重大度]メッセージ(ソースノード名)というメッセージ内容でマッピングしたい場合は、次のように記述します。

```
message [$SEVERITY$]$FORMATTED_MESSAGE$($SRC_NODE_NAME$)
```

メッセージに埋め込める NNMi インシデントの属性名を次の表に示します。

表 4-6 メッセージに埋め込める NNMi インシデントの属性名

属性	属性名
ソースオブジェクト	SRC_NAME
ソース種別	SRC_TYPE
ソースノード	SRC_NODE_NAME
名前	NAME
重大度 ^{※1}	SEVERITY
優先度 ^{※1}	PRIORITY
ライフサイクル状態 ^{※1}	LIFECYCLE_STATE
割り当て先	ASSIGNED_TO
カテゴリ ^{※1}	CATEGORY
ファミリー ^{※1}	FAMILY
発生元 ^{※1}	ORIGIN
相関処理特性 ^{※1}	NATURE
重複数	DUPLICATE_COUNT
メッセージ	FORMATTED_MESSAGE
注	NOTES
RCA アクティブ	RCA_ACTIVE
元の発生日時	ORIGIN_OCCUR_TIME
最初の発生日時	FIRST_OCCUR_TIME
最後の発生日時	LAST_OCCUR_TIME
作成日時	CREATED
最終更新日時	MODIFIED
カスタム属性数	CIANUM
カスタム属性名	CIANAME_{\$n} ^{※2}
カスタム属性タイプ	CIATYPE_{\$n} ^{※2}
カスタム属性値	CIAValue_{\$n} ^{※2}

注※1

属性値ではなくラベルを表示します。ラベルの詳細については、「4.1.2(5) NNMi インシデントの属性値」の「表 4-5 NNMi インシデントの属性名, 属性値, およびラベル」を参照してください。

注※2

{\$n} はカスタム属性のインデックスを示します。1~カスタム属性数 (CIANUM) の数字が入ります。

例：4 番目のカスタム属性値の場合「CIAVALUE_4」と定義してください。

(b) メッセージの最大サイズ

JP1 イベントとして登録できるメッセージは 1,023 バイトまでです。JP1 イベントに変換するメッセージが 1,023 バイトを超えた場合、1,024 バイト以降のメッセージは切り捨てられます。

(2) 重大度のマッピング

NNMi インシデントの重大度と JP1 イベントの重大度のマッピングを設定します。マッピングブロックの重大度の書式を次に示します。

severity△NNMi インシデントの重大度△to△JP1 イベントの重大度

△は一つ以上の連続した半角のスペースまたはタブを示します。

例えば、NNMi インシデントの重大度「CRITICAL (危険域)」を、JP1 イベントの重大度「Emergency (緊急)」にマッピングしたい場合は、次のように記述します。

```
severity CRITICAL to Emergency
```

重大度のマッピングを省略した場合は、次の表に示すようにマッピングされます。

表 4-7 重大度のマッピング (デフォルト)

NNMi インシデント	JP1 イベント
—	Emergency (緊急)
CRITICAL (危険域)	Alert (警戒)
MAJOR (重要警戒域)	Critical (致命的)
—	Error (エラー)
MINOR (警戒域)	Warning (警告)
WARNING (注意域)	Notice (通知)
NORMAL (正常域)	Information (情報)
—	Debug (デバッグ)

(凡例)

— : 該当なし

参考

- 大文字と小文字は区別されます。
- NNMi インシデントの重大度を重複して指定することはできません。ただし、NNMi インシデントの複数の重大度を、JP1 イベントの同じ重大度にマッピングすることはできます。

(3) 拡張属性のマッピング

JP1/IM - EG for NNMi が独自に割り当てる属性（拡張属性）を追加したい場合に、拡張属性のマッピングを設定します。

NNMi インシデントを変換した JP1 イベントの属性については、「8.2 NNMi インシデントを変換した JP1 イベント」を参照してください。「表 8-1 NNMi インシデントを変換した JP1 イベントの属性」に記載されている属性のうち、「マッピング」の列が「○」の属性を最大 70 個まで追加できます。

マッピングブロックの拡張属性の書式を次に示します。

attribute△拡張属性名 1,△拡張属性名 2,△・・・

△は一つ以上の連続した半角のスペースまたはタブを示します。

例えば、優先度 (NNMI_PRIORITY) を拡張属性として追加したい場合は、次のように記述します。

```
attribute NNMI_PRIORITY
```

拡張属性のマッピングを省略した場合は、拡張属性は追加されません。

(a) 拡張属性の合計サイズ

追加できる拡張属性の合計サイズは 10,000 バイトまでです。10,001 バイト以降の拡張属性はマッピングされません。そのため、拡張属性の合計サイズが 10,000 バイト以内になるように、追加する拡張属性を選択してください。

一つの拡張属性のサイズは次に示す計算式で算出してください。

拡張属性のサイズ = 属性名の文字数 + 1 + 属性値のサイズ

属性値のサイズについては、「表 8-1 NNMi インシデントを変換した JP1 イベントの属性」を参照してください。なお、属性値のサイズは最大サイズで見積もることをお勧めします。ただし、サイズが固定、またはサイズの上限值がわかっている場合は、そのサイズで見積もってください。

(例)

拡張属性の優先度 (NNMI_PRIORITY) のサイズは次のように算出します。

269 = 13 (属性名の文字数) + 1 + 255 (属性値の最大サイズ)

例えば、優先度の属性値が最上位 (com.hp.nms.incident.priority.Top) の NNMi インシデントだけを JP1 イベントに変換することがわかっている場合は、属性値のサイズは 32 で見積もります。

(b) 拡張属性のマッピング結果の確認

拡張属性のマッピング結果は、拡張属性「NNMI_EM_RESULT」の属性値で確認できます。拡張属性「NNMI_EM_RESULT」の属性値を次に示します。

ALL

指定したすべての属性が、JP1 イベントの拡張属性に追加されたことを示します。追加する属性がない（拡張属性のマッピングを省略した）場合は ALL になります。

数値

指定した属性のうち、JP1 イベントの拡張属性に追加された属性の個数を示します。例えば、マッピングブロックで 10 個の属性を指定して JP1 イベントを発行した場合に、拡張属性「NNMI_EM_RESULT」の属性値が 8 だったときは、マッピングブロックで指定した最後の 2 個の属性が追加されなかったことを示します。

4.1.4 定義例（サンプルファイル）

サンプルファイルの記述を例に、NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの定義例について説明します。

サンプルファイルの記述を次に示します。なお、説明のために行番号を追加しています。

```
1 forward-condition
2 filter
3 #An incident whose severity level is MINOR or higher
4 SEVERITY_UK RANGE MINOR CRITICAL
5 end-filter
6 mapping
7 message $FORMATTED_MESSAGE$
8 severity CRITICAL to Alert
9 severity MAJOR to Critical
10 severity MINOR to Warning
11 severity WARNING to Notice
12 severity NORMAL to Information
13 end-mapping
14 end-forward-condition
```

フィルター条件ブロック（2～5 行目）

重大度（SEVERITY_UK）が「MINOR」から「CRITICAL」の範囲の場合に、JP1 イベントに変換するように定義します。

マッピングブロック（6～13 行目）

- メッセージのマッピング（7 行目）
NNMi インシデントのメッセージが、そのまま JP1 イベントのメッセージにマッピングされるように定義します。
- 重大度のマッピング（8～12 行目）
NNMi インシデントと JP1 イベントの重大度のマッピングを定義します。

4.2 マッピング定義ファイルの作成

NNMi インシデントの属性であるカテゴリおよびファミリーの属性値のラベルは、JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面に表示させることができます。マッピング定義ファイルでは、カテゴリおよびファミリーのラベルを [イベント詳細] 画面に表示するためのマッピングを設定します。

カテゴリおよびファミリーの属性値のうち、NNMi が提供している属性値以外に、ユーザーが独自に作成した属性値がある場合は、マッピング定義ファイルを作成してください。また、NNMi が提供している属性値のラベルを、[イベント詳細] 画面では別のラベルで表示したい場合も、マッピング定義ファイルを作成してください。

4.2.1 マッピング定義ファイルのファイル名と格納先

マッピング定義ファイルは、インストール時には存在しません。マッピング定義ファイルを作成する場合は、サンプルファイルをコピーしてリネームしたあと、定義内容を編集してください。

マッピング定義ファイルとサンプルファイルの、ファイル名と格納先を次に示します。

ファイル名

カテゴリ用

imevgw_nnmi_label_mapping_category>NNMi の言語.conf

imevgw_nnmi_label_mapping_category>NNMi の言語.conf.sample (サンプルファイル)

ファミリー用

imevgw_nnmi_label_mapping_family>NNMi の言語.conf

imevgw_nnmi_label_mapping_family>NNMi の言語.conf.sample (サンプルファイル)

NNMi の言語には、「ja」(日本語) または「en」(英語) が入ります。セットアップ時に、jegn_setup コマンドの-lang オプションで指定した言語のファイルを使用してください。-lang オプションを指定しなかった場合は、JP1/Base で設定した言語種別のファイルを使用してください。jegn_setup コマンドの詳細については、「7. コマンド」の「jegn_setup」を参照してください。

なお、UNIX 版のサンプルファイルは、NNMi の言語が「ja」(日本語) の場合、ファイル名の最後に文字コード名 (UTF-8 または SJIS) が付きます。

格納先

Windows の場合

- 物理ホスト : EG for NNMi パス¥conf
- 論理ホスト : 共有フォルダ¥JP1EG4NNMI¥conf

UNIX の場合

- 物理ホスト : /etc/opt/jp1eg4nnmi/conf
- 論理ホスト : 共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/conf

4.2.2 マッピング定義ファイルの書式

マッピング定義ファイルは、次の書式で記述します。

一意のキー = ラベル

例えば、NNMiで「ハードウェア障害」という属性値を、次の内容で作成したとします。

- ラベル：ハードウェア障害
- 一意のキー：com.hp.nms.incident.category.HardwareFault

この場合、次の記述をマッピング定義ファイルに追加します。

```
com.hp.nms.incident.category.HardwareFault = ハードウェア障害
```

上記の記述を追加すると、JP1/IM - Viewの[イベント詳細]画面に「ハードウェア障害」が表示されます。マッピング定義ファイルを作成しない場合は、一意のキー「com.hp.nms.incident.category.HardwareFault」が表示されます。

NNMiが提供しているカテゴリおよびファミリーの属性値のラベルは、マッピング定義ファイルを作成しない場合、デフォルトで設定されているラベルが表示されます。

デフォルトで設定されている属性値（一意のキー）とラベルについては、「4.1.2(5) NNMi インシデントの属性値」の「表 4-5 NNMi インシデントの属性名、属性値、およびラベル」の「CATEGORY_UK」および「FAMILY_UK」を参照してください。

マッピング定義ファイルの条件

マッピング定義ファイルの条件を次に示します。

- JP1/Baseで設定した言語種別（文字コード）で保存してください。
- マッピング定義ファイルの最大サイズは10MBです。

4.3 カスタム属性マッピング定義ファイルの作成

カスタム属性のマッピングについて説明します。

NNMi と接続する場合、JP1/IM-EG では、カスタム属性が複数ある場合に、カスタム属性の取得順序が不定となる可能性があります。

カスタム属性マッピング定義ファイルを使用することで、NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルで使用するカスタム属性のマッピング順序を固定することができます。

カスタム属性マッピングは、NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルに定義された次の属性名に対して有効となります。

フィルター条件ブロックに定義されたカスタム属性

CIANAME_ \$n

CIATYPE_ \$n

CIAVALUE_ \$n

メッセージマッピングに定義されたカスタム属性

CIANAME_ \$n

CIATYPE_ \$n

CIAVALUE_ \$n

拡張属性のマッピングに定義されたカスタム属性

NNMI_CIA_NAME_ \$n

NNMI_CIA_TYPE_ \$n

NNMI_CIA_VALUE_ \$n

4.3.1 カスタム属性マッピング定義ファイルのファイル名と格納先

カスタム属性マッピング定義ファイルは NNMi インシデントに設定されたカスタム属性を JP1/IM-EG で扱う際に、どの順序で使用するかを定義するファイルです。

このファイルで、JP1 イベントのカスタム属性のインデックス (\$n) と任意の NNMi インシデントのカスタム属性を対応づけして、登録する順序を決めることができます。

カスタム属性マッピング定義ファイルは、インストール時には存在しません。カスタム属性マッピング定義ファイルを作成する場合は、新規にファイルを作成してください。

カスタム属性マッピング定義ファイルのファイル名と格納先を次に示します。

ファイル名

imevtgw_nnmi_cia_map.conf

格納先

Windows の場合

- 物理ホスト：EG for NNMI パス¥conf
- 論理ホスト：共有フォルダ¥JP1EG4NNMI¥conf

UNIX の場合

- 物理ホスト：/etc/opt/jp1eg4nnmi/conf
- 論理ホスト：共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/conf

4.3.2 カスタム属性マッピング定義ファイルの書式

カスタム属性マッピング定義ファイルは、次の書式で記述します。

形式

```
cia-map
name=NNMi インシデントの名前1
cia_1=カスタム属性名1
cia_2=カスタム属性名2
:
cia-map-end
```

記述内容

cia-map :

カスタム属性マッピング定義の開始を示します。

「cia-map-end」までが 1 つのカスタム属性マッピング定義となります。

name :

NNMi インシデントの名前を定義します。大文字小文字を区別して、完全一致する文字列を定義する必要があります。

「cia-map」から「cia-map-end」の間に、複数回指定された場合は、それぞれの名前の NNMI インシデントの変換時に対して、同じマッピング処理が行われます。

「cia-map」から「cia-map-end」の間に限らず、カスタム属性マッピング定義ファイル全体で、重複して同じ名前が指定された場合はエラーとなります。

cia_ \$n :

カスタム属性のインデックス \$n に設定するカスタム属性名を定義します。

大文字小文字を区別して、完全一致する文字列を定義する必要があります。

\$n は 1~28 を指定し、連続した番号にする必要はありません。

また、順不同に定義することも可能です（例：cia_15 だけの定義でも可能）。

「cia-map」から「cia-map-end」の間に、同じインデックス \$n が複数回定義された場合は、先に定義されたものから順に検索し、一致したものがマッピングされます。

「cia_3=.1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.2」と定義した場合は、カスタム属性名が「.1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.2」であるカスタム属性の名前が「NNMI_CIA_NAME_3」、型が「NNMI_CIA_TYPE_3」、値が「NNMI_CIA_VALUE_3」にそれぞれ設定されます。

cia-map-end :

カスタム属性マッピング定義の終了を示します。

「cia-map」から、本項目までが1つのNNMi インシデントのカスタム属性マッピング定義となります。

定義例

```
1: cia-map
2: name=SNMPLinkUp
3: cia_1=.1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.2
4: cia_2=cia.address
5: cia-map-end
6:
7: cia-map
8: name=SNMPColdStart
9: name=SNMPWarmStart
10: cia_5=cia.address
11: cia-map-end
```

1 行目から 5 行目までの定義

名前が「SNMPLinkUP」であるNNMi インシデントが変換対象となった場合に、カスタム属性名が「.1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.2」であるカスタム属性の名前、型、値を、それぞれNNMI_CIA_NAME_1, NNMI_CIA_TYPE_1, NNMI_CIA_VALUE_1 に設定する。

同様に、カスタム属性名が「cia.address」であるカスタム属性の名前、型、値を、それぞれNNMI_CIA_NAME_2, NNMI_CIA_TYPE_2, NNMI_CIA_VALUE_2 に設定する。

7 行目から 11 行目までの定義

名前が「SNMPColdStart」、および「SNMPWarmStart」であるNNMi インシデントが変換対象となった場合に、カスタム属性名が「cia.address」であるカスタム属性の名前、型、値を、それぞれNNMI_CIA_NAME_5, NNMI_CIA_TYPE_5, NNMI_CIA_VALUE_5 に設定する。

定義の反映時期

サービス起動時、およびリロードコマンド(jegn_spmd_reload)を実行すると、設定が有効になります。

サービス起動時にエラーが発生した場合、サービスの起動に失敗します。

リロードコマンド実行時にエラーが発生した場合、変更が反映されず、リロードコマンド実行前の定義で動作します。

注意事項

- 行頭に「#」を指定すると、その行はコメント行になります。
- カスタム属性マッピング定義ファイルの最大サイズは10MBです。

4.4 JP1/IM - Manager の定義ファイルの編集

JP1/IM - Manager の定義ファイルのうち、JP1/IM - EG for NNMi に関連する定義ファイルを次に示します。

- イベント拡張属性定義ファイル

製品固有の拡張属性を JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面に表示させるための定義ファイルです。

- モニター画面呼び出し定義ファイル

JP1/IM - View に表示された JP1 イベントに対応する製品を、モニター起動させるための定義ファイルです。

JP1/IM - EG for NNMi 固有の拡張属性を JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面に表示したり、NNMi の画面をモニター起動したりするには、JP1/IM - EG for NNMi 用のイベント拡張属性定義ファイル、およびモニター画面呼び出し定義ファイルが必要です。

これらの定義ファイルは、JP1/IM - Manager に同梱されています。通常は同梱されている定義ファイルを編集する必要はありません。

JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面に表示させる属性を追加したい場合にイベント拡張属性定義ファイルを編集してください。モニター起動させる NNMi の Web ブラウザを変更する場合にモニター画面呼び出し定義ファイルを編集してください。

イベント拡張属性定義ファイル、およびモニター画面呼び出し定義ファイルの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」を参照してください。

4.4.1 イベント拡張属性定義ファイル

JP1/IM - EG for NNMi 用のイベント拡張属性定義ファイルについて説明します。

(1) ファイル名と格納先

JP1/IM - EG for NNMi 用のイベント拡張属性定義ファイルのファイル名と格納先を次に示します。

ファイル名

hitachi_jp1_im_egn_attr_ja.conf

hitachi_jp1_im_egn_attr_en.conf

hitachi_jp1_im_egn_attr_zh.conf

JP1/IM - Manager での格納先

Windows の場合

- 物理ホスト：Console パス¥conf¥console¥attribute

- 論理ホスト：共有フォルダ¥JP1Cons¥conf¥console¥attribute

UNIX の場合

- 物理ホスト：/etc/opt/jp1cons/conf/console/attribute
- 論理ホスト：共有ディレクトリ/jp1cons/conf/console/attribute

(2) 定義内容

JP1/IM - EG for NNMI 用のイベント拡張属性定義ファイルの定義を次に示します。

```
@file type="extended-attributes-definition", version="0300";
@product name="/HITACHI/JP1/IM/NNMI_INCIDENT";

@define-block type="event-attr-def";
block lang="Japanese", platform="base", extended="false";
attr name="E.NNMI_EM_RESULT", title="拡張属性マッピング実行結果";
attr name="E.NNMI_ID", title="インシデントID";
attr name="E.NNMI_UUID", title="インシデントUUID";
attr name="E.NNMI_SRC_UUID", title="ソースオブジェクトUUID";
attr name="E.NNMI_SRC_NAME", title="ソースオブジェクト名";
attr name="E.NNMI_SRC_TYPE", title="ソース種別";
attr name="E.NNMI_SRC_NODE_UUID", title="ソースノードUUID";
attr name="E.NNMI_SRC_NODE_NAME", title="ソースノード";
attr name="E.NNMI_NAME", title="名前";
attr name="E.NNMI_SEVERITY", title="NNMiインシデントの重大度";
attr name="E.NNMI_PRIORITY", title="優先度";
attr name="E.NNMI_LIFECYCLE_STATE", title="ライフサイクル状態";
attr name="E.NNMI_ASSIGNED_TO", title="割り当て先";
attr name="E.NNMI_CATEGORY", title="カテゴリ";
attr name="E.NNMI_FAMILY", title="ファミリー";
attr name="E.NNMI_ORIGIN", title="発生元";
attr name="E.NNMI_NATURE", title="相関処理特性";
attr name="E.NNMI_DUPLICATE_COUNT", title="重複数";
attr name="E.NNMI_FORMATTED_MESSAGE", title="メッセージ";
attr name="E.NNMI_NOTES", title="注";
attr name="E.NNMI_RCA_ACTIVE", title="RCAアクティブ";
attr name="E.NNMI_ORIGIN_OCCUR_TIME", title="元の発生日時", type="elapsed_time/
date_format:CLIENT";
attr name="E.NNMI_ORIGIN_OCCUR_TIME_MS", title="元の発生日時 (ミリ秒)";
attr name="E.NNMI_FIRST_OCCUR_TIME", title="最初の発生日時", type="elapsed_time/
date_format:CLIENT";
attr name="E.NNMI_FIRST_OCCUR_TIME_MS", title="最初の発生日時 (ミリ秒)";
attr name="E.NNMI_LAST_OCCUR_TIME", title="最後の発生日時", type="elapsed_time/
date_format:CLIENT";
attr name="E.NNMI_LAST_OCCUR_TIME_MS", title="最後の発生日時 (ミリ秒)";
attr name="E.NNMI_CREATED", title="作成日時", type="elapsed_time/date_format:CLIENT";
attr name="E.NNMI_CREATED_MS", title="作成日時 (ミリ秒)";
attr name="E.NNMI_MODIFIED", title="最終変更日時", type="elapsed_time/date_format:CLIENT";
attr name="E.NNMI_MODIFIED_MS", title="最終変更日時 (ミリ秒)";
attr name="E.NNMI_SEVERITY_UK", title="NNMiインシデントの重大度の一意キー";
attr name="E.NNMI_PRIORITY_UK", title="優先度の一意キー";
attr name="E.NNMI_LIFECYCLE_STATE_UK", title="ライフサイクル状態の一意キー";
attr name="E.NNMI_CATEGORY_UK", title="カテゴリの一意キー";
attr name="E.NNMI_FAMILY_UK", title="ファミリーの一意キー";
attr name="E.NNMI_ORIGIN_UK", title="発生元の一意キー";
```

```
attr name="E.NNMI_NATURE_UK", title="相関処理特性の一意キー";
attr name="E.NNMI_CIA_NUM", title="カスタム属性数";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_1", title="カスタム属性名1";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_2", title="カスタム属性名2";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_3", title="カスタム属性名3";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_4", title="カスタム属性名4";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_5", title="カスタム属性名5";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_6", title="カスタム属性名6";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_7", title="カスタム属性名7";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_8", title="カスタム属性名8";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_9", title="カスタム属性名9";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_10", title="カスタム属性名10";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_11", title="カスタム属性名11";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_12", title="カスタム属性名12";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_13", title="カスタム属性名13";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_14", title="カスタム属性名14";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_15", title="カスタム属性名15";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_16", title="カスタム属性名16";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_17", title="カスタム属性名17";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_18", title="カスタム属性名18";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_19", title="カスタム属性名19";
attr name="E.NNMI_CIA_NAME_20", title="カスタム属性名20";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_1", title="カスタム属性タイプ1";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_2", title="カスタム属性タイプ2";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_3", title="カスタム属性タイプ3";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_4", title="カスタム属性タイプ4";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_5", title="カスタム属性タイプ5";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_6", title="カスタム属性タイプ6";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_7", title="カスタム属性タイプ7";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_8", title="カスタム属性タイプ8";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_9", title="カスタム属性タイプ9";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_10", title="カスタム属性タイプ10";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_11", title="カスタム属性タイプ11";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_12", title="カスタム属性タイプ12";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_13", title="カスタム属性タイプ13";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_14", title="カスタム属性タイプ14";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_15", title="カスタム属性タイプ15";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_16", title="カスタム属性タイプ16";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_17", title="カスタム属性タイプ17";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_18", title="カスタム属性タイプ18";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_19", title="カスタム属性タイプ19";
attr name="E.NNMI_CIA_TYPE_20", title="カスタム属性タイプ20";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_1", title="カスタム属性値1";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_2", title="カスタム属性値2";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_3", title="カスタム属性値3";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_4", title="カスタム属性値4";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_5", title="カスタム属性値5";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_6", title="カスタム属性値6";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_7", title="カスタム属性値7";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_8", title="カスタム属性値8";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_9", title="カスタム属性値9";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_10", title="カスタム属性値10";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_11", title="カスタム属性値11";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_12", title="カスタム属性値12";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_13", title="カスタム属性値13";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_14", title="カスタム属性値14";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_15", title="カスタム属性値15";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_16", title="カスタム属性値16";
```

```

attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_17", title="カスタム属性値17";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_18", title="カスタム属性値18";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_19", title="カスタム属性値19";
attr name="E.NNMI_CIA_VALUE_20", title="カスタム属性値20";
attr name="E.NNMI_PROTOCOL", title="NNMi接続プロトコル";
attr name="E.NNMI_SERVER", title="NNMiサーバ";
attr name="E.NNMI_PORT", title="NNMiポート番号";
@define-block-end;

@define-block type="event-attr-group-def";
block platform="base", extended="false";
group name="_COMMON", attrs="E.NNMI_EM_RESULT|E.NNMI_ID|E.NNMI_UUID|E.NNMI_SRC_UUID|
E.NNMI_SRC_NAME|E.NNMI_SRC_TYPE|E.NNMI_SRC_NODE_UUID|
E.NNMI_SRC_NODE_NAME|E.NNMI_NAME|E.NNMI_SEVERITY|
E.NNMI_PRIORITY|E.NNMI_LIFECYCLE_STATE|E.NNMI_ASSIGNED_TO|
E.NNMI_CATEGORY|E.NNMI_FAMILY|E.NNMI_ORIGIN|E.NNMI_NATURE|
E.NNMI_DUPLICATE_COUNT|E.NNMI_FORMATTED_MESSAGE|E.NNMI_NOTES|
E.NNMI_RCA_ACTIVE|E.NNMI_ORIGIN_OCCUR_TIME|
E.NNMI_ORIGIN_OCCUR_TIME_MS|E.NNMI_FIRST_OCCUR_TIME|
E.NNMI_FIRST_OCCUR_TIME_MS|E.NNMI_LAST_OCCUR_TIME|
E.NNMI_LAST_OCCUR_TIME_MS|E.NNMI_CREATED|E.NNMI_CREATED_MS|
E.NNMI_MODIFIED|E.NNMI_MODIFIED_MS|E.NNMI_SEVERITY_UK|
E.NNMI_PRIORITY_UK|E.NNMI_LIFECYCLE_STATE_UK|
E.NNMI_CATEGORY_UK|E.NNMI_FAMILY_UK|E.NNMI_ORIGIN_UK|
E.NNMI_NATURE_UK|E.NNMI_CIA_NUM|
E.NNMI_CIA_NAME_1|E.NNMI_CIA_NAME_2|E.NNMI_CIA_NAME_3|
E.NNMI_CIA_NAME_4|E.NNMI_CIA_NAME_5|E.NNMI_CIA_NAME_6|
E.NNMI_CIA_NAME_7|E.NNMI_CIA_NAME_8|E.NNMI_CIA_NAME_9|
E.NNMI_CIA_NAME_10|E.NNMI_CIA_NAME_11|E.NNMI_CIA_NAME_12|
E.NNMI_CIA_NAME_13|E.NNMI_CIA_NAME_14|E.NNMI_CIA_NAME_15|
E.NNMI_CIA_NAME_16|E.NNMI_CIA_NAME_17|E.NNMI_CIA_NAME_18|
E.NNMI_CIA_NAME_19|E.NNMI_CIA_NAME_20|E.NNMI_CIA_TYPE_1|
E.NNMI_CIA_TYPE_2|E.NNMI_CIA_TYPE_3|E.NNMI_CIA_TYPE_4|
E.NNMI_CIA_TYPE_5|E.NNMI_CIA_TYPE_6|E.NNMI_CIA_TYPE_7|
E.NNMI_CIA_TYPE_8|E.NNMI_CIA_TYPE_9|E.NNMI_CIA_TYPE_10|
E.NNMI_CIA_TYPE_11|E.NNMI_CIA_TYPE_12|E.NNMI_CIA_TYPE_13|
E.NNMI_CIA_TYPE_14|E.NNMI_CIA_TYPE_15|E.NNMI_CIA_TYPE_16|
E.NNMI_CIA_TYPE_17|E.NNMI_CIA_TYPE_18|E.NNMI_CIA_TYPE_19|
E.NNMI_CIA_TYPE_20|E.NNMI_CIA_VALUE_1|E.NNMI_CIA_VALUE_2|
E.NNMI_CIA_VALUE_3|E.NNMI_CIA_VALUE_4|E.NNMI_CIA_VALUE_5|
E.NNMI_CIA_VALUE_6|E.NNMI_CIA_VALUE_7|E.NNMI_CIA_VALUE_8|
E.NNMI_CIA_VALUE_9|E.NNMI_CIA_VALUE_10|E.NNMI_CIA_VALUE_11|
E.NNMI_CIA_VALUE_12|E.NNMI_CIA_VALUE_13|E.NNMI_CIA_VALUE_14|
E.NNMI_CIA_VALUE_15|E.NNMI_CIA_VALUE_16|E.NNMI_CIA_VALUE_17|
E.NNMI_CIA_VALUE_18|E.NNMI_CIA_VALUE_19|E.NNMI_CIA_VALUE_20|
E.NNMI_PROTOCOL|E.NNMI_SERVER|E.NNMI_PORT";
@define-block-end;

@define-block type="event-attr-order-def";
block platform="base", extended="false";
order id="00006100", attrs="_COMMON";
@define-block-end;

```

(3) 内部属性を [イベント詳細] 画面に表示したい場合

JP1/IM - Manager のバージョンが 11-10 以前の場合、NNMi インシデントが内部的に保持する属性は、通常の運用時には使用しません。そのため、JP1 イベントに変換しても、デフォルトでは JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面には表示されません。

これらの属性を表示したい場合は、JP1/IM - EG for NNMi が保有しているイベント拡張属性定義ファイルを JP1/IM - Manager に配置してください。

JP1/IM - EG for NNMi での格納先

Windows の場合

インストールフォルダ¥conf¥event

UNIX の場合

/etc/opt/jp1eg4nnmi/conf/event

ファイル名

hitachi_jp1_im_egn_attr_ja.conf

hitachi_jp1_im_egn_attr_en.conf

hitachi_jp1_im_egn_attr_zh.conf

(4) カスタム属性を [イベント詳細] 画面に表示したい場合

次に示すカスタム属性を JP1 イベントに変換した場合、デフォルトでは \$n が 1~20 の属性だけ、JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面に表示されます。

- カスタム属性名 (NNMI_CIA_NAME_\$n)
- カスタム属性タイプ (NNMI_CIA_TYPE_\$n)
- カスタム属性値 (NNMI_CIA_VALUE_\$n)

\$n が 21 以降の属性を表示したい場合は、イベント拡張属性定義ファイルのイベント拡張属性定義ブロック、および属性グループ定義ブロックに定義を追加してください。

また、イベント拡張属性定義ファイルに定義を追加する場合は、すべての言語のイベント拡張属性定義ファイルに定義を追加してください。一部の言語のイベント定義ファイルに定義を追加していない場合は、定義が有効になりません。なお、JP1/IM - Manager を上書きインストールすると、イベント拡張属性定義ファイルが更新されるため、イベント拡張属性定義ファイルを編集した場合は、上書きインストール前に退避して、上書きインストール後に再度配置してください。

イベント拡張属性定義ファイルの編集については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」を参照してください。

4.4.2 モニター画面呼び出し定義ファイル

JP1/IM - EG for NNMI 用のモニター画面呼び出し定義ファイルについて説明します。

(1) ファイル名と格納先

JP1/IM - EG for NNMI 用のモニター画面呼び出し定義ファイルのファイル名と格納先を次に示します。

ファイル名

hitachi_jp1_im_egn_mon.conf

JP1/IM - Manager での格納先

Windows の場合

- 物理ホスト：Console パス¥conf¥console¥monitor
- 論理ホスト：共有フォルダ¥JP1Cons¥conf¥console¥monitor

UNIX の場合

- 物理ホスト：/etc/opt/jp1cons/conf/console/monitor
- 論理ホスト：共有ディレクトリ/jp1cons/conf/console/monitor

(2) 定義内容

JP1/IM - EG for NNMI 用のモニター画面呼び出し定義ファイルの定義を次に示します。

```
DESC_VERSION=0300
DEF_KEY PRODUCT_NAME=/HITACHI/JP1/IM/NNMI_INCIDENT_EVENT_ID=00006100 INTERFACE=NNMI_VIEW_WEB
DEF_MTR_CALL_NAME=NNMI_VIEW_WEB EXEC_ID=default_browser
PATH="%IM_EVC_PARAMETER_1%://%IM_EVC_PARAMETER_2%:%IM_EVC_PARAMETER_3%/
nrm/launch?cmd=showForm&objtype=Incident&menus=true&objuuid=
%IM_EVC_PARAMETER_4%" PARAM=E.NNMI_PROTOCOL,E.NNMI_SERVER,E.NNMI_PORT,
E.NNMI_UUID
```

(3) モニター起動させる NNMI の Web ブラウザを変更する場合

モニター起動させる NNMI の Web ブラウザを変更する場合は、次の設定をしてください。

1. JP1/IM - Manager のアプリケーション実行定義ファイルに、NNMI で使用する Web ブラウザの実行形式ファイルのパスを定義し、ほかの定義ファイルからリンクするための ID を付ける。
2. モニター画面呼び出し定義ファイルの引数 EXEC_ID に、アプリケーション実行定義ファイルで指定した ID を登録する。

詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」を参照してください。

5

起動と終了

この章では、JP1/IM - EG for NNMi の起動および終了の手順について説明します。

5.1 JP1/IM - EG for NNMi を起動する

この節では、JP1/IM - EG for NNMi の起動手順を説明します。なお、JP1/IM - EG for NNMi のサービスを起動する場合は、NNMi および JP1/Base のサービスを先に起動してください。

クラスタシステムでの自動起動

クラスタシステムで JP1/IM - EG for NNMi を自動起動する場合は、[\[3.3 クラスタソフトへの登録\]](#)を参照してください。

起動方法は、OS によって異なります。

5.1.1 Windows の場合

Windows の場合は、JP1/Base の起動管理機能を使用するかどうかで手順が異なります。

起動管理機能を使用して起動させる

JP1/Base の起動順序定義ファイルに、JP1/IM - EG for NNMi の定義を記述します。詳細については、[\[2.4.4\(1\) Windows の場合\]](#)を参照してください。

起動管理機能を使用しないで起動させる

[コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] から、JP1/IM - EG for NNMi のサービスを起動します。

5.1.2 UNIX の場合

UNIX の場合は、自動起動スクリプトを使用するかどうかで手順が異なります。

自動起動スクリプトを使用して起動させる

システムの起動時に自動起動スクリプトが呼び出されるように設定します。詳細については、[\[2.4.4\(2\) UNIX の場合\]](#)を参照してください。

自動起動スクリプトを使用しないで起動させる

/etc/opt/jp1eg4nnmi/jegn_start.model スクリプト、またはこのスクリプトをコピーしたファイルを実行して起動します。

重要

Linux 7, Oracle Linux 7, CentOS 7, SUSE Linux 12 で自動起動および自動終了の設定を行っている場合は、次に示すコマンドを実行して起動してください。

```
systemctl start jp1_eg4nnmi
```


5.2 JP1/IM - EG for NNMi を終了する

この節では、JP1/IM - EG for NNMi の終了手順を説明します。なお、JP1/IM - EG for NNMi のサービスを終了する場合は、NNMi および JP1/Base のサービスより先に終了してください。

クラスタシステムでの自動終了

クラスタシステムで JP1/IM - EG for NNMi を自動終了する場合は、[\[3.3 クラスタソフトへの登録\]](#)を参照してください。

終了方法は、OS によって異なります。

5.2.1 Windows の場合

Windows の場合は、JP1/Base の起動管理機能を使用するかどうかで手順が異なります。

起動管理機能を使用して終了させる

JP1/Power Monitor をインストールしている場合は、JP1/Base の起動管理機能を使用してサービスを終了できます。起動管理機能を使用する場合は、JP1/Base の起動順序定義ファイルに、JP1/IM - EG for NNMi の定義を記述します。詳細については、[\[2.4.4\(1\) Windows の場合\]](#)を参照してください。

起動管理機能を使用しないで終了させる

[コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] から、JP1/IM - EG for NNMi のサービスを終了します。

5.2.2 UNIX の場合

UNIX の場合は、自動終了スクリプトを使用するかどうかで手順が異なります。

自動終了スクリプトを使用して終了させる

システムの終了時に自動終了スクリプトが呼び出されるように設定します。詳細については、[\[2.4.4\(2\) UNIX の場合\]](#)を参照してください。

自動終了スクリプトを使用しないで終了させる

/etc/opt/jp1eg4nnmi/jegn_stop.model スクリプト、またはこのスクリプトをコピーしたファイルを実行して終了します。

❗ 重要

Linux 7, Oracle Linux 7, CentOS 7, SUSE Linux 12 で自動起動および自動終了の設定を行っている場合は、次に示すコマンドを実行して終了してください。

```
systemctl stop jp1_eg4nnmi
```

6

JP1/IM - EG for NNMi の運用

この章では、JP1/IM - EG for NNMi のバックアップとリストア、および設定情報の変更について説明します。

6.1 バックアップとリストア

この節では、JP1/IM - EG for NNMi のバックアップおよびリストアについて説明します。

万一 JP1/IM - EG for NNMi にトラブルが発生した場合、設定情報のバックアップを取得していれば、同じ環境のシステムを構築して運用を再開できます。そのため、JP1/IM - EG for NNMi をセットアップしたときなど、システムを変更したときには、設定情報のバックアップを取得してください。

NNMi のバックアップおよびリストアについては、NNMi の各製品のマニュアルを参照してください。

6.1.1 設定情報のバックアップ

JP1/IM - EG for NNMi の設定情報のバックアップについて説明します。

JP1/IM - EG for NNMi のバックアップを取得する場合は、必ず JP1/Base のバックアップを同時に取得してください。JP1/Base のユーザーが設定する定義ファイルのバックアップ方法については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

バックアップは、ファイルをコピーするなど、任意の方法で取得してください。JP1/IM - EG for NNMi が起動していても、バックアップを取得できます。

JP1/IM - EG for NNMi のバックアップ対象ファイルを次の表に示します。

表 6-1 JP1/IM - EG for NNMi のバックアップ対象ファイル

ファイル名	内容
imevtgw_nnmi.conf	動作定義ファイル
imevtgw_nnmi_cia_map.conf	カスタム属性マッピング定義ファイル※
imevtgw_nnmi_forward_filter.conf	NNMi インシデント転送フィルター定義ファイル
imevgw_nnmi_label_mapping_category_NNMi の言語.conf	マッピング定義ファイル（カテゴリ用）
imevgw_nnmi_label_mapping_family_NNMi の言語.conf	マッピング定義ファイル（ファミリー用）

注※

このファイルはカスタム属性マッピングを設定していない場合は存在しません。

バックアップ対象ファイルの格納先を次に示します。

Windows の場合

- 物理ホスト：EG for NNMi パス¥conf
- 論理ホスト：共有フォルダ¥JP1EG4NNMI¥conf

UNIX の場合

- 物理ホスト：`/etc/opt/jp1eg4nnmi/conf`
- 論理ホスト：`共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/conf`

6.1.2 設定情報のリストア

JP1/IM - EG for NNMi の設定情報のリストアについて説明します。

JP1/IM - EG for NNMi のバックアップ情報をリストアする場合は、必ず JP1/Base を先にリストアしてください。次の前提条件を確認した上で、バックアップファイルを元の位置にリストアしてください。

前提条件

- JP1/IM - EG for NNMi および JP1/Base が停止していること
- JP1/IM - EG for NNMi および JP1/Base がインストールされ、クラスタセットアップコマンドが実行済みであること（クラスタ運用時）
- 論理ホスト環境の JP1/Base がセットアップされていること（クラスタ運用時）
- 共有ディスクをオンラインにしていること（クラスタ運用時）

6.2 設定情報の変更

この節では、JP1/IM - EG for NNMi の定義ファイルを変更する方法、および JP1/IM - EG for NNMi が動作するマシンのシステム環境を変更する場合に必要な作業について説明します。

なお、NNMi のシステム環境を変更した場合は、上書きセットアップを実行してください。詳細については、「[2.4.1 セットアップコマンドの実行](#)」を参照してください。

6.2.1 定義ファイルを変更する

JP1/IM - EG for NNMi のサービスが起動中でも、次に示す JP1/IM - EG for NNMi の定義ファイルを変更できます。

- 動作定義ファイル※
- NNMi インシデント転送フィルター定義ファイル
- マッピング定義ファイル（カテゴリ用）
- マッピング定義ファイル（ファミリー用）
- 拡張起動プロセス定義ファイル

注※

動作定義ファイルは直接編集しないでください。動作定義ファイルを変更する場合は、`jegn_setup` コマンドを使用してください。`jegn_setup` コマンドの詳細については、「[7. コマンド](#)」の「[jegn_setup](#)」を参照してください。

JP1/IM - EG for NNMi のサービス起動中に上記の定義ファイルを変更した場合は、`jegn_spmc_reload` コマンドを実行して定義ファイルを再度読み込み、変更した内容を有効にしてください。なお、`jegn_spmc_reload` コマンドの実行後に定義ファイルの変更がすぐに反映されるのではなく、リロード後の次のポーリングのタイミングで有効になります。

また、`jegn_spmc_reload` コマンドの定義チェックでエラーが発生した場合は、変更前の定義内容で動作が継続されます。`jegn_spmc_reload` コマンドの詳細については、「[7. コマンド](#)」の「[jegn_spmc_reload](#)」を参照してください。

定義ファイルの設定の詳細については、「[4. NNMi インシデントから JP1 イベントへの変換](#)」および「[付録 F.1 拡張起動プロセス定義ファイル \(jegn_service_0700.conf\)](#)」を参照してください。

参考

JP1/IM - EG for NNMi のサービス停止中に定義ファイルを変更した場合は、次回サービスを起動したタイミングで、変更した内容が有効になります。

6.2.2 JP1/IM - EG for NNMi が動作するホスト名, IP アドレス, ポート番号の設定を変更する

JP1/IM - EG for NNMi が動作しているホスト名, IP アドレス, ポート番号の設定を変更する場合に必要な作業について説明します。

なお, JP1/Base の設定情報を変更する作業については, マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

(1) ホスト名, IP アドレス, ポート番号の変更時に必要な作業

ホスト名, IP アドレス, ポート番号を変更する手順を次に示します。

1. JP1/IM - EG for NNMi を終了する。
2. ホスト名, IP アドレス, ポート番号を変更する。
3. JP1/IM - EG for NNMi を再起動する。

(2) hosts ファイル, jp1hosts 定義ファイル, jp1hosts2 定義ファイルの変更時に必要な作業

JP1/IM - EG for NNMi の起動中に, hosts ファイル, jp1hosts 定義ファイル, または jp1hosts2 定義ファイルに記述しているホストの情報を変更する手順について説明します。

JP1/IM - EG for NNMi の自ホストの情報を変更する場合

ホストの情報を変更したあと, JP1/IM - EG for NNMi を再起動してください。

JP1/IM - EG for NNMi 以外のホストの情報を追加・変更する場合

ホストの情報を追加・変更したあと, JP1/IM - EG for NNMi を再起動してください。または, `jegn_spm�_reload` コマンドを実行して, 変更した内容を再度読み込んでください。`jegn_spm�_reload` コマンドの詳細については, 「7. コマンド」の「`jegn_spm�_reload`」を参照してください。

(3) クラスタシステムを運用している場合

クラスタシステムを運用している環境で論理ホスト名を変更する場合は, 変更前の論理ホストを削除してください。そのあと, 変更後の論理ホスト名に対して, クラスタ運用ができるよう再セットアップしてください。

論理ホストの削除方法については, 「[3.4 論理ホストの削除](#)」を参照してください。セットアップ方法については, 「[3.2 論理ホストのインストールとセットアップ](#)」を参照してください。

また, NNMi インシデント転送フィルター定義ファイル, カスタム属性マッピング定義ファイルに変更対象となる論理ホスト名を設定している場合は, 合わせて設定の見直しと再設定をお願いいたします。

これらのファイルの設定については、「4. NNMi インシデントから JP1 イベントへの変換」を参照してください。

6.2.3 JP1/IM - EG for NNMi が動作するシステムの日時を変更する

JP1/IM - EG for NNMi の運用中にシステムの日時を変更する場合の手順および注意事項について説明します。

(1) システムの日時変更時に必要な作業

システムの日時を変更する場合の手順および注意事項について説明します。

システムの日時を過去に戻す場合

システムの日時を変更する際、過去の日時に変更することは通常避けてください。システムの日時を過去に戻すと、JP1 イベントが発行されなかったり、重複して発行されたりすることがあります。

システムの日時を過去に戻す手順を次に示します。

1. JP1/IM - EG for NNMi を終了する。
2. システムの日時を戻す。
3. imevtgw_nnmi_last_forwarded.conf ファイル※を削除する。
4. 変更前のシステムの日時（手順 2. を実施した日時）まで、JP1/IM - EG for NNMi を停止しておく。
5. 次のコマンドを実行して、startup オプションの値を確認する。

```
jegn_setup -list [-h 論理ホスト名]
```

6. 次のコマンドを実行する。

```
jegn_setup -update [-h 論理ホスト名] -startup 0
```

7. JP1/IM - EG for NNMi を起動する。
8. 次のコマンドを実行して、startup オプションの値を元に戻す。

```
jegn_setup -update [-h 論理ホスト名] -startup 手順 5. で確認した値
```

9. 次のコマンドを実行して、手順 8. で設定した startup オプションの値を有効にする。

```
jegn_spmc_reload [-h 論理ホスト名]
```

システムの日時が遅れているため、日時を進める場合

システムの日時が遅れている場合に、日時を進める手順を次に示します。

1. JP1/IM - EG for NNMi を終了する。
2. システムの日時を進める。
3. imevtgw_nnmi_last_forwarded.conf ファイル※を削除する。
4. 次のコマンドを実行して、startup オプションの値を確認する。

```
jegn_setup -list [-h 論理ホスト名]
```

5. 次のコマンドを実行する。

```
jegn_setup -update [-h 論理ホスト名] -startup 0
```

6. JP1/IM - EG for NNMI を起動する。

7. 次のコマンドを実行して、startup オプションの値を元に戻す。

```
jegn_setup -update [-h 論理ホスト名] -startup 手順4.で確認した値
```

8. 次のコマンドを実行して、手順7.で設定した startup オプションの値を有効にする。

```
jegn_spmd_reload [-h 論理ホスト名]
```

注※

imevtgw_nnmi_last_forwarded.conf ファイルの格納先を次に示します。

Windows の場合

- 物理ホスト：インストールフォルダ¥JP1EG4NNMI¥dat
- 論理ホスト：共有フォルダ¥JP1EG4NNMI¥dat

UNIX の場合

- 物理ホスト：/var/opt/jp1eg4nnmi/dat
- 論理ホスト：共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/dat

(2) システムのタイムゾーン変更時に必要な作業

システムのタイムゾーンを変更する場合の手順および注意事項について説明します。なお、NNMi での手順および注意事項については、NNMi の各製品のマニュアルを参照してください。

1. JP1/IM - EG for NNMI を終了する。

2. システムのタイムゾーンを変更する。

3. imevtgw_nnmi_last_forwarded.conf ファイル※を削除する。

4. 次のコマンドを実行して、startup オプションの値を確認する。

```
jegn_setup -list [-h 論理ホスト名]
```

5. 次のコマンドを実行する。

```
jegn_setup -update [-h 論理ホスト名] -startup 0
```

6. JP1/IM - EG for NNMI を起動する。

7. 次のコマンドを実行して、startup オプションの値を元に戻す。

```
jegn_setup -update [-h 論理ホスト名] -startup 手順4.で確認した値
```

8. 次のコマンドを実行して、手順7.で設定した startup オプションの値を有効にする。

```
jegn_spmd_reload [-h 論理ホスト名]
```

注※

imevtgw_nnmi_last_forwarded.conf ファイルの格納先を次に示します。

Windows の場合

- 物理ホスト：インストールフォルダ¥JP1EG4NNMI¥dat
- 論理ホスト：共有フォルダ¥JP1EG4NNMI¥dat

UNIX の場合

- 物理ホスト：/var/opt/jp1eg4nnmi/dat
- 論理ホスト：共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/dat

6.3 運用上の注意事項

JP1/IM - EG for NNMi を運用するにあたって、知っておくべき注意事項について説明します。

- NNMi インシデントのダンプニング機能を次のコマンドにより無効にしてください。

```
nmsetdampenedinterval.ovpl -hours 0 -minutes 0 -seconds 0
```

ダンプニング機能が有効な場合は、NNMi のインシデントビューに表示されていないインシデントが、JP1/IM の統合コンソールに表示されることがあります。

- JP1/IM - EG for NNMi を IPv4 と IPv6 のデュアルスタック環境でご利用になる場合、NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの比較キーワードの中で、ソースノード（相互変換）（属性名:SRC）については IPv4 の NNMi インシデントに対してのみ使用できます。IPv6 の NNMi インシデントに対しては使用できません。
- OS のシャットダウン時に、イベントログや、統合トレースログ等に次のエラーメッセージが出力される場合があります。

```
KAVB3737-E JP1_EGN の jegneg4nnmi は異常終了しました
```

OS のシャットダウン時には、サービスコントロールマネージャ（SCM）から本製品のサービスへ停止要求が行われますが、OS からの強制停止により jegneg4nnmi プロセスが停止してしまう場合があります。この場合は、KAVB3737-E のメッセージが出力されますが、動作に問題ありません。

- ウィルス対策ソフトを使用する場合は、JP1/IM - EG for NNMi のインストールディレクトリおよびインストールディレクトリ配下全てをウィルススキャンの対象外に設定してください。

7

コマンド

この章では、JP1/IM - EG for NNMi で使用できるコマンドの文法を説明します。

コマンドの記述形式

ここでは、コマンドの記述形式について説明します。

各コマンドで説明する項目は次のとおりです。ただし、コマンドによっては説明しない項目もあります。

機能

コマンドの機能について説明しています。

形式

コマンドの形式について説明しています。

実行権限

コマンドの実行に必要なユーザーの権限について説明しています。

格納先ディレクトリ

コマンドの格納場所について説明しています。

引数

コマンドの引数について説明しています。

なお、引数は大文字と小文字を区別します。

注意事項

注意事項について説明しています。

戻り値

コマンドの戻り値について説明しています。

なお、コマンド実行時に表示されるメッセージについては、「[9. メッセージ](#)」を参照してください。

コマンド一覧

JP1/IM - EG for NNMi で使用できるコマンドの一覧を次に示します。表中では、Windows, UNIX の対応を凡例のように表記しています。

(凡例)

- ：対応している。
- －：対応していない。

注※

Windows の場合、スーパーユーザー権限は Administrators 権限を指します。

なお、次節以降のコマンドの説明では、コマンドはアルファベット順に記載されています。

起動・終了、セットアップに関するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
JP1/IM - EG for NNMi のセットアップをする	<code>jegn_setup</code>	○	○	スーパーユーザー権限 ※
JP1/IM - EG for NNMi を自動的に起動する	<code>jegn_start</code> (UNIX 限定)	－	○	スーパーユーザー権限
JP1/IM - EG for NNMi を自動的に終了する	<code>jegn_stop</code> (UNIX 限定)	－	○	スーパーユーザー権限
JP1/IM - EG for NNMi のプロセスの状態を確認する	<code>jegn_spmd_status</code>	○	○	スーパーユーザー権限 ※
JP1/IM - EG for NNMi のプロセスの状態を更新する	<code>jegn_spmd_reload</code>	○	○	スーパーユーザー権限 ※
クラスタシステムで運用するための設定をする	<code>jegn_setup_cluster</code>	○	○	スーパーユーザー権限 ※
クラスタシステムで JP1/IM - EG for NNMi を起動する	<code>jegn_start.cluster</code> (UNIX 限定)	－	○	スーパーユーザー権限
クラスタシステムで JP1/IM - EG for NNMi を終了する	<code>jegn_stop.cluster</code> (UNIX 限定)	－	○	スーパーユーザー権限
クラスタシステムで JP1/IM - EG for NNMi を強制的に終了する	<code>jegn_killall.cluster</code> (UNIX 限定)	－	○	スーパーユーザー権限

トラブルシューティングに使用するコマンド

機能概要	コマンド名	Windows	UNIX	必要な 実行権限
JP1/IM - EG for NNMi のトラブル発生時の資料を採取する	jeqn_log.bat (Windows 限定)	○	—	Administrators 権限
	jeqn_log.sh (UNIX 限定)	—	○	スーパーユーザー権限

jegn_killall.cluster (UNIX 限定)

機能

クラスタシステムで運用している場合に、JP1/IM - EG for NNMi のプロセスを強制的に終了します。

系切り替え時には、`jegn_stop.cluster` コマンドを実行してもプロセスが停止しないで、系切り替えが失敗することがあります。このコマンドは、停止しないプロセスを強制終了します。このコマンドは、正規の方法で JP1/IM - EG for NNMi のサービスを停止してもプロセスが停止しない場合にだけ使用してください。

終了させるプロセスを次に示します。

- プロセス管理 (`jegn_spmd`)
- メインサービス (`jegneg4nnmi`)

形式

```
jegn_killall.cluster [論理ホスト名]
```

実行権限

スーパーユーザー権限

格納先ディレクトリ

/etc/opt/jp1eg4nnmi

引数

論理ホスト名

このコマンドを実行させたい論理ホスト名を指定します。指定できる文字数は、1~32 (単位: バイト) です。このオプションを省略した場合、環境変数 `JP1_HOSTNAME` に指定した論理ホスト名が設定されます。環境変数 `JP1_HOSTNAME` を指定していない場合、物理ホスト名が設定されます。

注意事項

このコマンドは、論理ホスト名を先頭から 32 バイトまでで判定して、対応するプロセスを強制終了します。名称が 33 バイト以上の論理ホストのプロセスは強制終了できません。

戻り値

0	正常終了
1	論理ホスト名が指定されていない
2	ログディレクトリがない

jegn_log.bat (Windows 限定)

機能

JP1/IM - EG for NNMi で障害が発生したときに資料を採取するためのツールです。JP1/IM - EG for NNMi の保守資料、OS のシステム情報、統合トレースログなどを採取します。

このツールは、バッチファイルです。ユーザーによるカスタマイズはできません。

このツールを実行すると、指定した**資料格納フォルダ**の直下に、一次資料および二次資料に区別して採取された資料が格納されます。

一次資料は、障害時の切り分けや、軽度の障害の調査を目的に採取する資料です。必要最低限のログおよび設定ファイルを採取します。二次資料は、一次資料ではわからなかった障害をさらに調査するための詳細資料です。Windows イベントログ、クラッシュダンプ、JP1/Base のイベント DBなどを採取します。

必要に応じて採取した資料を圧縮ツールなどで圧縮してください。

このツールを使って採取できる資料の詳細については、「[10.3.1 採取が必要な資料 \(Windows の場合\)](#)」を参照してください。

形式

```
jegn_log.bat -f 資料格納フォルダ名  
              [-h 論理ホスト名]  
              [-t]  
              [-n]  
              [-p]  
              [-r]  
              [-q]
```

実行権限

Administrators 権限。ただし、UAC 機能が有効な場合は、管理者コンソールから実行してください。

格納先ディレクトリ

EG for NNMi パス¥tools

引数

-f 資料格納フォルダ名

採取した資料を出力するフォルダ名を絶対パス、またはこのコマンドを実行した場所からの相対パスで指定します。パスにスペースを含む場合は、「”」で囲んで指定します。このオプションは省略できません。

存在しないフォルダを指定した場合は、その名称でフォルダが新規作成されます。すでに存在するフォルダを指定した場合は、いったんそのフォルダを削除してから、指定したフォルダが作成されます。削除したくないファイルが格納されているフォルダと同じフォルダ名は指定しないでください。

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。指定できる文字数は、1~255（単位：バイト）です。このオプションを指定した場合、物理ホストと論理ホストの両方の資料を採取します。このオプションを省略した場合、物理ホストの資料だけ採取します。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

なお、このオプションを省略した場合、通常のコマンドは環境変数JP1_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が設定されますが、このコマンドでは設定されません。このため、クラスタシステムで使用する場合には論理ホスト名を必ずこのオプションで指定してください。

-t

hosts およびservices ファイルを採取しない場合に指定します。

-n

JP1/Base の保守資料を採取しない場合に指定します。

-p

JP1/Base のイベント DB を取得しない場合に指定します。

-r

JP1/Base のコマンド実行履歴ファイルを採取しない場合に指定します。

-q

資料採取処理の続行確認の応答待ちが必要ない場合に指定します。

-q オプションを指定しない場合は、続行確認のメッセージとともに応答待ちになります。

注意事項

- このツールによって採取できる資料の総容量は膨大になるため、このツールを実行する前に必要容量を見積もり、ご使用のマシンの空き容量を確認する必要があります。採取する資料のサイズについては、JP1/IM - EG for NNMi のリリースノートを参照してください。
- このツールを同時に複数実行しないでください。資料が上書きされたり、採取できなかつたりする場合があります。
- 採取するファイルが見つからない場合、「ファイルが見つかりません」などのメッセージが表示されることがありますが、対処の必要はありません。

- Windows で資料採取コマンドを実行した場合、「システム情報を更新しています」というプロンプトが表示されますが、キャンセルボタンを押さないようにしてください。キャンセルボタンを押した場合、一部の情報が収集されません。

戻り値

0	正常終了
8	異常終了

jegn_log.sh (UNIX 限定)

機能

JP1/IM - EG for NNMi で障害が発生したときに資料を採取するためのツールです。JP1/IM - EG for NNMi の保守資料、OS のシステム情報、統合トレースログなどを採取します。

このツールは、シェルスクリプトです。ユーザーによるカスタマイズはできません。

このツールを実行すると、資料を採取する対象ディレクトリまたはファイルを一次資料および二次資料に区分けし、指定した資料格納ディレクトリの直下でアーカイブしたあと、圧縮ファイルを作成します。

一次資料は、障害時の切り分けや、軽度の障害の調査を目的に採取する資料です。必要最低限のログおよび設定ファイルを採取します。二次資料は、一次資料ではわからなかった障害をさらに調査するための詳細資料です。core 解析情報、JP1/Base のイベント DBなどを採取します。

また、JP1/IM - EG for NNMi のコアダンプがある状態でこのコマンドを実行すると、KNAG1044-I メッセージが表示されて、コアダンプを削除するかどうかを確認してきます。「y」または「yes」を入力した場合、コアダンプは削除されます。

このツールを使って採取できる資料の詳細については、「[10.3.2 採取が必要な資料 \(UNIX の場合\)](#)」を参照してください。

形式

```
jegn_log.sh -f 資料格納ディレクトリ名
              [-h 論理ホスト名]
              [-t]
              [-u]
              [-n]
              [-p]
              [-r]
              [-q]
              [ディレクトリ名またはファイル名...]
```

実行権限

スーパーユーザー権限

格納先ディレクトリ

/opt/jp1eg4nnmi/tools

引数

-f 資料格納ディレクトリ名

採取した資料の格納ディレクトリ名を、スペースを含まない絶対パスで指定します。このオプションは省略できません。

以前に採取した資料が残っているディレクトリ名を指定した場合、採取した資料を上書きしてよいかどうかの確認メッセージが表示されます。ただし、`-q` オプションを指定した場合、資料は上書きされます。

なお、テープなどのデバイスファイル名を指定した場合、採取した資料は圧縮されずにデバイスに格納されます。

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。指定できる文字数は、1~255 (単位: バイト) です。このオプションを指定した場合、物理ホストと論理ホストの両方の資料を採取します。このオプションを省略した場合、物理ホストの資料だけ採取します。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

なお、このオプションを省略した場合、通常のコマンドは環境変数 `JP1_HOSTNAME` に指定した論理ホスト名が設定されますが、このコマンドでは設定されません。このため、クラスタシステムで使用する場合には論理ホスト名を必ずこのオプションで指定してください。

-t

`hosts`, `services`, および `passwd` ファイルを採取しない場合に指定します。

-u

`core` 解析情報を採取しない場合に指定します。

-n

`JP1/Base` の保守資料を採取しない場合に指定します。

-p

`JP1/Base` のイベント DB を取得しない場合に指定します。

-r

`JP1/Base` のコマンド実行履歴ファイルを採取しない場合に指定します。

-q

資料採取処理の続行確認の応答待ちが必要ない場合に指定します。

`-q` オプションを指定しない場合は、続行確認のメッセージとともに応答待ちになります。

ディレクトリ名またはファイル名

このツールで任意のファイルまたはディレクトリを採取したいときに指定します。絶対パス名で指定してください。複数指定する場合は、スペースで区切ってください。

なお、このオプションは、指定したいほかのオプションをすべて指定したあとに指定してください。採取した資料は物理ホストの一次資料に格納されます。

注意事項

- このツールによって採取できる資料の総容量は膨大になるため、このツールを実行する前に必要容量を見積もり、ご使用のマシンの空き容量を確認する必要があります。採取する資料のサイズについては、JP1/IM - EG for NNMi のリリースノートを参照してください。
- このツールを同時に複数実行しないでください。資料が上書きされたり、採取できなかつたりする場合があります。
- 採取するファイルが見つからない場合、「ファイルが見つかりません」などのメッセージが表示されることがありますが、対処の必要はありません。

戻り値

0	正常終了
8	異常終了

jegn_setup

機能

JP1/IM - EG for NNMi の動作環境を設定します。

形式

新規セットアップする場合

```
jegn_setup [-h 論理ホスト名]
            -user NNMiユーザー名
            -passwd NNMiパスワード
            [-port NNMiポート番号]
            [-lang NNMi言語]
            [-interval NNMiインシデント再取得間隔]
            [-startup NNMiインシデント取得方法]
            [-ssl TLS使用可否]
```

上書きセットアップする場合

```
jegn_setup -update
            [-h 論理ホスト名]
            [-user NNMiユーザー名]
            [-passwd NNMiパスワード]
            [-port NNMiポート番号]
            [-lang NNMi言語]
            [-interval NNMiインシデント再取得間隔]
            [-startup NNMiインシデント取得方法]
            [-ssl TLS使用可否]
```

動作環境を確認する場合

```
jegn_setup -list
            [-h 論理ホスト名]
```

実行権限

Windows の場合：Administrators 権限。ただし、UAC 機能が有効な場合は、管理者コンソールから実行してください。

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

格納先ディレクトリ

Windows の場合

EG for NNMi パス#bin

UNIX の場合

/opt/jp1eg4nnmi/bin

7. コマンド

引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、動作環境を設定する論理ホスト名を指定します。指定できる文字数は、Windows の場合は 1~196 (単位: バイト), UNIX の場合は 1~255 (単位: バイト) です。このオプションを省略した場合、環境変数 `JP1_HOSTNAME` に指定した論理ホスト名が設定されます。環境変数 `JP1_HOSTNAME` を指定していない場合、物理ホスト名が設定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

-user NNMi ユーザー名

NNMi の Web サービスクライアントのユーザー名を指定します。指定できる文字数は 1~40 文字です。ユーザー名に使用できる文字は、半角英数字、半角記号、および半角スペースです。半角スペースを含む場合は、「`”`」で囲んで指定してください。

新規セットアップする場合は、このオプションは省略できません。

-passwd NNMi パスワード

NNMi の Web サービスクライアントのパスワードを指定します。指定できる文字数は 1~40 文字です。パスワードに使用できる文字は、半角英数字、半角記号、および半角スペースです。半角スペースを含む場合は、「`”`」で囲んで指定してください。

新規セットアップする場合は、このオプションは省略できません。

-port NNMi ポート番号

接続する NNMi のポート番号を指定します。指定できる値は 1~65535 です。

このオプションを省略した場合、`-ssl` オプションに `true` を指定しているときは **443**、`false` を指定しているときは **80** が設定されます。

-lang NNMi 言語

接続する NNMi の言語を指定します。NNMi を日本語でインストールした場合は `ja` を、英語でインストールした場合は `en` を指定してください。

このオプションを省略した場合、`JP1/Base` で設定した言語種別が日本語のときは `ja`、英語のときは `en` が設定されます。

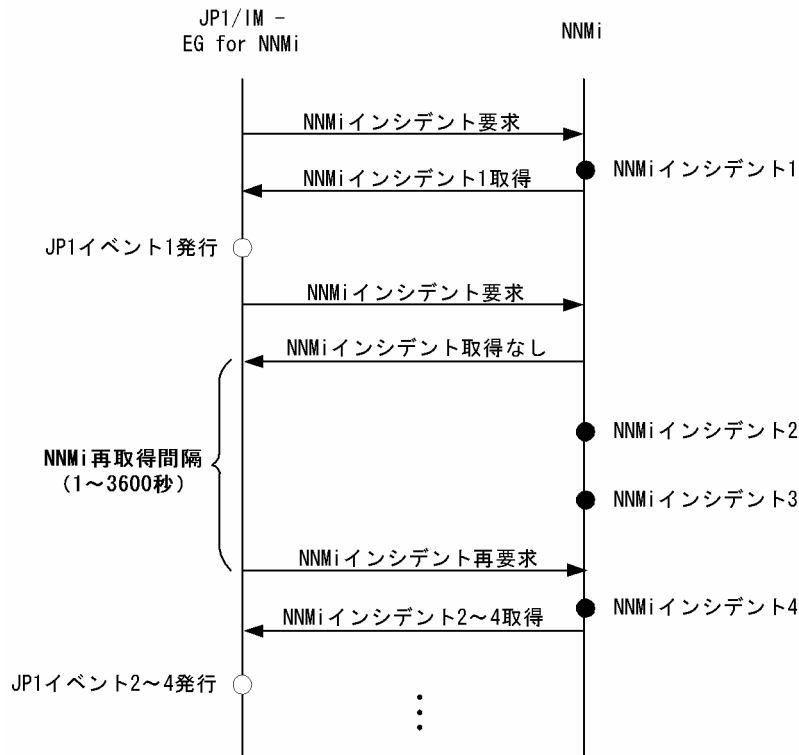
-interval NNMi インシデント再取得間隔

取得できる NNMi インシデントが 1 件も存在しない場合、または通信エラーなどで例外が発生した場合に、NNMi インシデントを再取得する間隔を指定します。指定できる値は、1~3600 (単位: 秒) です。

このオプションを省略した場合、**30** が設定されます。

NNMi インシデントを再取得する間隔を次の図に示します。

図 7-1 NNMi インシデントを再取得する間隔



JP1/IM - EG for NNMi から NNMi に、NNMi インシデントの取得を要求します。取得できる NNMi インシデントが存在した場合は、その NNMi インシデントを取得します。取得した NNMi インシデントを変換して JP1 イベントを発行したら、次の NNMi インシデントを要求します。

もし、取得できる NNMi インシデントが存在しない場合は、このオプションで指定した時間が経過してから、再度 NNMi インシデントを要求します。

-startup NNMi インシデント取得方法

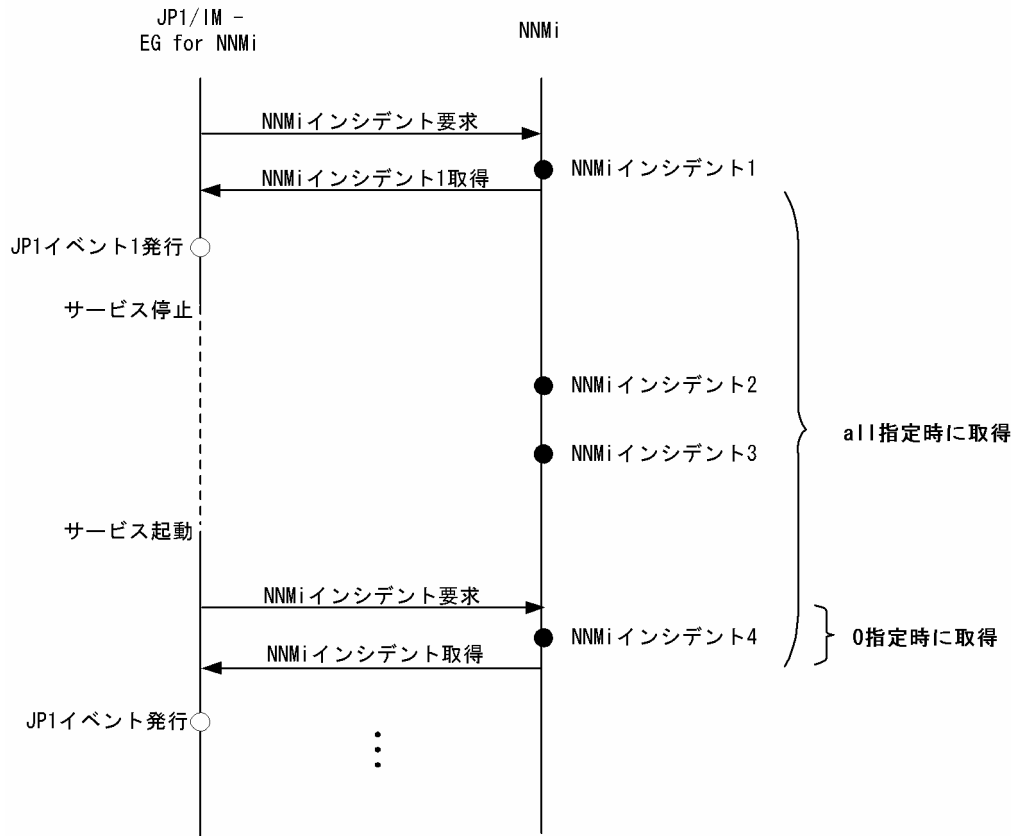
JP1/IM - EG for NNMi のサービス起動時（初回起動時を除く）に、サービス停止中に発行された NNMi インシデントを取得する場合、何時間前の NNMi インシデントから取得するかを指定します。指定できる値は **all**、または 0~240（単位：時間）です。

all を指定すると、最後に NNMi インシデントを取得した時刻から現在までに発行された、すべての NNMi インシデントを取得します。0 以外の整数を指定すると、指定した時間分さかのぼった時刻から現在までに発行された NNMi インシデントを取得します。0 を指定すると、サービス停止中に発行された NNMi インシデントは取得しません。

このオプションを省略した場合、0 が設定されます。

サービス起動時に取得する NNMi インシデントの範囲を次の図に示します。

図 7-2 サービス起動時に取得する NNMi インシデントの範囲



-ssl TLS 使用可否

NNMi に接続するときに TLS を使用するかどうかを指定します。TLS を使用する場合は `true` を、TLS を使用しない場合は `false` を指定してください。

このオプションを省略した場合、`false` が設定されます。

-update

上書きセットアップの場合に指定します。指定したオプションの情報だけ変更されます。指定しなかったオプションの情報は、前回設定した情報が引き継がれます。

なお、JP1/IM - EG for NNMi のサービスが起動している場合に、`jegn_setup` コマンドを実行したときは、`jegn_spmd_reload` コマンドを実行するか、JP1/IM - EG for NNMi のサービスを再起動して、変更した情報を有効にしてください。JP1/IM - EG for NNMi のサービスが停止している場合に、`jegn_setup` コマンドを実行したときは、次にサービスを起動したときに変更した情報が有効になります。

-list

現在の設定内容を表示する場合に指定します。このオプションを指定すると、各オプションの設定値が「オプション名：設定値」の形式で表示されます。ただし、パスワードについては常に「*****」が表示されます。表示例を次に示します。

```

user:hitachi
passwd:*****
    
```

```
port:80  
lang:ja  
interval:30  
startup:0  
ssl:false
```

戻り値

0	正常終了
1	異常終了

jegn_setup_cluster

機能

JP1/IM - EG for NNMi をクラスタシステムで運用する場合の動作環境を設定します。

形式

実行系サーバの動作環境を設定する場合

```
jegn_setup_cluster -h 論理ホスト名 -d 共有ディレクトリ名
```

待機系サーバの動作環境を設定する場合 (Windows 限定)

```
jegn_setup_cluster -h 論理ホスト名
```

実行権限

Windows の場合：Administrators 権限。ただし、UAC 機能が有効な場合は、管理者コンソールから実行してください。

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

格納先ディレクトリ

Windows の場合

EG for NNMi パス#bin

UNIX の場合

/opt/jp1eg4nnmi/bin

引数

-h 論理ホスト名

動作環境を設定する論理ホスト名を指定します。指定できる文字数は、Windows の場合は 1~196 (単位：バイト)、UNIX の場合は 1~255 (単位：バイト) です。

-d 共有ディレクトリ名

クラスタシステム運用時に使用する共有ディレクトリ名を指定します。実行系サーバの動作環境を設定する場合に指定してください。このオプションを省略した場合は、待機系サーバの動作環境が設定されます。

注意事項

-d オプションを指定する場合 (実行系サーバの動作環境を設定する場合) は、必ず共有ディスクをマウントした状態で実行してください。

戻り値

0	正常終了
1	異常終了

jegn_spmd_reload

機能

JP1/IM - EG for NNMi のプロセスの状態を更新します。JP1/IM - EG for NNMi の定義情報を変更した場合に、変更した内容を再度読み込んで有効にします。

jegn_spmd_reload コマンドの実行で有効になる定義ファイルについては、「[6.2.1 定義ファイルを変更する](#)」を参照してください。

形式

```
jegn_spmd_reload [-h 論理ホスト名]
                  [-t 監視時間]
```

実行権限

Windows の場合：Administrators 権限。ただし、UAC 機能が有効な場合は、管理者コンソールから実行してください。

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

格納先ディレクトリ

Windows の場合

EG for NNMi パス¥bin

UNIX の場合

/opt/jp1eg4nnmi/bin

引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。指定できる文字数は、1~255（単位：バイト）です。このオプションを省略した場合、環境変数JP1_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が設定されます。環境変数JP1_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が設定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

-t 監視時間

jegn_spmd_reload コマンドの実行終了を待つ時間を秒単位で指定します。指定できる値は、0~32767（単位：秒）です。このオプションを省略した場合、60 が設定されます。指定した時間内にjegn_spmd_reload コマンドの実行が終わらない場合、jegn_spmd_reload コマンドの実行が失敗したとみなされ、変更前の定義内容で動作が継続されます。

注意事項

- 同一ホスト上で、`jegn_spmc_reload` および `jegn_spmc_status` コマンドを同時に複数実行することはできません。
- JP1/IM - EG for NNMi の定義ファイル※に誤りがある場合、`jegn_spmc_reload` コマンドの実行時にタイムアウトエラーになります。そのため、タイムアウトエラーになった際には統合トレースログを参照して、定義ファイルの誤りに関するログが存在しないかを確認してください。定義ファイルの誤りのエラーが存在した場合、該当の定義ファイル内容を正しく修正した後に `jegn_spmc_reload` コマンドを実行してください。

注※

定義ファイルの詳細について、「[6.2.1 定義ファイルを変更する](#)」を参照してください。

戻り値

0	正常終了
0 以外の値	異常終了

jegn_spmd_status

機能

JP1/IM - EG for NNMi の管理するプロセスが起動または終了しているかどうかを確認するコマンドです。jegn_spmd_status コマンドを実行して正常にプロセスが動作しているときは、プロセス名 (jegneg4nnmi) とプロセス ID が表示されます。

JP1/IM - EG for NNMi の管理するプロセスについては、「[付録 B プロセス一覧](#)」を参照してください。

形式

```
jegn_spmd_status [-h 論理ホスト名]
                  [-t 監視時間]
```

実行権限

Windows の場合：Administrators 権限。ただし、UAC 機能が有効な場合は、管理者コンソールから実行してください。

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

格納先ディレクトリ

Windows の場合

EG for NNMi パス¥bin

UNIX の場合

/opt/jp1eg4nnmi/bin

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。指定できる文字数は、1~255 (単位：バイト) です。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が設定されます。環境変数 JP1_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が設定されます。クラスタシステムを使用していない場合には指定は不要です。

-t 監視時間

jegn_spmd_status コマンドの実行終了を待つ時間を秒単位で指定します。指定できる値は、0~32767 (単位：秒) です。このオプションを省略した場合、60 が設定されます。指定した時間内に jegn_spmd_status コマンドの実行が終わらない場合、jegn_spmd_status コマンドの実行が失敗したとみなされます。

注意事項

同一ホスト上で、jegn_spmd_reload および jegn_spmd_status コマンドを同時に複数実行することはできません。

戻り値

0	すべてのプロセスが起動している
1	プロセス管理との通信などでエラーが発生した、またはクラスタシステムで運用している場合に共有フォルダ（共有ディレクトリ）がマウントされていない
4	一部のプロセスが停止している
8	すべてのプロセスが停止している
12	要求処理中、またはタイムアウトした（リトライ可能）

jegn_start (UNIX 限定)

機能

JP1/IM - EG for NNMi を自動的に起動するためのスクリプトです。

このスクリプトを使用するためには、JP1/IM - EG for NNMi のインストールとセットアップの完了後、次に示すコマンドの実行が必要です。

```
# cd /etc/opt/jp1eg4nnmi
# cp -p jegn_start.model jegn_start
```

上記のコマンドを実行すると、システムの開始時に JP1/IM - EG for NNMi が自動的に起動するようになります。

なお、上記のコマンドを実行する前に NNMi および JP1/Base を起動してください。JP1/Base のイベントサービスが起動していない場合に上記のコマンドを実行したときは、戻り値 1 で異常終了します。

JP1/IM - EG for NNMi のプロセスに起動要求を出したあと、戻り値 0 で終了します。プロセスが正しく起動したかどうかは、jegn_spmc_status コマンドで確認してください。

形式

```
jegn_start
```

実行権限

スーパーユーザー権限

格納先ディレクトリ

/etc/opt/jp1eg4nnmi

注意事項

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルに不正な定義が記述されている場合などにjegn_start コマンドを実行すると、サービスの起動に失敗しても、内部でサービス起動状況を確認 (jegn_spmc_status コマンドを複数回発行) するため、実行結果が表示されるまで時間がかかります。コマンドが終了し、「KAVB3662-I」が表示された場合は、統合トレースログを確認し、出力されたメッセージの対処を行ってから、再度実行してください。

戻り値

0	正常終了
1	引数が指定されている、またはイベントサービスが起動していない
2	ログディレクトリがない

jegn_start.cluster (UNIX 限定)

機能

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト上の JP1/IM - EG for NNMi を起動します。クラスタソフトにこのコマンドを登録することによって、JP1/IM - EG for NNMi が起動します。

このコマンドを実行する前に、同じ論理ホスト上の NNMi および JP1/Base を起動してください。JP1/Base のイベントサービスが起動していない場合にこのコマンドを実行したときは、戻り値 1 で異常終了します。

JP1/IM - EG for NNMi のプロセスに起動要求を出したあと、戻り値 0 で終了します。プロセスが正しく起動したかどうかは、jegn_start.cluster コマンドの終了後、jegn_spmd_status コマンドで確認してください。

形式

```
jegn_start.cluster [論理ホスト名]
```

実行権限

スーパーユーザー権限

格納先ディレクトリ

/etc/opt/jp1eg4nnmi

引数

論理ホスト名

このコマンドを実行させたい論理ホスト名を指定します。指定できる文字数は、1~63 (単位: バイト) です。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が設定されます。環境変数 JP1_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が設定されます。

戻り値

0	正常終了
1	引数が二つ以上指定されている, またはイベントサービスが起動していない
2	ログディレクトリがない

jegn_stop (UNIX 限定)

機能

JP1/IM - EG for NNMi を自動的に終了するためのスクリプトです。

このスクリプトを使用するためには、JP1/IM - EG for NNMi のインストールとセットアップの完了後、次に示すコマンドの実行が必要です。

```
# cd /etc/opt/jpleg4nnmi
# cp -p jegn_stop.model jegn_stop
```

上記のコマンドを実行すると、システムの終了時に JP1/IM - EG for NNMi が自動的に終了するようになります。

形式

```
jegn_stop
```

実行権限

スーパーユーザー権限

格納先ディレクトリ

/etc/opt/jpleg4nnmi

注意事項

JP1/IM - EG for NNMi を終了する場合は、NNMi より先に終了してください。NNMi が先に終了した場合は、統合トレースログに KNAG2032-E メッセージまたは KNAG2033-E メッセージを出力します。

戻り値

0	正常終了
1	引数が指定されている、または停止要求がタイムアウトした

jegn_stop.cluster (UNIX 限定)

機能

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト上の JP1/IM - EG for NNMi を終了します。このコマンドを実行する場合は、クラスタソフトにこのコマンドを登録してください。

形式

```
jegn_stop.cluster [論理ホスト名]
```

実行権限

スーパーユーザー権限

格納先ディレクトリ

/etc/opt/jp1eg4nnmi

引数

論理ホスト名

このコマンドを実行させたい論理ホスト名を指定します。指定できる文字数は、1～63（単位：バイト）です。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が設定されます。環境変数 JP1_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が設定されます。

注意事項

- このコマンドは同時に複数実行することはできません。
- JP1/IM - EG for NNMi を終了する場合は、NNMi より先に終了してください。NNMi が先に終了した場合は、統合トレースログに KNAG2032-E メッセージまたは KNAG2033-E メッセージを出力します。

戻り値

0	正常終了
1	引数が二つ以上指定されている、または停止要求がタイムアウトした

8

JP1 イベント

この章では、NNMi インシデントを変換した JP1 イベント、および JP1/IM - EG for NNMi が出力する JP1 イベントの、種類とその属性について説明します。

8.1 JP1 イベントの属性

JP1/IM - EG for NNMi で扱う JP1 イベントには、次の二つがあります。

- NNMi インシデントを変換した JP1 イベント
- JP1/IM - EG for NNMi が出力する JP1 イベント

それぞれの JP1 イベントの詳細については、8.2 節以降で説明します。この節では、JP1 イベントの属性について説明します。

JP1 イベントの属性には基本属性と拡張属性があります。

基本属性

すべての JP1 イベントが持っている属性です。

拡張属性

JP1 イベントを発行するプログラムが独自に割り当てる属性です。拡張属性には、さらに次の二つの情報があります。

- **共通情報**
JP1 プログラムで統一されている情報を示します。
- **固有情報**
共通情報以外の拡張属性を示します。

8.2 NNMi インシデントを変換した JP1 イベント

NNMi インシデントを JP1 イベントに変換する場合、NNMi インシデントの属性と JP1 イベントの属性がマッピングされます。マッピングされる属性には、次の二つがあります。

- デフォルトでマッピングされる属性
- NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルに設定することで、追加でマッピングされる属性

NNMi インシデントを変換した JP1 イベントの属性を次の表に示します。

表 8-1 NNMi インシデントを変換した JP1 イベントの属性

属性種別	項目	属性名	内容	サイズ	マッピング	
基本属性	イベント ID	なし	発行アプリケーションのプログラムや事象の内容を表す値。 NNMi の場合：0x00006100	—	◎	
	メッセージ	なし	イベントの内容を表した文字列。 デフォルトでは、NNMi インシデントのメッセージが設定される。 NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルでマッピングを設定できる。	—	◎	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	NNMi インシデントの重大度を JP1 イベントの重大度に変換したもの。 NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルでマッピングを設定できる。	5~11 バイト	◎
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	JP1 イベントを発行したプログラム名。 NNMi の場合：/HITACHI/JP1/IM/ NNMI_INCIDENT	29 バイト	◎
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	イベント発行の契機となったオブジェクトの種類を表す名称。 NNMi の場合：NNMI_INCIDENT	13 バイト	◎
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	イベント発行の契機となったオブジェクト（ジョブ、ジョブネットなど）の名称。 NNMi の場合：NNMi で設定されたイベント名（NNMI_NAME）	1~64 文字	◎
		登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	オブジェクトの種別。 NNMi の場合：NNMI_INCIDENT	13 バイト	◎
		登録名	ROOT_OBJECT_NAME	ユーザーの操作時に実行を指示する単位になる名称。 NNMi の場合：NNMi で設定されたイベント名（NNMI_NAME）	1~64 文字	◎

属性種別		項目	属性名	内容	サイズ	マッピング
拡張属性	共通情報	事象種別	OCCURRENCE	オブジェクト名に示したオブジェクトに対して起こった事象。 NNMi の場合：RECEIVE	7バイト	◎
	固有情報	拡張属性マッピング実行結果	NNMI_EM_RESULT	追加した拡張属性のマッピング処理の実行結果。 詳細については、「4.1.3(3)(b) 拡張属性のマッピング結果の確認」を参照してください。	1~19バイト	◎※1
		インシデントUUID	NNMI_UUID	NNMi インシデントの UUID。	1~36文字	◎※1
		ソースオブジェクト名	NNMI_SRC_NAME	NNMi インシデントのソースオブジェクト名。	1~255文字	○
		ソース種別	NNMI_SRC_TYPE	NNMi インシデントのソース種別。	1~50文字	○
		ソースノード	NNMI_SRC_NODE_NAME	NNMi インシデントのソースノード名。	1~255文字	◎
		名前	NNMI_NAME	NNMi インシデントの名前。	1~64文字	◎
		NNMi インシデントの重大度	NNMI_SEVERITY	NNMi インシデントの重大度。	1~255文字	◎
		優先度	NNMI_PRIORITY	NNMi インシデントの優先度。	1~255文字	○
		ライフサイクル状態	NNMI_LIFECYCLE_STATE	NNMi インシデントのライフサイクル状態。	1~255文字	○
		割り当て先	NNMI_ASSIGNED_TO	NNMi インシデントの割り当て先。	1~255文字	○
		カテゴリ	NNMI_CATEGORY	NNMi インシデントのカテゴリ。	1~255文字	○

属性種別		項目	属性名	内容	サイズ	マッピング
拡張属性	固有情報	ファミリー	NNMI_FAMILY	NNMi インシデントのファミリー。	1~255文字	○
		発生元	NNMI_ORIGIN	NNMi インシデントの発生元。	1~255文字	○
		関連処理特性	NNMI_NATURE	NNMi インシデントの関連処理特性。	1~255文字	○
		重複数	NNMI_DUPLICATE_COUNT	NNMi インシデントの重複数。	1~10バイト	○
		メッセージ	NNMI_FORMATTED_MESSAGE	NNMi インシデントのメッセージ。	1~1,024文字	◎
		注	NNMI_NOTES	NNMi インシデントの注。	1~256文字	○*5
		RCAアクティブ	NNMI_RCA_ACTIVE	NNMi インシデントのRCA アクティブ。	4~5文字	○
		元の発生日時	NNMI_ORIGIN_OCCUR_TIME	NNMi インシデントの元の発生日時*2。	1~17バイト	◎
		元の発生日時 (ミリ秒)	NNMI_ORIGIN_OCCUR_TIME_MS	NNMi インシデントの元の発生日時 (ミリ秒) *3。	1~19バイト	○
		最初の発生日時	NNMI_FIRST_OCCUR_TIME	NNMi インシデントの最初の発生日時*2。	1~17バイト	○
		最初の発生日時 (ミリ秒)	NNMI_FIRST_OCCUR_TIME_MS	NNMi インシデントの最初の発生日時 (ミリ秒) *3。	1~19バイト	○
		最後の発生日時	NNMI_LAST_OCCUR_TIME	NNMi インシデントの最後の発生日時*2。	1~17バイト	○
		最後の発生日時 (ミリ秒)	NNMI_LAST_OCCUR_TIME_MS	NNMi インシデントの最後の発生日時 (ミリ秒) *3。	1~19バイト	○

属性種別		項目	属性名	内容	サイズ	マッピング
拡張属性	固有情報	作成日時	NNMI_CREATED	NNMi インシデントの作成日時 ^{※2} 。	1~17 バイト	○
		作成日時 (ミリ秒)	NNMI_CREATED_MS	NNMi インシデントの作成日時 (ミリ秒) ^{※3} 。	1~19 バイト	○
		最終変更日時	NNMI_MODIFIED	NNMi インシデント取得時点の最終変更日時 ^{※2} 。	1~17 バイト	○
		最終変更日時 (ミリ秒)	NNMI_MODIFIED_MS	NNMi インシデント取得時点の最終変更日時 (ミリ秒) ^{※3} 。	1~19 バイト	○
		重大度の一意キー	NNMI_SEVERITY_UK	NNMi インシデントの重大度の一意キー。	5~8 バイト	◎ ^{※1}
		優先度の一意キー	NNMI_PRIORITY_UK	NNMi インシデントの優先度の一意キー。	1~80 文字	○ ^{※1}
		ライフサイクル状態の一意キー	NNMI_LIFECYCLE_STATE_UK	NNMi インシデントのライフサイクル状態の一意キー。	1~80 文字	○ ^{※1}
		カテゴリの一意キー	NNMI_CATEGORY_UK	NNMi インシデントのカテゴリの一意キー。	1~80 文字	○ ^{※1}
		ファミリーの一意キー	NNMI_FAMILY_UK	NNMi インシデントのファミリーの一意キー。	1~80 文字	○ ^{※1}
		発生元の一意キー	NNMI_ORIGIN_UK	NNMi インシデントの発生元の一意キー。	5~18 バイト	○ ^{※1}
		関連処理特性の一意キー	NNMI_NATURE_UK	NNMi インシデントの関連処理特性の一意キー。	4~18 バイト	○ ^{※1}
		カスタム属性数	NNMI_CIA_NUM	NNMi インシデントのカスタム属性数。	1~10 バイト	○

属性種別		項目	属性名	内容	サイズ	マッピング
拡張属性	固有情報	カスタム属性名	NNMI_CIA_NAME_\$n	NNMi インシデントのカスタム属性名。 \$n はカスタム属性のインデックス※4。	1~80 文字	○
		カスタム属性タイプ	NNMI_CIA_TYPE_\$n	NNMi インシデントのカスタム属性タイプ。 \$n はカスタム属性のインデックス※4。	6~15 バイト	○
		カスタム属性値	NNMI_CIA_VALUE_\$n	NNMi インシデントのカスタム属性値。 \$n はカスタム属性のインデックス※4。	1~ 2,000 文字	○
		NNMi 接続プロトコル	NNMI_PROTOCOL	NNMi に接続するときのプロトコル。	4~5 バイト	◎※1
		NNMi サーバ名	NNMI_SERVER	接続先の NNMi のホスト名。	1~ 255 バイト	◎※1
		NNMi ポート番号	NNMI_PORT	接続先の NNMi のポート番号。	1~5 バイト	◎※1

(凡例)

－：サイズを考慮する必要はない

◎：デフォルトでマッピングされる属性

○：NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルに設定することで、追加でマッピングされる属性

注※1

NNMi インシデントが内部的に保持する属性です。JP1/IM - Manager のバージョンが 11-10 以前の場合は、通常の運用時には使用しないため、JP1 イベントに変換しても、デフォルトでは JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面には表示されません。これらの属性を表示したい場合は、「4.4.1(3) 内部属性を [イベント詳細] 画面に表示したい場合」を参照してください。なお、イベント拡張属性定義ファイルに定義を追加する場合は、すべての言語のイベント拡張属性定義ファイルに定義を追加してください。一部の言語のイベント定義ファイルに定義を追加していない場合は、定義が有効になりません。

注※2

1970年1月1日 00:00:00 (世界標準時) から経過した秒数で表されます。なお、JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面に表示されるときは、ビューアーホストのローカルタイムゾーンで指定された時刻を使用して、時刻形式で書式化して表示されます。

注※3

1970年1月1日 00:00:00 (世界標準時) から経過したミリ秒数で表されます。

注※4

\$n は 1~カスタム属性数 (NNMI_CIA_NUM) の数字が入ります。なお、JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面にデフォルトで表示されるのは、\$n が 1~20 の属性です。21 以降の属性を表示したい場合は、「4.4.1(4) カスタム属性を [イベント詳細] 画面に表示したい場合」を参照してください。

例：4 番目のカスタム属性値の場合「NNMI_CIA_VALUE_4」と定義してください。

注※5

NNMi インシデントを JP1 イベントに変換した後に NNMi インシデントの属性「注」に値を入力しても JP1 イベントにはマッピングされません。JP1/IM - EG for NNMi が NNMi からインシデントを取得する前に値を入力している場合だけマッピングできます。

8.3 JP1/IM - EG for NNMi が出力する JP1 イベント

JP1/IM - EG for NNMi が出力する JP1 イベントの属性を次の表に示します。

表 8-2 JP1/IM - EG for NNMi が出力する JP1 イベントの属性

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性		イベント ID	なし	発行アプリケーションのプログラムや事象の内容を表す値。
		メッセージ	なし	イベントの内容を表した文字列。
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	JP1 イベントの緊急性を表す。緊急性の高い順に、次の値がある。 Emergency (緊急) Alert (警戒) Critical (致命的) Error (エラー) Warning (警告) Notice (通知) Information (情報) Debug (デバッグ)
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	JP1 イベントを発行したプログラム名。JP1/IM - EG for NNMi の場合のプログラム名を次に示す。 /HITACHI/JP1/IM/NNMI/SPMD
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	イベント発行の契機となったオブジェクトの種類を表す名称。
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	イベント発行の契機となったオブジェクト (ジョブ、ジョブネットなど) の名称。
		事象種別	OCCURRENCE	オブジェクト名に示したオブジェクトに対して起こった事象。

8.4 JP1/IM - EG for NNMi が出力する JP1 イベントの詳細

この節では、JP1/IM - EG for NNMi が出力するイベントの詳細について説明します。

8.4.1 JP1/IM - EG for NNMi が出力する JP1 イベント一覧

JP1/IM - EG for NNMi が出力する JP1 イベントを次の表に示します。

表 8-3 JP1/IM - EG for NNMi が出力する JP1 イベント一覧

イベント ID	発行契機	メッセージ
0x00006100	NNMi インシデントを JP1 イベントに変換した場合	—
0x000061F0*	プロセスが異常終了した場合	KAVB3737-E コンポーネント名の管理対象プロセス名は異常終了しました
0x000061F1*	プロセス起動時にタイムアウトした場合	KAVB3613-W コンポーネント名の管理対象プロセス名の起動がタイムアウトしました 処理を継続します
0x000061F2*	異常終了したプロセスが再起動を完了した場合	KAVB3616-I コンポーネント名の管理対象プロセス名の再起動が完了しました

(凡例)

— : NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルでマッピングしたメッセージが出力される。

注※

プロセスの異常時に JP1 イベントを発行させる設定をした場合にだけ発行されます。JP1 イベントを発行させる設定については、「2.4.5(3) プロセス異常検知時の JP1 イベントの発行の設定」を参照してください。

8.4.2 JP1 イベントの詳細

JP1 イベントの詳細をイベント ID 別に示します。

(1) イベント ID : 0x00006100 の詳細

NNMi インシデントを変換した JP1 イベントです。詳細については、「8.2 NNMi インシデントを変換した JP1 イベント」を参照してください。

(2) イベント ID : 0x000061F0 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	なし	0x000061F0

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	メッセージ	なし	KAVB3737-E コンポーネント名の管理対象プロセス名は異常終了しました
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/NNMI/SPMD
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SPMD
		オブジェクト名	OBJECT_NAME 異常終了したプロセス名
		事象種別	OCCURRENCE NOTICE

(3) イベント ID : 0x000061F1 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	なし	0x000061F1
	メッセージ	なし	KAVB3613-W コンポーネント名の管理対象プロセス名の起動がタイムアウトしました 処理を継続します
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Warning
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/NNMI/SPMD
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SPMD
		オブジェクト名	OBJECT_NAME 起動がタイムアウトしたプロセス名
		事象種別	OCCURRENCE NOTICE

(4) イベント ID : 0x000061F2 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	なし	0x000061F2
	メッセージ	なし	KAVB3616-I コンポーネント名の管理対象プロセス名の再起動が完了しました
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME /HITACHI/JP1/IM/NNMI/SPMD
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE SPMD
		オブジェクト名	OBJECT_NAME 再起動したプロセス名
		事象種別	OCCURRENCE NOTICE

9

メッセージ

この章では、JP1/IM - EG for NNMi が出力するメッセージについて説明します。

9.1 メッセージの出力先一覧

この節では、JP1/IM - EG for NNMi が出力する各メッセージの出力先を一覧で示します。

9.1.1 インストールに関するメッセージ (KNAG0001~KNAG0999) の出力先

JP1/IM - EG for NNMi のインストールに関するメッセージの出力先を次の表に示します。

(凡例)

○：出力する

－：出力しない

表 9-1 インストールに関するメッセージの出力先

メッセージ ID	出力先	
	プロセス別トレースログ	ダイアログ
KNAG0001～ KNAG0002	○	○
KNAG0003	－	○
KNAG0004～ KNAG0013	○	○
KNAG0014	－	○

9.1.2 コマンド実行に関するメッセージ (KNAG1000~KNAG1999) の出力先

JP1/IM - EG for NNMi のコマンド実行に関するメッセージの出力先を次の表に示します。

(凡例)

○：出力する

－：出力しない

表 9-2 コマンド実行に関するメッセージの出力先

メッセージ ID	出力先			
	統合トレースログ	プロセス別トレースログ	標準出力	標準エラー出力
KNAG1000～	－	○	○	－

メッセージID	出力先			
	統合トレース ログ	プロセス別トレース ログ	標準出力	標準エラー出力
KNAG1002	－	○	○	－
KNAG1004	－	－	○	－
KNAG1005～ KNAG1007	－	○	－	○
KNAG1008	－	－	－	○
KNAG1009～ KNAG1023	－	○	－	○
KNAG1024	－	○	○	－
KNAG1025	－	○	－	○
KNAG1026～ KNAG1027	－	○	○	－
KNAG1028	－	○	－	○
KNAG1029～ KNAG1033	－	○	○	－
KNAG1034	－	－	○	－
KNAG1035	－	○	－	○
KNAG1036	－	－	－	○
KNAG1037	－	－	○	－
KNAG1039～ KNAG1041	－	－	－	○
KNAG1042	－	○	－	○
KNAG1043	－	○	○	－
KNAG1044～ KNAG1045	－	－	○	－
KNAG1046	－	－	－	○
KNAG1047～ KNAG1048	－	－	○	－
KNAG1050	－	○	－	○
KNAG1051	－	○	－	○
KNAG1052～ KNAG1054	－	－	－	○

メッセージID	出力先			
	統合トレースログ	プロセス別トレースログ	標準出力	標準エラー出力
KNAG1055	－	○	○	－
KNAG1056	－	○	－	○
KNAG1057～ KNAG1058	○	－	－	○
KNAG1059	○	○	－	○
KNAG1060	○	－	－	○
KNAG1061	－	○	－	○
KNAG1063～ KNAG1064	－	○	－	○
KNAG1066～ KNAG1067	－	○	－	○
KNAG1900～ KNAG1901	－	○	－	○

9.1.3 サービスに関するメッセージ (KNAG2000～KNAG2999) の出力先

JP1/IM - EG for NNMi のサービスに関するメッセージの出力先を次の表に示します。

(凡例)

○：出力する

－：出力しない

表 9-3 サービスに関するメッセージの出力先

メッセージID	出力先		
	統合トレースログ	プロセス別トレースログ	標準エラー出力
KNAG2000～ KNAG2004	○	○	－
KNAG2006	○	○	－
KNAG2008～ KNAG2013	○	○	－
KNAG2015～ KNAG2021	○	○	－

メッセージ ID	出力先		
	統合トレースログ	プロセス別トレースログ	標準エラー出力
KNAG2032～ KNAG2034	○	○	－
KNAG2036～ KNAG2043	○	○	－
KNAG2046～ KNAG2053	○	○	－
KNAG2055	○	○	－
KNAG2057～ KNAG2062	○	○	－
KNAG2064～ KNAG2070	○	○	－
KNAG2071	○	○	－
KNAG2074～ KNAG2078	○	○	－
KNAG2900～ KNAG2901	○	○	－

9.1.4 プロセス管理に関するメッセージ (KAVB3501～KAVB3999) の出力先

JP1/IM - EG for NNMi のプロセス管理に関するメッセージの出力先を次の表に示します。

(凡例)

- ：出力する
- －：出力しない

注意事項

表中のメッセージ以外にも、内部エラーメッセージなどの、メッセージ ID 付きメッセージが出力されることがあります。

表 9-4 プロセス管理に関するメッセージの出力先

メッセージ ID	出力先					
	syslog	イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	JP1 イベント
KAVB3501	○	○	-	-	-	-
KAVB3502	-	-	○	-	○	-
KAVB3503	-	-	-	-	○	-
KAVB3504	-	-	○	-	○	-
KAVB3516	○	-	-	-	○	-
KAVB3552~ KAVB3554	-	-	○	-	-	-
KAVB3564	-	-	○	-	-	-
KAVB3574	-	-	○	-	-	-
KAVB3577~ KAVB3578	-	-	○	-	-	-
KAVB3586	-	-	○	-	-	-
KAVB3597	-	-	○	-	-	-
KAVB3599	-	-	○	-	-	-
KAVB3602~ KAVB3605	-	-	○	-	-	-
KAVB3608~ KAVB3610	-	-	○	-	-	-
KAVB3612	-	-	○	-	-	-
KAVB3613	○	○	○	-	-	○
KAVB3614	○	○	○	-	-	-
KAVB3616	-	-	-	-	-	○
KAVB3620	○	○	○	○	-	-
KAVB3621	○	-	○	-	-	-
KAVB3623	○	-	○	-	-	-
KAVB3624	○	○	○	-	-	-
KAVB3625	-	-	○	○	-	-
KAVB3626	○	○	○	○	-	-
KAVB3627	-	-	○	-	-	-

メッセージID	出力先					
	syslog	イベントログ	統合トレース ログ	標準出力	標準エラー 出力	JP1 イベント
KAVB3631	—	—	○	—	—	—
KAVB3642	—	—	○	—	—	—
KAVB3643～ KAVB3644	○	○	○	—	—	—
KAVB3645～ KAVB3646	—	—	○	—	—	—
KAVB3647	—	—	○	—	—	—
KAVB3649	○	○	○	○	—	—
KAVB3651～ KAVB3662	—	—	○	○	—	—
KAVB3663	—	—	—	—	○	—
KAVB3672	—	—	○	○	—	—
KAVB3674～ KAVB3678	—	—	○	○	—	—
KAVB3680～ KAVB3684	—	—	○	○	—	—
KAVB3685	—	—	—	○	—	—
KAVB3690～ KAVB3694	—	—	—	○	—	—
KAVB3705	—	—	○	—	—	—
KAVB3732	—	—	○	—	—	—
KAVB3736	—	—	○	—	—	—
KAVB3737	○	○	○	—	—	○
KAVB3743～ KAVB3745	—	—	○	—	—	—
KAVB3752	○	○	○	—	—	—
KAVB3760～ KAVB3769	—	—	○	—	—	—
KAVB3777～ KAVB3779	—	—	○	—	—	—
KAVB3786	—	—	○	—	—	—
KAVB3788	○	○	○	—	—	—

メッセージID	出力先					
	syslog	イベントログ	統合トレース ログ	標準出力	標準エラー 出力	JP1 イベント
KAVB3802	-	-	○	-	-	-
KAVB3840~ KAVB3841	-	-	○	-	-	-
KAVB3846	-	-	○	-	-	-
KAVB3855	-	-	○	-	-	-
KAVB3862	○	○	○	-	-	-
KAVB3863	-	-	○	-	-	-
KAVB3870	○	○	-	○	-	-
KAVB3871	-	-	-	○	-	-
KAVB3872	○	○	-	○	-	-
KAVB3873	-	-	-	○	-	-
KAVB3874~ KAVB3875	○	○	-	○	-	-
KAVB3899	-	-	-	○	-	-
KAVB3905	-	-	○	-	-	-
KAVB3908	-	-	○	-	-	-
KAVB3910	-	-	○	-	-	-
KAVB3911~ KAVB3914	-	-	○	○	-	-
KAVB3935	-	-	○	-	-	-
KAVB3960	-	-	-	○	-	-
KAVB3961	-	-	○	○	-	-
KAVB3981	-	-	○	-	-	-
KAVB3984	-	-	○	-	-	-
KAVB3986	-	-	○	○	-	-

9.2 メッセージの形式

この節では、JP1/IM - EG for NNMi が出力するメッセージの形式について説明します。

JP1/IM - EG for NNMi では、日本語と英語のメッセージをサポートしています。

9.2.1 メッセージの出力形式

メッセージはメッセージ ID と、それに続くメッセージテキストで構成されています。出力されるメッセージの形式を次に示します。

KAVBnnnn-Z メッセージテキスト

KNAGnnnn-Z メッセージテキスト

メッセージ ID は次の内容で構成されています。

K

システム識別子を示します。

AVB, NAG

JP1/IM - EG for NNMi のメッセージであることを示します。

nnnn

メッセージの通し番号です。

Z

メッセージの種類を表します。

E：エラーメッセージを示します。処理は中断されます。

W：警告メッセージを示します。メッセージ出力後、処理は続行されます。

I：通知メッセージを示します。ユーザーに情報を知らせます。

Q：通知メッセージを示します。ユーザーに実行の選択を促します。

9.2.2 メッセージの記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を次に示します。

メッセージ ID

英語メッセージテキスト

日本語メッセージテキスト

メッセージの説明文

(S)

システムの処置を示します。

(O)

メッセージが出力されたときに、オペレーターのとる処置を示します。

9.2.3 システム管理者の方へ

運用中にトラブルが発生した場合は、「10. [トラブルシューティング](#)」を参照してログ情報を採取し、初期調査をしてください。

トラブル要因の初期調査をする場合は、OSのログ情報（Windowsの場合はWindows イベントログ、UNIXの場合はsyslog）や、JP1/IM - EG for NNMiが出力する各種ログ情報を参照してください。これらのログ情報でトラブル発生時間帯の内容を参照して、トラブルを回避したり、トラブルに対処したりしてください。

また、トラブルが発生するまでの操作方法などを記録してください。同時に、できるだけ再現性の有無を確認するようにしてください。

9.3 メッセージ一覧

JP1/IM - EG for NNMi が出力するメッセージ ID の付いたメッセージの一覧を次に示します。

9.3.1 インストールに関するメッセージ (KNAG0001~KNAG0999)

KNAG0001-E

You do not have the necessary permissions to perform an installation with the current login account. Use an administrator account. The installation will now be canceled.

ログインアカウントはインストールするために必要な権限を持っていません。管理者アカウントを使用してください。

ログインアカウントはインストールするために必要な権限を持っていません。

(S)

処理を中断します。

(O)

管理者アカウントを使用してインストールしてください。

KNAG0002-E

A prerequisite version of JP1/Base is not installed. The installation will now be canceled.

前提バージョンの JP1/Base がインストールされていません。インストールを中断します。

前提バージョンの JP1/Base がインストールされていません。

(S)

処理を中断します。

(O)

前提バージョンの JP1/Base をインストールしてください。

KNAG0003-W

This platform is not supported. Do you want to cancel the installation?

このプラットフォームは未サポートです。インストールを中断しますか？

処理を中断してよいかどうかを確認するメッセージです。

(S)

[はい] ボタンを押すと、処理を中断します。[いいえ] ボタンを押すと、処理を続行します。

(O)

サポートしている OS にインストールしてください。

KNAG0004-E

The installation will be canceled because the service "サービス名" is running.

サービス(サービス名)が起動しているため、処理を中断します

サービスが起動中のためインストールを中断します。

(S)

処理を中断します。

(O)

サービス停止後、インストールしてください。

KNAG0005-E

An attempt to create a file has failed.

ファイルの作成に失敗しました

インストールに必要なファイルの作成に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

上書きインストールまたはバージョンアップインストールの場合は、インストールフォルダ以下のフォルダおよびファイルに書き込み権限があるか確認し、再度インストールしてください。

それ以外の場合は、システム管理者に連絡してください。

KNAG0006-E

An attempt to register shared definition information has failed.

共通定義情報の登録に失敗しました

共通定義情報の登録に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAG0007-E

There is not enough memory. Stop any unnecessary applications, and then reattempt the installation.

メモリが不足しています。不要なアプリケーションを停止後、再度インストールしてください。

メモリが不足しているためインストールできません。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAG0008-E

An attempt to acquire the product information failed because there are not enough resources.
(details = 関数名, 戻り値)

リソース不足のため製品情報取得に失敗しました (詳細情報: 関数名, 戻り値)

リソース不足のため製品情報取得に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAG0009-E

An attempt to acquire the product information failed because the environment is invalid.
(details = 関数名, 戻り値)

環境不正のため製品情報取得に失敗しました (詳細情報: 関数名, 戻り値)

環境不正のため製品情報取得に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAG0010-E

Code 9999: The media might be defective. Please contact the vendor.

コード 9999 媒体不良の可能性があります。購入元にご連絡ください。

媒体不良の可能性あります。

(S)

処理を中断します。

(O)

購入元にご連絡ください。

KNAG0011-E

An internal error occurred. Use the data acquisition command to acquire data, and then contact the system administrator.

内部エラーが発生しました。資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

内部エラーが発生しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAG0012-E

Information could not be acquired from the registry.

レジストリから情報を取得できませんでした。

レジストリから情報を取得できませんでした。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAG0013-E

An attempt to open a file has failed. Unopened file : ファイル名

ファイルのオープンに失敗しました。オープンに失敗したファイル : ファイル名

ファイルのオープンに失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAG0014-E

This platform is unsupported. Installation will now be cancelled.

このプラットフォームは未サポートです。

(S)

処理を中断します。

(O)

サポートしている OS にインストールしてください。

9.3.2 コマンド実行に関するメッセージ (KNAG1000~KNAG1999)

KNAG1000-I

The setup command ended successfully.
セットアップコマンドが正常に終了しました

セットアップコマンドが正常に終了しました。

KNAG1001-I

The cluster setup command ended successfully.
クラスタセットアップコマンドが正常に終了しました

クラスタセットアップコマンドが正常に終了しました。

KNAG1002-E

A folder could not be created on the shared disk.
共有ディスクにフォルダを作成できませんでした

共有ディスクにフォルダを作成できませんでした。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

共有ディスクにアクセスできるかどうか確認してください。

共有ディスクにアクセスできることを確認したら、JP1/IM - EG for NNMi のクラスタセットアップを再実行してください。

KNAG1004-I

The cluster setup command will start.
クラスタセットアップコマンドを開始します

クラスタセットアップコマンドを実行しました。

KNAG1005-E

A command option is invalid.
コマンドの引数が不正です

コマンドの引数の形式が不正です。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

コマンドの引数を見直してください。

KNAG1006-E

The option "オプション名" has been duplicated.
オプション (オプション名) が重複しています

コマンドの実行時に指定したオプションが重複しています。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

エラーメッセージのあとに出力される Usage に従って、入力時に正しい引数を入力してください。

KNAG1007-E

The specified logical host "論理ホスト名" does not exist.
指定した論理ホスト名 (論理ホスト名) が存在しません

指定した論理ホスト名が存在しません。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

指定した論理ホスト名が誤っていないか見直して、再度資料採取ツールを実行してください。

KNAG1008-E

A host has not been specified for the -h option.

-h オプションにホスト名が指定されていません

-h オプションにホスト名が指定されていません。

- (S)
コマンドの処理を中断します。
- (O)
指定した論理ホスト名が誤っていないか見直して、再度資料採取ツールを実行してください。

KNAG1009-E

The shared directory "共有ディレクトリパス" used by the specified logical host "論理ホスト名" cannot be found.

指定された論理ホスト (論理ホスト名) で使用している共有ディレクトリ (共有ディレクトリパス) が見つかりません

指定された論理ホストで使用している共有ディレクトリが見つかりません。

- (S)
コマンドの処理を続行します。
- (O)
実行系のホストの場合、共有ディレクトリをマウントし、再度資料採取ツールを実行してください。待機系のホストの場合、共有ディレクトリがマウントされていないため問題ありません。

KNAG1010-E

The specified directory "資料格納ディレクトリ名" is invalid.

指定したディレクトリ (資料格納ディレクトリ名) が不正です

指定したディレクトリが不正です。ディレクトリが存在しないなどのおそれがあります。

- (S)
コマンドの処理を中断します。
- (O)
正しい資料格納ディレクトリを指定して、再度資料採取ツールを実行してください。
Windows の場合は次のことを確認してください。
 - 予約デバイス名 (AUX, CON, NUL, PRN, COM1~COM9, LPT1~LPT9) や , ; % & ^ ! を指定していないか
 - 129 バイト以上のディレクトリ名を指定していないか

KNAG1011-W

A file (ファイル名) with the same name as the directory already exists.
ディレクトリと同じ名称のファイル (ファイル名) が既に存在します

ディレクトリと同じ名称のファイルが存在します。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

同じ名称のファイルを削除してから、再度資料採取ツールを実行してください。

KNAG1012-E

The directory "ディレクトリ名" could not be written to.
ディレクトリ (ディレクトリ名) に書き込み出来ませんでした

実行ユーザーの権限がなく、ディレクトリに書き込みできませんでした。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

次のことを確認して、再度コマンドを実行してください。

- ディレクトリに対する実行ユーザーの書き込み権限があるか
- ディスク容量が十分にあるか

KNAG1013-W

The directory "ディレクトリパス" used by a physical host does not exist.
物理ホストで使用しているディレクトリ (ディレクトリパス) が存在しません

物理ホストで使用しているディレクトリが存在しません。

(S)

ディレクトリパス以下の資料は採取しないで、処理を続行します。

(O)

ディレクトリパスが一時的に未接続になっていないか確認してください。

KNAG1014-E

The command "コマンド名" does not exist.
(コマンド名) コマンドが存在しません

コマンドが存在しません。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

コマンドが削除されていないか確認してください。コマンドが存在しない場合、JP1/IM - EG for NNMiをインストールし直してください。

KNAG1015-W

The command "コマンド名" does not exist.
(コマンド名) コマンドが存在しません

コマンドが存在しません。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

コマンドが削除されていないか確認してください。コマンドが存在しない場合、JP1/IM - EG for NNMiをインストールし直してください。

KNAG1016-E

There is not enough disk space to execute the command.
コマンドの実行に必要なディスク容量が不足しています

コマンドの実行に必要なディスク容量が不足しています。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

ディスクの空き容量を確認し、不要なファイルを削除するなどして空き容量を増やしたあと、再度資料採取ツールを実行してください。なお、途中まで採取した資料は残ったままですので、削除してください。

KNAG1017-E

There is not enough memory to execute the command.
コマンドの実行に必要なメモリーが不足しています

コマンドの実行に必要なメモリーが不足しています。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

システムの空きメモリー容量を確認し、不要なプロセスを停止するなどして空きメモリー容量を増やしたあと、再度資料採取ツールを実行してください。

KNAG1018-W

An attempt to acquire the Windows event log "イベントログの種類" has failed.
Windows イベントログ (イベントログの種類) の採取に失敗しました

Windows イベントログの採取に失敗しました。

イベントログの種類：System または Application

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

イベントビューアーを使用して、Windows イベントログを手動で採取してください。

KNAG1019-E

The specified file "ファイル名" cannot be read.
指定したファイル名 (ファイル名) は読み込むことができません

指定したファイル名は読み込むことができません。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

指定したファイルに対する読み込み権限があるかどうか確認し、再度コマンドを実行してください。

KNAG1020-E

The specified file "ファイル名" does not exist.
指定したファイル (ファイル名) は存在しません

指定したファイルは存在しません。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

存在するファイルを指定して、再度資料採取ツールを実行してください。

KNAG1021-E

A file (ファイル名) with the same name as the directory already exists.

指定した資料格納ディレクトリと同じ名称のファイル (ファイル名) が既に存在します

指定した資料格納ディレクトリと同じ名称のファイルが存在します。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

別のディレクトリを指定するか、同じ名称のファイルを削除してから、再度資料採取ツールを実行してください。

KNAG1022-E

The specified directory "ディレクトリ名" cannot be written to.

指定した資料格納ディレクトリ (ディレクトリ名) には書き込みできません

指定した資料格納ディレクトリには書き込みできません。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

別のディレクトリを指定するか、指定ディレクトリの上位のディレクトリに対する実行ユーザーの書き込み権限を見直してから、再度資料採取ツールを実行してください。

KNAG1023-E

An attempt to create the directory "ディレクトリ名" has failed.

ディレクトリ (ディレクトリ名) の作成に失敗しました

ディレクトリの作成に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

別のディレクトリを指定するか、指定ディレクトリの上位のディレクトリに対する実行ユーザーの書き込み権限を見直してから、再度コマンドを実行してください。

KNAG1024-I

Data was successfully acquired.

資料を正常に採取しました

資料が正常に採取されたことを通知する情報メッセージです。

KNAG1025-E

Some of the data could not be acquired.

一部の資料が採取できませんでした

一部の資料が採取できませんでした。このメッセージは実行中に出力されたメッセージのあとに出力されます。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

実行中に出力されたメッセージに対する対処方法に従い、対処してください。

KNAG1026-I

"情報" will be acquired.

情報の資料を採取することを通知する情報メッセージです。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAG1027-I

"情報" has been acquired.

情報の資料が採取されたことを通知する情報メッセージです。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAG1028-W

"情報" could not be acquired.

情報の資料が採取されなかったことを通知する警告メッセージです。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

「[10.3 トラブル発生時に採取が必要な資料](#)」を参照して、採取元の資料が存在する場合、採取できなかった資料を手動で採取してください。

KNAG1029-I

The directory "ディレクトリ名" already exists.
The directory will be re-created.

ディレクトリがすでに存在します。ディレクトリを再作成します。

(S)

Windows の場合：応答に答えた場合、ディレクトリを削除し処理を続行します。
UNIX の場合：処理を続行します。

(O)

Windows の場合：処理を続行する場合、何かのキーを押してください。処理を中断したい場合、[Ctrl] + [C] キーを押してください。
UNIX の場合：対処は必要ありません。

KNAG1030-I

The directory "ディレクトリ名" does not exist.
The directory will be created.

ディレクトリが存在しません。ディレクトリを作成します。

(S)

Windows の場合：応答に答えた場合、ディレクトリを作成し処理を続行します。
UNIX の場合：処理を続行します。

(O)

Windows の場合：処理を続行する場合、何かのキーを押してください。処理を中断したい場合、[Ctrl] + [C] キーを押してください。
UNIX の場合：対処は必要ありません。

KNAG1031-I

Data acquisition will now start.
資料採取を開始します

資料採取を開始します。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAG1032-I

Execution of the command "コマンド名" will now start.

(コマンド名) の実行を開始します

コマンドの実行を開始します。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAG1033-I

Execution of the command "コマンド名" will now end. (error level = エラーレベル)

コマンドの実行が終了しました。

エラーレベル：コマンドのリターンコード

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAG1034-I

"情報" will be acquired. Please wait...

情報を採取しています。しばらくお待ちください。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAG1035-E

An attempt to delete the directory "ディレクトリ名" has failed.

ディレクトリの削除に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

ディレクトリを別のプロセスが使用中でないか確認してください。または、別のディレクトリを指定して、再度資料採取ツールを実行してください。

KNAG1036-E

An attempt to access the (情報) registry has failed. (details = 詳細情報)

情報のレジストリのアクセスに失敗しました。

詳細情報：RegOpenKeyEx/RegEnumKeyEx 関数に渡した引数とリターンコード

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KNAG1037-I

The following logical hosts are on this host: **論理ホスト名** To acquire information about a logical host, execute the following command: **コマンド名** -f output-directory-name -h logical-host-name

このマシンには論理ホストが存在します。

コマンド名 -h **論理ホスト名** を実行し論理ホストの情報を採取してください。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

コマンド名 -h **論理ホスト名** を実行して、論理ホストの情報を採取してください。

KNAG1039-W

An attempt to create the directory "**ディレクトリ名**" has failed.

ディレクトリの作成に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

指定ディレクトリの上位のディレクトリに対する実行ユーザーの書き込み権限を見直してから、再度資料採取ツールを実行してください。

KNAG1040-W

An attempt to execute the command "**コマンド名**" has failed. (details = **詳細情報**)

コマンドの実行に失敗しました。

詳細情報：コマンドのリターンコード

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

直前に出力されたメッセージに従い、対処してください。

KNAG1041-I

The command "コマンド名" was successfully executed.

コマンドの実行に成功しました。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAG1042-E

You do not have the permission necessary to execute the command "コマンド名".

コマンド (コマンド名) の実行権限がありません

コマンドの実行権限がありません。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

コマンドの権限を確認してください。

KNAG1043-I

The thread dump file has been deleted.

スレッドダンプファイルの削除が完了しました。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAG1044-I

Do you want to delete all the core dump files in the directory "ディレクトリ名"? [yes/no]

ディレクトリ名に示すディレクトリ配下のコアダンプファイルを、削除するかどうかを確認するメッセージです。

(S)

yes または y を入力した場合、コアダンプファイルを削除しコマンドの処理を終了します。no または n を入力した場合、コアダンプファイルを削除しないでコマンドの処理を終了します。

(O)

コアダンプファイルを削除する場合、yes または y を入力してください。コアダンプファイルを削除しない場合、no または n を入力してください。

KNAG1045-I

Do you want to delete all the thread dump files in the directory "ディレクトリ名"? [yes/no]

ディレクトリ名に示すディレクトリ配下のスレッドダンプファイルを、削除するかどうかを確認するメッセージです。

(S)

yes または y を入力した場合、スレッドダンプファイルを削除しコマンドの処理を終了します。no または n を入力した場合、スレッドダンプファイルを削除しないでコマンドの処理を終了します。

(O)

スレッドダンプファイルを削除する場合、yes または y を入力してください。スレッドダンプファイルを削除しない場合、no または n を入力してください。

KNAG1046-E

The file cannot be written to because a file with the name "ファイル名" already exists.

同じファイルが存在するため書き込みできません。

(S)

ファイルを作成しないで処理を続行します。

(O)

ファイルの書き込み権限を確認してください。ファイルが不要であればファイルを削除したあとに、再度資料採取ツールを実行してください。

KNAG1047-I

"ファイル名" already exists. Do you want to overwrite it? [yes/no]

すでにファイルが存在するため、ファイルを上書きするかどうかを確認するメッセージです。

(S)

yes または y を入力した場合、ファイルを上書きしてコマンドの処理を続行します。no または n を入力した場合、ファイルを上書きしないでコマンドの処理を続行します。

(O)

ファイルを上書きする場合、yes または y を入力してください。ファイルを上書きしない場合、no または n を入力してください。

KNAG1048-I

Is the device "デバイス名" ready? [yes/no]

デバイスが準備できているかどうかを確認するメッセージです。

(S)

yes または y を入力した場合、デバイスに対して資料採取を行い、コマンドの処理を続行します。no または n を入力した場合、デバイスに対して資料採取を行わないでコマンドの処理を続行します。

(O)

デバイスに対して資料採取を行う場合、yes または y を入力してください。デバイスに対して資料採取を行わない場合、no または n を入力してください。

KNAG1050-E

The value of the option "オプション名" is invalid.

オプション (オプション名) の値が不正です

オプションに指定した値が不正です。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

オプションに指定した値を見直して、再度コマンドを実行してください。

KNAG1051-E

Setup has not been performed yet.

新規セットアップが行われていません

セットアップが行われていない状態では、`-list` オプションおよび `-update` オプションは指定できません。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

新規セットアップを実行してから、再度コマンドを実行してください。

KNAG1052-E

The operation information file "ファイル名" already exists.

運用情報ファイル (ファイル名) がすでに存在します

`jegn_setup_cluster` コマンドの `-d` オプションに指定した共有ディレクトリ上に、すでに運用情報ファイルが存在します。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

すでに存在する運用情報ファイルを削除するか、共有ディレクトリを変えて、再度コマンドを実行してください。

KNAG1053-E

The file "ファイル名" could not be written to.
ファイル (ファイル名) に書き込みできませんでした

実行ユーザーの権限がなく、ファイルに書き込みができませんでした。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

ファイルに対する実行ユーザーの書き込み権限を見直してから、再度コマンドを実行してください。

KNAG1054-E

An attempt to update the registry information "レジストリキー" has failed.
レジストリ情報 (レジストリキー) の更新に失敗しました

共通定義情報やサービス登録などの、レジストリ情報の更新に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAG1055-I

The core dump file "ファイル名" has been successfully deleted.
コアダンプファイル (ファイル名) の削除が完了しました

コアダンプファイルの削除が完了しました。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAG1056-E

Setup has already been performed.

すでにセットアップが行われています

すでにセットアップが行われている状態で、新規セットアップを実行しようとしてしました。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

-list オプションで設定内容を確認したあと、-update オプションと設定内容を変更したいオプションを指定して、再度コマンドを実行してください。

KNAG1057-E

Administrator permissions are required to execute the command.

コマンドを実行するためには管理者権限が必要です

このコマンドは管理者権限を持つユーザーで実行する必要があります。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

管理者権限があるかどうかを確認してから、再度コマンドを実行してください。

KNAG1058-E

Execute the command from the administrator console.

管理者コンソールよりコマンドを実行してください

このコマンドは管理者コンソール上で実行する必要があります。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

管理者コンソール上で、再度コマンドを実行してください。

KNAG1059-E

The system environment is invalid. (発生個所, 要因コード)

システム環境が不正です (発生個所, 要因コード)

システム環境が不正のため、コマンドを実行できません。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

再インストールおよび再セットアップを実行してください。

KNAG1060-E

An attempt to open a message file has failed.

メッセージファイルのオープンに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

Windows の場合

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

UNIX の場合

次の要因が考えられます。環境の確認を行ってください。

- /opt/jp1eg4nnmi/lib/nls 配下のファイルに読み取り権限がないおそれがあります。読み取り権限を与えてください。
- システムで開けるファイルの最大値になっているおそれがあります。カーネルパラメーターを見直してください。
- 一時的なメモリ不足が考えられます。再実行してください。また、不要なプロセスを終了してください。
- ディレクトリまたはファイルが削除されたおそれがあります。再インストールしてください。

解決できない場合は、資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG1061-E

The specified logical host name is invalid.

指定した論理ホスト名が不正です

指定した論理ホスト名が不正です。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

指定した論理ホスト名が誤っていないか見直し、正しい論理ホスト名を指定して、再度コマンドを実行してください。

KNAG1063-E

An attempt to register shared definition information has failed.

共通定義情報の登録に失敗しました

共通定義情報の登録に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG1064-E

The logical host name specified for the argument does not exist.

引数に指定した論理ホスト名が存在しません

引数に指定した論理ホストが存在しません。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

指定した論理ホストが正しく設定されているか確認してください。

KNAG1066-E

A setting in the shared definition information is invalid.

共通定義情報の設定が不正です

共通定義情報の設定が不正です。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

実行系で設定した共通定義情報を、待機系に移行したか確認して、再度 `jegn_setup_cluster` コマンドを実行してください。

KNAG1067-E

An attempt to create the file "ファイル名" has failed.

ファイル (ファイル名) の作成に失敗しました

ファイルの作成に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG1900-E

There is not enough memory. (保守情報)

メモリ不足が発生しました (保守情報)

メモリ不足が発生しました。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG1901-E

A system error occurred. (保守情報)

システムエラーが発生しました (保守情報)

システムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中断します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

9.3.3 サービスに関するメッセージ (KNAG2000~KNAG2999)

KNAG2000-I

The JP1/IM-EG for NNMi service has started. (logical host name = 論理ホスト名)

JP1/IM-EG for NNMi サービスが起動しました (論理ホスト名: 論理ホスト名)

JP1/IM - EG for NNMi サービスが起動しました。

物理ホストの場合、論理ホスト名にはJP1_DEFAULT が設定されます。

(S)

JP1/IM - EG for NNMi サービスが起動しました。

KNAG2001-E

An attempt to start the JP1/IM-EG for NNMi service has failed. (logical host name = 論理ホスト名)

JP1/IM-EG for NNMi サービスの起動に失敗しました (論理ホスト名: 論理ホスト名)

JP1/IM - EG for NNMi サービスの起動に失敗しました。

物理ホストの場合、論理ホスト名にはJP1_DEFAULT が設定されます。

- (S)
JP1/IM - EG for NNMi サービスの起動に失敗しました。
- (O)
直前のエラーメッセージを参照して、原因を取り除いてから、再度サービスを起動してください。

KNAG2002-E

Setup has not been performed yet.

セットアップが実行されていません

セットアップコマンド (jegn_setup) が実行されていないため、JP1/IM - EG for NNMi サービスの起動に失敗しました。

- (S)
JP1/IM - EG for NNMi サービスの起動に失敗しました。
- (O)
セットアップコマンド (jegn_setup) を実行し、セットアップが正常に終了したことを確認してから、再度サービスを起動してください。

KNAG2003-I

The JP1/IM-EG for NNMi service has stopped. (logical host name = 論理ホスト名)

JP1/IM-EG for NNMi サービスが停止しました (論理ホスト名: 論理ホスト名)

JP1/IM - EG for NNMi サービスが停止しました。

物理ホストの場合、論理ホスト名にはJP1_DEFAULT が設定されます。

- (S)
JP1/IM - EG for NNMi サービスが停止しました。

KNAG2004-E

An attempt to stop the JP1/IM-EG for NNMi service has failed. (logical host name = 論理ホスト名)

JP1/IM-EG for NNMi サービスの停止に失敗しました (論理ホスト名: 論理ホスト名)

JP1/IM - EG for NNMi サービスの停止に失敗しました。

物理ホストの場合、論理ホスト名にはJP1_DEFAULT が設定されます。

- (S)
JP1/IM - EG for NNMi サービスが停止に失敗しました。
- (O)
直前のエラーメッセージを参照して、原因を取り除いてから、再度サービスを停止してください。

KNAG2006-E

The JP1/IM-EG for NNMi service ended abnormally. (logical host name = 論理ホスト名)
JP1/IM-EG for NNMi サービスが異常終了しました (論理ホスト名: 論理ホスト名)

JP1/IM - EG for NNMi サービスが異常終了しました。

物理ホストの場合、論理ホスト名には JP1_DEFAULT が設定されます。

- (S)
JP1/IM - EG for NNMi サービスが異常終了しました。
- (O)
資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2008-E

An attempt to read the forwarded NNMi incident information file has failed.
転送済み NNMi インシデント情報ファイルの読み込みに失敗しました

転送済み NNMi インシデント情報ファイルの読み込み時に、エラーが発生しました。

- (S)
JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- (O)
資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2009-E

The file size of the forwarded NNMi incident information file has exceeded the limit (ファイルサイズ).
転送済み NNMi インシデント情報ファイルのファイルサイズの上限 (ファイルサイズ) を超えました

転送済み NNMi インシデント情報ファイルのサイズが、上限を超えました。

(S)

JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2010-E

An invalid item key has been specified. (line = 行番号, item key = 項目キー名)
不正な項目キーが指定されています (行番号行目, 項目キー: 項目キー名)

転送済み NNMi インシデント情報ファイルに、不正な項目キーが指定されています。

(S)

JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2011-E

An invalid value has been specified. (line = 行番号, item key = 項目キー名, value = 項目値)
不正な値が指定されています (行番号行目, 項目キー: 項目キー名, 値: 項目値)

転送済み NNMi インシデント情報ファイルの項目キーに、不正な値が指定されています。

(S)

JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2012-E

An item key has been duplicated. (line = 行番号, item key = 項目キー名)
項目キーが重複して指定されています (行番号行目, 項目キー: 項目キー名)

転送済み NNMi インシデント情報ファイルに、同じ項目キーが複数指定されています。

(S)

JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2013-E

The format is invalid. (line = 行番号)
フォーマットが不正です (行番号行目)

転送済み NNMi インシデント情報ファイルに、不正なフォーマットの行があります。

(S)

JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2015-E

An attempt to read the action definition file has failed.
動作定義ファイルの読み込みに失敗しました

動作定義ファイルの読み込み時に、エラーが発生しました。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- jegn_spm�_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2016-E

The file size of the action definition file has exceeded the limit (ファイルサイズ).
動作定義ファイルのファイルサイズの上限 (ファイルサイズ) を超えました

動作定義ファイルのサイズが、上限を超えました。

(S)

JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2017-E

An invalid item key has been specified. (line = 行番号, item key = 項目キー名)
不正な項目キーが指定されています (行番号行目, 項目キー: 項目キー名)

動作定義ファイルに、不正な項目キーが指定されています。

- (S)
- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
 - jegn_spm�_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2018-E

An invalid value has been specified. (line = 行番号, item key = 項目キー名, value = 項目値)
不正な値が指定されています (行番号行目, 項目キー: 項目キー名, 値: 項目値)

動作定義ファイルの項目キーに、不正な値が指定されています。

- (S)
- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
 - jegn_spm�_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2019-E

A required item key has not been specified. (item key = 項目キー名)
必須の項目キーが指定されていません (項目キー: 項目キー名)

動作定義ファイルの項目キーに、指定が必要な項目キーが指定されていません。

- (S)
- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
 - jegn_spm�_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2020-E

An item key has been duplicated. (line = 行番号, item key = 項目キー名)
項目キーが重複して指定されています (行番号行目, 項目キー: 項目キー名)

動作定義ファイルに、同じ項目キーが複数指定されています。

- (S)
- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。

- jegn_spm�_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2021-E

The format is invalid. (line = 行番号)

フォーマットが不正です (行番号行目)

動作定義ファイルに、不正なフォーマットの行があります。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- jegn_spm�_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2032-E

An attempt to connect to the NNMi server has failed. (NNMi server name = NNMi サーバ名)

NNMi サーバへの接続に失敗しました (NNMi サーバ名:NNMi サーバ名)

NNMi サーバへの接続に失敗しました。

(S)

jegn_setup コマンドの NNMi インシデント再取得間隔で指定した時間が経過したあと、再度 NNMi サーバに接続します。

(O)

NNMi サーバが起動しているかどうかを確認してください。

NNMi サーバが起動している場合、jegn_setup コマンドで設定した NNMi ポート番号が正しいかどうかを確認してください。情報が正しくない場合は、正しい情報で再度jegn_setup コマンドを実行したあと、jegn_spm�_reload コマンドを実行してください。

KNAG2033-E

An attempt to authenticate the NNMi server has failed. (NNMi server name = NNMi サーバ名)

NNMi サーバの認証に失敗しました (NNMi サーバ名:NNMi サーバ名)

NNMi サーバの認証に失敗しました。

(S)

jegn_setup コマンドの NNMi インシデント再取得間隔で指定した時間が経過したあと、再度 NNMi サーバに接続します。

(O)

NNMi サーバが起動しているかどうかを確認してください。

NNMi サーバが起動している場合、jegn_setup コマンドで設定した NNMi ユーザー名および NNMi パスワードが正しいかどうか確認してください。情報が正しくない場合は、正しい情報で再度jegn_setup コマンドを実行したあと、jegn_spmd_reload コマンドを実行してください。

KNAG2034-E

An attempt to analyze an NNMi incident has failed. (保守情報)

NNMi インシデントの解析に失敗しました (保守情報)

NNMi インシデントの解析に失敗しました。

(S)

jegn_setup コマンドの NNMi インシデント再取得間隔で指定した時間が経過したあと、再度 NNMi サーバに接続して、NNMi インシデントを取得します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2036-E

An attempt to read the forwarded NNMi incident information file has failed.

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの読み込みに失敗しました

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの読み込み時に、エラーが発生しました。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- jegn_spmd_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2037-E

The file size of the forwarded NNMi incident information file has exceeded the limit (ファイルサイズ).

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルのファイルサイズの上限(ファイルサイズ)を超えました

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルのサイズが、上限を超えました。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- `jegn_spm�_reload` コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルを見直して、上限サイズ以内になるように修正してください。そのあと、サービスを起動、または`jegn_spm�_reload` コマンドを再度実行してください。

KNAG2038-E

The number of exclusion condition blocks has exceeded the limit (上限数).

転送条件ブロック数の上限 (上限数) を超えました

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの転送条件ブロック数が、上限を超えました。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- `jegn_spm�_reload` コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルを見直して、転送条件ブロック数が上限以内になるように修正してください。そのあと、サービスを起動、または`jegn_spm�_reload` コマンドを再度実行してください。

KNAG2039-E

An exclusion condition block has been duplicated. (line = 行番号)

除外条件ブロックが重複しています (行番号行目)

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの除外条件ブロックが、重複して指定されています。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- `jegn_spm�_reload` コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

メッセージに含まれる行番号を参照して、NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルを修正してください。そのあと、サービスを起動、または`jegn_spm�_reload` コマンドを再度実行してください。

KNAG2040-E

An invalid item key has been specified. (line = 行番号, item key = 項目キー名)

不正な項目キーが指定されています (行番号行目, 項目キー: 項目キー名)

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルに、不正な項目キーが指定されています。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- jegn_spmd_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

メッセージに含まれる行番号および項目キー名を参照して、NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルを修正してください。その後、サービスを起動、またはjegn_spmd_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2041-E

An invalid operator has been specified. (line = 行番号, operator = 比較キーワード名)
不正な比較キーワードが指定されています (行番号行目, 比較キーワード: 比較キーワード名)

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルに、不正な比較キーワードが指定されています。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- jegn_spmd_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

メッセージに含まれる行番号および比較キーワード名を参照して、NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルを修正してください。その後、サービスを起動、またはjegn_spmd_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2042-E

The number of operands is invalid. (line = 行番号, operator = 比較キーワード名, number of operands = オペランド数)
オペランド数が不正です (行番号行目, 比較キーワード: 比較キーワード名, オペランド数: オペランド数)

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルに、オペランド数が不正な条件文があります。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- jegn_spmd_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

メッセージに含まれる行番号および比較キーワード名を参照して、NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルを修正してください。そのあと、サービスを起動、またはjegn_spmd_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2043-E

An invalid operand has been specified. (line = 行番号, operator = 比較キーワード名)
不正なオペランドが指定されています (行番号行目, 比較キーワード: 比較キーワード名)

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルのオペランドが不正です。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- jegn_spmd_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

メッセージに含まれる行番号および比較キーワード名を参照して、NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルを修正してください。そのあと、サービスを起動、またはjegn_spmd_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2046-E

The message mapping definition has been duplicated. (line = 行番号)
メッセージマッピングの定義が重複しています (行番号行目)

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルのメッセージマッピングの定義が重複しています。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- jegn_spmd_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

メッセージに含まれる行番号を参照して、重複しているメッセージマッピングの定義を削除してください。そのあと、サービスを起動、またはjegn_spmd_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2047-E

An invalid item key has been specified in the message mapping definition. (line = 行番号, item key = 項目キー名)
メッセージマッピングの定義に不正な項目キーが指定されています (行番号行目, 項目キー: 項目キー名)

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルのメッセージマッピングの定義に、不正な項目キー名が指定されています。

- (S)
- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
 - jegn_spm�_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

- (O)
- メッセージに含まれる**行番号**および**項目キー名**を参照して、不正な項目キーを修正してください。その後、サービスを起動、またはjegn_spm�_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2048-E

The severity-level mapping definition has been duplicated. (line = **行番号**)
重大度マッピングの定義が重複しています (**行番号**行目)

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの重大度マッピングの定義が重複しています。

- (S)
- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
 - jegn_spm�_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

- (O)
- メッセージに含まれる**行番号**を参照して、重複している重大度マッピングの定義を削除してください。その後、サービスを起動、またはjegn_spm�_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2049-E

An invalid item key has been specified in the severity level mapping definition. (line = **行番号**, item key = **項目キー名**)
重大度マッピングの定義に不正な項目キーが指定されています (**行番号**行目, 項目キー: **項目キー名**)

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの重大度マッピングの定義に、不正な項目キー名が指定されています。

- (S)
- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
 - jegn_spm�_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

- (O)
- メッセージに含まれる**行番号**および**項目キー名**を参照して、不正な項目キーを修正してください。その後、サービスを起動、またはjegn_spm�_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2050-E

An extended attribute mapping definition has been duplicated. (line = **行番号**)
拡張属性マッピングの定義が重複しています (**行番号**行目)

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの拡張属性マッピングの定義が重複しています。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- `jegn_spmd_reload` コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

メッセージに含まれる**行番号**を参照して、重複している拡張属性マッピングの定義を削除してください。そのあと、サービスを起動、または`jegn_spmd_reload` コマンドを再度実行してください。

KNAG2051-E

An invalid item key has been specified in an extended attribute mapping definition. (line = **行番号**, item key = **項目キー名**)

拡張属性マッピングの定義に不正な項目キーが指定されています (**行番号**行目, 項目キー: **項目キー名**)

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの拡張属性マッピングの定義に、不正な項目キー名が指定されています。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- `jegn_spmd_reload` コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

メッセージに含まれる**行番号**および**項目キー名**を参照して、不正な項目キーを修正してください。そのあと、サービスを起動、または`jegn_spmd_reload` コマンドを再度実行してください。

KNAG2052-E

An item key has been duplicated in an extended attribute mapping definition. (line = **行番号**, item key = **項目キー名**)

拡張属性マッピングに指定された項目キーが重複しています (**行番号**行目, 項目キー: **項目キー名**)

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの、拡張属性マッピングに指定された項目キーが重複しています。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- `jegn_spmd_reload` コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

メッセージに含まれる**行番号**および**項目キー名**を参照して、重複している項目キーを削除してください。そのあと、サービスを起動、または`jegn_spmd_reload` コマンドを再度実行してください。

KNAG2053-E

The format is invalid. (line = 行番号)
フォーマットが不正です (行番号行目)

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルに、不正なフォーマットの行があります。

- (S)
- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
 - jegn_spm�_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

- (O)
- メッセージに含まれる行番号を参照して、NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルを修正してください。そのあと、サービスを起動、またはjegn_spm�_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2055-E

An attempt to register a JP1 event failed. (保守情報)
JP1 イベントの登録に失敗しました (保守情報)

JP1 イベントの登録時にエラーが発生しました。

- (S)
- JP1 イベントの登録処理を中断し、jegn_setup コマンドの NNMi インシデント再取得間隔で指定した時間が経過したあと、再度 NNMi インシデントを取得して、JP1 イベントの発行処理を行います。
- (O)
- 資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2057-E

An attempt to read the category-abel mapping file has failed.
カテゴリ表示名マッピングファイルの読み込みに失敗しました

マッピング定義ファイル（カテゴリ用）の読み込み時に、エラーが発生しました。

- (S)
- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
 - jegn_spm�_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。
- (O)
- 資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2058-E

The file size of the category-label mapping file has exceeded the limit (ファイルサイズ).

カテゴリ表示名マッピングファイルのファイルサイズの上限 (ファイルサイズ) を超えました

マッピング定義ファイル (カテゴリ用) のサイズが, 上限を超えました。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時: JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- jegn_spmd_reload コマンド実行時: 更新前の情報で処理を続行します。

(O)

マッピング定義ファイル (カテゴリ用) を見直して, 上限サイズ以内になるように修正してください。その後, サービスを起動, またはjegn_spmd_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2059-E

An invalid key has been specified. (line = 行番号, item key = キー名)

不正なキーが指定されています (行番号行目, キー:キー名)

マッピング定義ファイル (カテゴリ用) に, 不正なキーが指定されています。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時: JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- jegn_spmd_reload コマンド実行時: 更新前の情報で処理を続行します。

(O)

メッセージに含まれる行番号およびキー名を参照して, マッピング定義ファイル (カテゴリ用) を修正してください。その後, サービスを起動, またはjegn_spmd_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2060-E

An invalid display name has been specified. (line = 行番号, item key = キー名, display name = 表示名)

不正な表示名が指定されています (行番号行目, キー:キー名, 表示名: 表示名)

マッピング定義ファイル (カテゴリ用) に, 不正な表示名 (ラベル) が指定されています。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時: JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- jegn_spmd_reload コマンド実行時: 更新前の情報で処理を続行します。

(O)

メッセージに含まれる行番号, キー名, および表示名を参照して, マッピング定義ファイル (カテゴリ用) を修正してください。その後, サービスを起動, またはjegn_spmd_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2061-E

Keys have been duplicated. (line = 行番号, key = キー名)
キーが重複して指定されています (行番号行目, キー: キー名)

マッピング定義ファイル (カテゴリ用) に、同じキーが複数指定されています。

- (S)
- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
 - jegn_spmd_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

- (O)
- メッセージに含まれる行番号およびキー名を参照して、マッピング定義ファイル (カテゴリ用) を修正してください。そのあと、サービスを起動、またはjegn_spmd_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2062-E

The format is invalid. (line = 行番号)
フォーマットが不正です (行番号行目)

マッピング定義ファイル (カテゴリ用) に、不正なフォーマットの行があります。

- (S)
- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
 - jegn_spmd_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

- (O)
- メッセージに含まれる行番号を参照して、マッピング定義ファイル (カテゴリ用) を修正してください。そのあと、サービスを起動、またはjegn_spmd_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2064-E

An attempt to read the family-label mapping file has failed.
ファミリー表示名マッピングファイルの読み込みに失敗しました

マッピング定義ファイル (ファミリー用) の読み込み時に、エラーが発生しました。

- (S)
- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
 - jegn_spmd_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

- (O)
- 資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2065-E

The file size of the family-label mapping file has exceeded the limit (ファイルサイズ).
ファミリー表示名マッピングファイルのファイルサイズの上限 (ファイルサイズ) を超えました

マッピング定義ファイル (ファミリー用) のサイズが、上限を超えました。

- (S)
- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
 - jegn_spmd_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

- (O)
- マッピング定義ファイル (ファミリー用) を見直して、上限サイズ以内になるように修正してください。そのあと、サービスを起動、またはjegn_spmd_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2066-E

An invalid key has been specified. (line = 行番号, item key = キー名)
不正なキーが指定されています (行番号行目, キー: キー名)

マッピング定義ファイル (ファミリー用) に、不正なキーが指定されています。

- (S)
- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
 - jegn_spmd_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

- (O)
- メッセージに含まれる行番号およびキー名を参照して、マッピング定義ファイル (ファミリー用) を修正してください。そのあと、サービスを起動、またはjegn_spmd_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2067-E

An invalid display name has been specified. (line = 行番号, item key = キー名, display name = 表示名)
不正な表示名が指定されています (行番号行目, キー: キー名, 表示名: 表示名)

マッピング定義ファイル (ファミリー用) に、不正な表示名 (ラベル) が指定されています。

- (S)
- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
 - jegn_spmd_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

メッセージに含まれる行番号, キー名, および表示名を参照して, マッピング定義ファイル (ファミリー用) を修正してください。そのあと, サービスを起動, またはjegn_spmd_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2068-E

Keys have been duplicated. (line = 行番号, key = キー名)
キーが重複して指定されています (行番号行目, キー: キー名)

マッピング定義ファイル (ファミリー用) に, 同じキーが複数指定されています。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時: JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- jegn_spmd_reload コマンド実行時: 更新前の情報で処理を続行します。

(O)

メッセージに含まれる行番号およびキー名を参照して, マッピング定義ファイル (ファミリー用) を修正してください。そのあと, サービスを起動, またはjegn_spmd_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2069-E

The format is invalid. (line = 行番号)
フォーマットが不正です (行番号行目)

マッピング定義ファイル (ファミリー用) に, 不正なフォーマットの行があります。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時: JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- jegn_spmd_reload コマンド実行時: 更新前の情報で処理を続行します。

(O)

メッセージに含まれる行番号を参照して, マッピング定義ファイル (ファミリー用) を修正してください。そのあと, サービスを起動, またはjegn_spmd_reload コマンドを再度実行してください。

KNAG2070-E

The system environment is invalid. (発生個所, 要因コード)
システム環境が不正です (発生個所, 要因コード)

システム環境が不正のため, サービスを実行できません。

(S)

サービス起動の処理を終了します。

(O)

再インストールおよび再セットアップを実行してください。

KNAG2071-E

An attempt to open the message file has failed.

メッセージファイルのオープンに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

Windows の場合

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

UNIX の場合

次の要因が考えられます。環境の確認を行ってください。

- /opt/jpleg4nnmi/lib/nls 配下のファイルに読み取り権限がないおそれがあります。読み取り権限を与えてください。
- システムで開けるファイルの最大値になっているおそれがあります。カーネルパラメーターを見直してください。
- 一時的なメモリー不足が考えられます。再実行してください。また、不要なプロセスを終了してください。
- ディレクトリまたはファイルが削除されたおそれがあります。再インストールしてください。

解決できない場合は、資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2072-E

The number of extended attribute mapping definitions has exceeded the limit (上限数). (line = 行数, number of definitions = 定義数)

拡張属性マッピングの定義数の上限 (上限数) を超えました。 (行数行目, 定義数:定義数)

拡張属性マッピングの定義数の上限を超えました。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- jegn_spmd_reload コマンド実行時：更新前の情報で処理を続行します。

(O)

メッセージに含まれる行番号を参照して、NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルを修正してください。そのあと、サービスを起動、または `jegn_spmd_reload` コマンドを再度実行してください。

KNAG2074-E

The loading of the CIA Mapping file failed.

カスタム属性マッピング定義ファイルの読み込みに失敗しました

カスタム属性マッピング定義ファイルの読み込み時に、エラーが発生しました。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- リロードコマンド実行時：リロード前の情報で、処理を続行します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAG2075-E

Exceeded the limit (ファイルサイズ) of the CIA Mapping file size.

カスタム属性マッピング定義ファイルのファイルサイズの上限 (ファイルサイズ) を超えました

カスタム属性マッピング定義ファイルのサイズが、上限を超えました。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- リロードコマンド実行時：リロード前の情報で、処理を続行します。

(O)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：カスタム属性マッピング定義ファイルを見直して、上限サイズ以内になるように編集してから、サービスを起動してください。
- リロードコマンド実行時：カスタム属性マッピング定義ファイルを見直して、上限サイズ以内になるように編集してから、リロードコマンドを再度実行してください。

KNAG2076-E

Duplicated NNMi incident name cannot be specified. (line number: 行番号)

NNMi インシデント名が重複して指定されています (行番号行目)

カスタム属性マッピング定義ファイルに、不正なキーが指定されています。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。

- リロードコマンド実行時：リロード前の情報で、処理を続行します。

(O)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：メッセージに含まれる行番号を参照して、カスタム属性マッピング定義ファイルを修正した後、サービスを起動してください。
- リロードコマンド実行時：メッセージに含まれる行番号を参照して、カスタム属性マッピング定義ファイルを修正した後、リロードコマンドを再度実行してください。

KNAG2077-E

An invalid key is specified. (line number: 行番号, key name: キー名)
キー名が不正です (行番号行目, キー: キー名)

カスタム属性マッピング定義ファイルに、同じキーが複数指定されています。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- リロードコマンド実行時：リロード前の情報で、処理を続行します。

(O)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：メッセージに含まれる行番号、およびキー名を参照して、カスタム属性マッピング定義ファイルを修正した後、サービスを起動してください。
- リロードコマンド実行時：メッセージに含まれる行番号、およびキー名を参照して、カスタム属性マッピング定義ファイルを修正した後、リロードコマンドを再度実行してください。

KNAG2078-E

An invalid format line. (line number: 行番号)
フォーマットが不正です (行番号行目)

カスタム属性マッピング定義ファイルに、不正なフォーマットの行があります。

(S)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。
- リロードコマンド実行時：リロード前の情報で、処理を続行します。

(O)

- JP1/IM - EG for NNMi サービス起動時：メッセージに含まれる行番号を参照して、カスタム属性マッピング定義ファイルを修正した後、サービスを起動してください。
- リロードコマンド実行時：メッセージに含まれる行番号を参照して、カスタム属性マッピング定義ファイルを修正した後、リロードコマンドを再度実行してください。

KNAG2900-E

There is not enough memory. (保守情報)

メモリ不足が発生しました (保守情報)

メモリー不足が発生しました。

(S)

JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAG2901-E

A system error occurred. (保守情報)

システムエラーが発生しました (保守情報)

システムエラーが発生しました。

(S)

JP1/IM - EG for NNMi サービスを停止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

9.3.4 プロセス管理に関するメッセージ (KAVB3501~KAVB3999)

注意事項

- メッセージの一覧に示すメッセージ以外にも、内部エラーメッセージなどのメッセージ ID 付きメッセージが出力されることがあります。
- プロセス管理に関するメッセージは、同一ホストの JP1/Base, JP1/IM - Manager など（インストールしている場合）からも出力されることがあります。JP1/IM - EG for NNMi 以外から出力されるメッセージについては、各製品のマニュアルを参照してください。

KAVB3501-E

An attempt to open the message file has failed.

メッセージファイルのオープンに失敗しました。

(S)

プロセス管理を終了します。

(O)

Windows の場合

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

UNIX の場合

次の要因が考えられます。環境の確認を行ってください。

- /opt/jp1eg4nnmi/lib/nls 配下のファイルに読み取り権限がないおそれがあります。読み取り権限を与えてください。
- システムでオープンできるファイルの最大値になっているおそれがあります。カーネルパラメータを見直してください。
- 一時的なメモリー不足が考えられます。再実行してください。また、不要なプロセスを終了してください。
- ディレクトリまたはファイルが削除されたおそれがあります。再インストールしてください。

解決できない場合は、資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KAVB3502-E

An attempt to read the message file has failed.

メッセージファイルの読み込みに失敗しました。

(S)

メッセージは出力されません。

(O)

JP1/Base のセットアップが正常終了したか確認してください。

KAVB3503-E

An attempt to read the message file has failed.

メッセージファイルの読み込みに失敗しました。

(S)

メッセージは出力されません。

(O)

/opt/jp1eg4nnmi/lib/nls ディレクトリ下にメッセージファイル (jegnspm.cat) があるか、また、参照権限が適切か確認してください。

KAVB3504-E

An error occurred in internal processing to output a message.

メッセージ出力の内部処理でエラーが発生しました。

(S)

メッセージは出力されません。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVB3516-E

An attempt to start the process management has failed. (errno = 要求コード)

プロセス管理の起動に失敗しました。

(S)

プロセス管理を終了します。

(O)

製品が正しくインストールされているか確認してください。

KAVB3552-E

コンポーネント名 管理対象プロセス名 has timed out.

コンポーネント名の管理対象プロセス名への要求はタイムアウトしました

要求がタイムアウトしました。コンポーネント名は JP1_EGN です。管理対象プロセス名は、プロセス管理で管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。

(S)

処理を続行します。

(O)

リロード要求の場合、統合トレースログを参照して、定義ファイルの誤りに関するログが存在しないかを確認してください。定義ファイルの誤りのエラーが存在した場合、該当の定義ファイル内容を正しく修正した後に `jegn_spm�_reload` コマンドを実行してください。

定義ファイルの誤りのエラーが存在しない場合、タイムアウト値を大きくして再実行してください。

そのほかの場合、しばらく待ったあと、要求を再実行してください。

再実行しても同じ現象が発生する場合は、資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KAVB3553-E

SIGKILL was sent to 管理対象プロセス名 of コンポーネント名, but termination could not be detected.

コンポーネント名の管理対象プロセス名へ SIGKILL を送信しましたが、終了を検知できません

SIGKILL を送信しましたが、終了を検知できません。コンポーネント名は JP1_EGN です。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。

(S)

プロセス管理を終了します。

(O)

管理対象プロセス名が停止していることを確認してください。管理対象プロセス名が停止していない場合は、手動で停止してください。

KAVB3554-I

```
A コンポーネント名 reload request has finished.  
コンポーネント名のリロード要求は完了しました
```

リロード要求が完了しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3564-I

```
jegn_spmd: コンポーネント名 will now start all inactive processes.  
jegn_spmd : コンポーネント名の停止中の全プロセスを起動します
```

停止中の管理対象のプロセスをすべて起動します。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3574-I

```
jegn_spmd_reload: A reload request will now be sent to all running processes of コンポーネン  
ト名.  
jegn_spmd_reload : コンポーネント名の起動中の全プロセスに対しリロード要求を送信します
```

起動中の管理対象のプロセスすべてに対しリロード要求を送信します。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3577-I

```
jegn_spmd_stop: A stop request will now be sent to all processes of コンポーネント名.  
jegn_spmd_stop : コンポーネント名の全プロセスに対し停止要求を送信します
```


管理対象のプロセスすべてに対し停止要求を送信します。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3578-I

コンポーネント名 has ended.
コンポーネント名を終了します

プロセス管理を終了します。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

プロセス管理を終了します。

KAVB3586-I

コンポーネント名 has terminated.
コンポーネント名を終了します

プロセス管理を終了します。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

プロセス管理を終了します。

KAVB3597-I

jegn_spmd_stop -kill: A forced stop (kill) will be performed on all processes of コンポーネント名.
jegn_spmd_stop -kill : コンポーネント名の全プロセスに強制停止を行います

管理対象のプロセスすべてに対し強制停止を行います。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3599-E

main_loop: An invalid request was received for Service Control Manager. (event ID = 要求種別)
main_loop : SCM から不正な要求を受け取りました eventid = 要求種別

不正な要求を受け取りました。

(S)

処理を続行します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KAVB3602-I

コンポーネント名 received a startup report from 管理対象プロセス名.
コンポーネント名の管理対象プロセス名から起動完了通知を受信しました

起動完了通知を受信しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3603-I

All processes of コンポーネント名 are running.
コンポーネント名の全プロセスが起動しました

管理対象プロセスがすべて起動しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3604-I

コンポーネント名 startup has finished.
コンポーネント名の起動が完了しました

サービスの起動が完了しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3605-I

コンポーネント名 completed to send the start up request to the 管理対象プロセス名.
コンポーネント名の管理対象プロセス名に対する起動要求が完了しました

異常終了した管理対象プロセスの再起動が完了しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3608-I

コンポーネント名 received a reload-completed notification from 管理対象プロセス名.
コンポーネント名の管理対象プロセス名からリロード完了通知を受信しました

管理対象プロセスからリロード完了通知を受信しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3609-I

A コンポーネント名 reload request has finished.
コンポーネント名のリロード要求が完了しました

管理対象プロセスのリロード処理がすべて完了しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3610-I

コンポーネント名 received an termination notification from 管理対象プロセス名.
コンポーネント名の管理対象プロセス名から終了通知を受信しました

管理対象プロセスから終了通知を受信しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3612-I

A stop request will now be sent to all processes of コンポーネント名.
コンポーネント名の全プロセスに対し停止要求を送信します

管理対象プロセスすべてに対し停止要求を送信します。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3613-W

A コンポーネント名 timeout occurred in 管理対象プロセス名. Processing continues.
コンポーネント名の管理対象プロセス名の起動がタイムアウトしました 処理を継続します

管理対象プロセスの起動タイムアウトが発生しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。

- (S) 処理を続行します。
- (O) しばらく待ったあと、管理対象プロセスの起動が完了しないで、サービスが起動しない場合は、`jegn_spmd_stop -kill` コマンドで再起動してください。

KAVB3614-E

Process management will now stop because an invalid コンポーネント名 status occurred.
コンポーネント名不正な状態のためプロセス管理を停止します

不正な状態のためプロセス管理を停止します。コンポーネント名は JP1_EGN です。

- (S) プロセス管理を終了します。
- (O) 資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KAVB3616-I

Restart of the コンポーネント名 管理対象プロセス名 has finished.
コンポーネント名 の管理対象プロセス名 の再起動が完了しました

異常終了した管理対象プロセスの再起動が完了しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。

- (S) 処理を続行します。

KAVB3620-E

The user does not have permission to execute the command 実行コマンド名.
実行権限がありません。実行コマンド名

Administrators 権限がないユーザーがコマンドを実行しようとしてしました。

(S)

コマンドを実行しません。

(O)

Administrators 権限があるユーザーで実行してください。

KAVB3621-E

A fork system call failed during initialization: コンポーネント名
初期化時に fork に失敗しました : コンポーネント名

プロセス管理の起動時にバックグラウンドで実行するための fork システムコールに失敗しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

プロセス管理を終了します。

(O)

システムのメモリーが不足していないか確認してください。また、OS が正常に運用されているか確認してください。

KAVB3623-E

The setsid function failed. (エラーの説明)
setsid 関数が失敗しました エラーの説明

setsid システムコールが失敗しました。

(S)

プロセス管理を終了します。

(O)

システムのメモリーが不足していないか確認してください。また、OS が正常に運用されているか確認してください。

KAVB3624-E

An attempt to create a process management table has failed.
プロセス管理テーブルの作成に失敗しました

プロセス管理テーブルの作成に失敗しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

システムのメモリーが不足していないか、また、製品が正しくインストールされているか確認してください。拡張起動プロセス定義ファイル(jegn_service_0700.conf)の設定値が正しく設定されているか確認してください。また、プロセス管理の管理対象プロセスが正常終了しないで残ってしまっていないか確認してください。

拡張起動プロセス定義ファイルを削除後、プロセス管理を起動してください。

KAVB3625-E

An internal error occurred. Execution Command names differ. **実行コマンド名**
内部エラー：実行コマンド名の不一致 **実行コマンド名**

実行コマンド名の不一致です。

(S)

プロセス管理を終了します。

(O)

実行コマンド名を確認してください。実行コマンド名を変更した場合は、動作しなくなります。

KAVB3626-E

An attempt to create a lock file has failed. **ロックファイルのパス-エラーの説明**
ロックファイルの作成に失敗しました. **ロックファイルのパス エラーの説明**

ロックファイルの作成に失敗しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

conf ディレクトリがあるか、読み込み権限および書き込み権限があるか確認してください。また、クラスタシステムで運用している場合、定義したconf ディレクトリがあるか、読み込み権限および書き込み権限があるか確認してください。

KAVB3627-I

コンポーネント名 is already running.
コンポーネント名はすでに起動しています

サービスの二重起動です。コンポーネント名はJP1_EGNです。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

KAVB3631-E

build_proc_table : The return value NULL was returned to the getfield function. **設定値**
build_proc_table : getfield 関数に戻り値 NULL が返りました. **設定値.**

拡張起動プロセス定義ファイル (jeng_service_0700.conf) のエントリーが正しく設定されていません。

- (S) プロセス管理を終了します。
- (O) 拡張起動プロセス定義ファイルのエントリーが正しく設定されているか確認してください。

KAVB3642-E

An internal error occurred. Component names differ. **コンポーネント名**
内部エラー：コンポーネント名の不一致 **コンポーネント名**

コンポーネント名の不一致です。コンポーネント名は JP1_EGN です。

- (S) プロセス管理を終了します。
- (O) 資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KAVB3643-E

An attempt to open the environment definition file **ファイル名** has failed.
環境定義ファイルがオープンできませんでした **ファイル名**

環境定義ファイルがオープンできませんでした。

- (S) プロセス管理を終了します。
- (O) 製品が正しくインストールされているか確認してください。

KAVB3644-E

An attempt to expand the environment variables has failed.
環境変数の展開に失敗しました

jegn_spm�_env.conf からの環境変数の読み込み処理に失敗しました。

(S)

プロセス管理を終了します。

(O)

システムのメモリーが不足していないか確認してください。

KAVB3645-I

The logical hostname for process management is 論理ホスト名.

プロセス管理 論理ホスト名 論理ホスト名

プロセス管理は論理ホストで起動します。

(S)

処理を続行します。

KAVB3646-I

The オプション名 option is specified.

オプション名オプションが指定されました

プロセス管理はオプション付きで起動します。

(S)

処理を続行します。

KAVB3647-E

The expiration of the time limit. JP1/IM-EG for NNMi

JP1/IM-EG for NNMi の使用期限が切れています

評価版の使用期限が切れました。

(S)

処理を中断します。

KAVB3649-E

The environment variable of JP1_HOSTNAME is empty.

環境変数 JP1_HOSTNAME が空文字です

環境変数JP1_HOSTNAME の設定が正しくありません。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

環境変数JP1_HOSTNAME に正しい論理ホスト名を設定するか、環境変数JP1_HOSTNAME を削除してください。

KAVB3651-I

Startup processing for コンポーネント名 has started.

コンポーネント名の起動処理を開始します

プロセス管理が管理対象プロセスの起動処理を行います。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

プロセス管理が管理対象プロセスを起動します。

KAVB3652-E

A timeout occurred during the wait for a response. (timeout period = タイムアウト秒 seconds)

応答待ちタイムアウトが発生しました タイムアウト秒：タイムアウト秒

応答を待っている間にタイムアウトが発生しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

タイムアウト値を変えて再実行してください。

KAVB3653-E

An attempt to send a request to the process management has failed.

プロセス管理への要求送信に失敗しました

プロセス管理コマンドからプロセス管理への通信に失敗しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

/var/opt/jp1eg4nnmi/tmp ディレクトリがあるか確認してください。

KAVB3654-E

An attempt to receive a response from the process management has failed.

プロセス管理からの応答受信に失敗しました

プロセス管理コマンドがプロセス管理からのデータ受信に失敗しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

プロセス管理を再起動して、再実行してください。

KAVB3655-E

Invalid data was received from the process management.

プロセス管理から不正なデータを受信しました

プロセス管理コマンドがプロセス管理から不正なデータを受信しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

一時的に不正なデータを受信したおそれがあります。プロセス管理を再起動後、再実行してください。

KAVB3656-I

The startup command terminated normally.

起動コマンドは正常終了しました

プロセス管理の起動コマンドは正常終了しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

KAVB3657-E

The startup command terminated abnormally

起動コマンドは異常終了しました

起動コマンドは異常終了しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

jegn_spm�_status コマンドで状態を確認後、再実行してください。

KAVB3658-E

The startup command terminated abnormally due to an inconsistent state.

起動コマンドは状態不正のため異常終了しました

プロセス管理がほかの処理をしている状態で、コマンドを実行した場合に出力されます。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

しばらく待ってから `jegn_spmc_status` コマンドで状態を確認後、再実行してください。

KAVB3659-I

There were no processes that could run.
起動できるプロセスがありませんでした

起動できるプロセスがありません。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

KAVB3660-E

Invalid data was received.
不正なデータを受信しました

プロセス管理コマンドがプロセス管理から不正なデータを受信しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

一時的に不正なデータを受信したおそれがあります。プロセス管理を再起動後、再実行してください。

KAVB3661-E

An unexpected result code was received. (return code = リターンコード)
ありえない結果コードを受信しました. Return Code = リターンコード

プロセス管理コマンドがプロセス管理からありえない結果コードを受信しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

`jegn_spmc_status` コマンドで状態を確認後、再実行してください。

KAVB3662-I

The process management is not running.

プロセス管理は停止しています

プロセス管理が停止しています。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

- jegn_start コマンド実行時

セットアップが実行されていないか、NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの定義が誤っている可能性があります。

統合トレースログを確認し、出力されたメッセージの対処を行ってから、再度実行してください。

KAVB3663-E

Execute the command from the administrator console.

管理者コンソールよりコマンドを実行してください

このコマンドは管理者コンソール上で実行する必要があります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

管理者コンソール上でコマンドを再実行してください。

KAVB3672-I

A forced termination (kill) of コンポーネント名 has started.

コンポーネント名の強制終了処理を開始します

プロセス管理の強制終了処理を開始します。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

KAVB3674-I

Termination processing of コンポーネント名 has started.

コンポーネント名の終了処理を開始します

プロセス管理の終了処理を開始します。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

KAVB3675-I

The stop command terminated normally.

終了コマンドは正常終了しました

プロセス管理の終了コマンドが正常終了しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

KAVB3676-E

The stop command terminated abnormally.

終了コマンドは異常終了しました

プロセス管理の終了コマンドが異常終了しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

しばらく待ってから `jegn_spmc_status` コマンドで状態を確認後、再実行してください。

KAVB3677-E

The stop command terminated abnormally due to an inconsistent state.

終了コマンドは状態不正のため異常終了しました

プロセス管理がほかの処理をしている状態で、コマンドを実行しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

しばらく待ってから再実行してください。

KAVB3678-I

There were no processes that could terminate.

終了できるプロセスが存在しませんでした

終了できるプロセスがありません。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

KAVB3680-I

Reload processing for コンポーネント名 has started.
コンポーネント名のリロード処理を開始します

プロセス管理の管理対象プロセスのリロード処理を開始します。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

KAVB3681-I

The reload command terminated normally.
リロードコマンドは正常終了しました

プロセス管理のリロードコマンドが正常終了しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

KAVB3682-E

The reload command terminated abnormally.
リロードコマンドは異常終了しました

プロセス管理のリロードコマンドが異常終了しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

管理対象プロセスで、リロード処理に失敗しているプロセスがないか確認してください。

KAVB3683-E

The reload command terminated abnormally due to an inconsistent state.
リロードコマンドは状態不正のため異常終了しました

プロセス管理がほかの処理をしている状態で、コマンドを実行しました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

しばらく待ってから再実行してください。

KAVB3684-E

There were no processes that could be reloaded.

リロードできるプロセスが存在しませんでした

リロードできるプロセスがありません。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

管理対象プロセスが起動しているか確認してください。

KAVB3685-E

A timeout occurred in プロセス名.

プロセス名がタイムアウトしました

プロセス名で示すプロセスのリロード処理がタイムアウトしました。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

管理対象プロセスでリロード処理に失敗しているプロセスがないか確認してください。

KAVB3690-I

Processing to report the status of コンポーネント名 has started.

コンポーネント名の状態通知処理を開始します

プロセス管理の状態通知処理を開始します。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

KAVB3691-I

All the processes have started.

プロセスは全て起動しています

すべての管理対象プロセスが起動しています。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

KAVB3692-I

Some of the processes have started.

プロセスは一部起動しています

一部の管理対象プロセスが起動しています。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

KAVB3693-I

All of the processes have stopped.

プロセスは全て停止しています

すべての管理対象プロセスが停止しています。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

KAVB3694-I

Part of the process is now restarting.

プロセスは一部再起動中です

プロセス管理は一部再起動中です。

(S)

プロセス管理の状態通知コマンドを終了します。

KAVB3705-I

管理対象プロセス名 is now starting. (process ID = プロセス ID)

管理対象プロセス名 開始中... pid = プロセス ID

管理対象プロセスを起動中です。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。プロセス ID は、起動中の管理対象プロセスのプロセス ID です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3732-I

コンポーネント名 detected the termination of 管理対象プロセス名. (process ID = プロセス ID)

コンポーネント名 管理対象プロセス名の停止を検知しました プロセス ID = プロセス ID

管理対象プロセスの停止を検知しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。プロセス ID は、起動中の管理対象プロセスのプロセス ID です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3736-I

All processes of コンポーネント名 have stopped.
コンポーネント名の全プロセスが停止しました

管理対象プロセスがすべて停止しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

プロセス管理を終了します。

KAVB3737-E

The コンポーネント名 管理対象プロセス名 terminated abnormally
コンポーネント名の 管理対象プロセス名は異常終了しました

管理対象プロセスの異常終了を検知しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。

(S)

処理を続行します。

(O)

異常終了した管理対象プロセスが出力している統合トレースログを参照し、障害要因を取り除いてください。jegn_spm�_status コマンドで状態を確認後、再起動してください。もし、管理対象プロセスの出力しているメッセージが存在しなかった場合、資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KAVB3743-I

コンポーネント名 has terminated.
コンポーネント名を終了します

プロセス管理を終了します。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

プロセス管理を終了します。

KAVB3744-I

コンポーネント名 startup has finished.
コンポーネント名の起動が完了しました

サービスの起動が完了しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3745-I

The コンポーネント名 startup request has finished.
コンポーネント名の起動要求が完了しました

起動要求が完了しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3752-E

An attempt to start 管理対象プロセス名 has finished. (return code = リターンコード, detail code = 要求コード)

管理対象プロセスの起動に失敗しました。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。

(S)

処理を続行します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KAVB3760-I

The changes to ファイル名 were not applied.
ファイル名 の変更は採用されませんでした

拡張起動プロセス定義ファイル(jegn_service_0700.conf)の設定変更は採用されませんでした。

(S)

処理を続行します。

(O)

設定値を変更して再実行してください。

KAVB3761-E

In the file **ファイル名**, the restart-or-not value is invalid. (restart-or-not = **設定値**)
定義ファイル**ファイル名** : 再起動可否の値が不正です. **設定値**

拡張起動プロセス定義ファイル(jegn_service_0700.conf)で設定された再起動可否の値が不正です。

(S)

処理を続行します。

(O)

設定値を変更して再実行してください。

KAVB3762-I

Set 0 or 1 for the restart-or-not value.
再起動可否 : 0 か 1 を設定してください

拡張起動プロセス定義ファイル(jegn_service_0700.conf)で設定する再起動可否の値は 0 か 1 を設定してください。

(S)

処理を続行します。

(O)

再起動可否の値は 0 か 1 を設定してください。

KAVB3763-E

In the file **ファイル名**, the number-of-restarts value is invalid. (restart num. = **設定値**)
定義ファイル**ファイル名** : 再起動回数の値が不正です. **設定値**

拡張起動プロセス定義ファイル(jegn_service_0700.conf)で設定された再起動回数の値が不正です。

(S)

処理を続行します。

(O)

設定値を変更して再実行してください。

KAVB3764-I

Set 0 to 99 for the number-of-restarts value.
再起動回数 : 0 から 99 を設定してください

拡張起動プロセス定義ファイル(jegn_service_0700.conf)で設定する再起動回数の値は 0~99 を設定してください。

(S)

処理を続行します。

(O)

再起動回数の値は 0~99 を設定してください。

KAVB3765-E

In the file **ファイル名**, the restart interval value is invalid. (restart interval = **設定値**)
定義ファイル**ファイル名** : リトライ間隔の値が不正です. **設定値**

拡張起動プロセス定義ファイル(jegn_service_0700.conf)で設定されたリトライ間隔の値が不正です。

(S)

処理を続行します。

(O)

設定値を変更して再実行してください。

KAVB3766-I

Set 0 to 3600 for the restart interval value.
リトライ間隔 : 0 から 3600 を設定してください

拡張起動プロセス定義ファイル(jegn_service_0700.conf)で設定するリトライ間隔の値は 0~3,600 を設定してください。

(S)

処理を続行します。

(O)

リトライ間隔の値は 0~3,600 を設定してください。

KAVB3767-E

In the file **ファイル名**, the restart-count reset time is invalid. (restart-count reset time = **設定値**)
定義ファイル**ファイル名** : 再起動回数リセット時間の値が不正です. **設定値**

拡張起動プロセス定義ファイル(jegn_service_0700.conf)で設定された再起動回数リセット時間の値が不正です。

(S)

処理を続行します。

(O)

設定値を変更して再実行してください。

KAVB3768-I

Set 3600 to 2147483647 for the restart-count reset time.

再起動回数リセット時間：3600 から 2147483647 を設定してください

拡張起動プロセス定義ファイル(jegn_service_0700.conf)で設定する再起動回数リセット時間の値は3,600~2,147,483,647 を設定してください。

(S)

処理を続行します。

(O)

再起動回数リセット時間の値は 3,600~2,147,483,647 を設定してください。

KAVB3769-I

In **ファイル名**, check the entries: process-name|path|startup-option|restart-or-not|number-of-restarts|restart-interval|restart-count-reset-time|

ファイル名 のエントリを確認してください : プロセス名|パス|起動オプション|再起動可否|再起動回数|リトライ間隔|再起動回数リセット時間|

拡張起動プロセス定義ファイル(jegn_service_0700.conf)のエントリーを確認してください。

(S)

処理を続行します。

(O)

拡張起動プロセス定義ファイルのエントリーを確認してください。

KAVB3777-I

コンポーネント名: The stopped **管理対象プロセス名** will be restarted. (restart count = **再起動回数**)

コンポーネント名 : 停止した **管理対象プロセス名** を再起動します.再起動回数 = **再起動回数**

停止した管理対象プロセスを再起動します。コンポーネント名は JP1_EGN です。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。

(S)

管理対象プロセスを再起動します。

KAVB3778-I

コンポーネント名: A startup request was sent to the process **管理対象プロセス名**.

コンポーネント名: 管理対象プロセス名 に起動要求を送信しました

管理対象プロセスに起動要求を送信しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3779-I

コンポーネント名: An attempt to send a startup request to the process 管理対象プロセス名 failed.

コンポーネント名: 管理対象プロセス名 の起動要求の送信が失敗しました

管理対象プロセスの起動要求送信に失敗しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3786-E

To process 管理対象プロセスの子プロセス ID, the system sent the signal シグナル名.

pid = 管理対象プロセスの子プロセス ID のプロセスに シグナル名 を送信しました

管理対象プロセスの子プロセスにシグナルを送信しました。管理対象プロセスの子プロセス ID は、起動中の管理対象プロセスが生成するプロセスのプロセス ID です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3788-E

コンポーネント名: The number of restarts of 管理対象プロセス名 exceeded the specified restart count.

コンポーネント名: 管理対象プロセス名 の再起動が設定再起動回数を超えました

管理対象プロセスの再起動回数が設定値を超えました。コンポーネント名は JP1_EGN です。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。

(S)

処理を続行します。

(O)

異常終了した管理対象プロセスが出力している統合トレースログを参照し、障害要因を取り除いてください。jegn_spmc_status コマンドで状態を確認後、プロセス管理を再起動してください。もし、管理

対象プロセスの出力しているメッセージが存在しなかった場合、資料採取ツールで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KAVB3802-W

The process manager will not be monitored because an attempt to initialize the health check function failed.

ヘルスチェック機能の初期化に失敗したためプロセス管理は監視されません

ヘルスチェック機能の初期化に失敗したためプロセス管理は監視されません。

- (S) 処理を続行します。
- (O) ヘルスチェック機能でプロセス管理を監視するためには、プロセス管理を再起動してください。

KAVB3840-E

The product information could not be acquired because there was not enough memory.

(Detailed information:関数名,戻り値)

リソース不足のため製品情報取得に失敗しました (詳細情報:関数名,戻り値)

リソース不足のため、製品情報の取得に失敗しました。

- (S) 処理を中断します。
- (O) システムのリソースが不足していないか確認してください。
リソース不足解消後、再実行してください。
解決しない場合は、資料採取ツールで資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KAVB3841-E

The product information could not be acquired because the environment is invalid.(Detailed information:関数名,戻り値)

環境不正のため製品情報取得に失敗しました(詳細情報:関数名,戻り値)

環境不正のため、製品情報の取得に失敗しました。

- (S) 処理を中断します。
- (O) システムに障害が発生していないか確認してください。

アンインストールし再インストール後に、再実行してください。

KAVB3846-I

コンポーネント名 completed the reload request.
コンポーネント名のリロード要求は完了しました

リロード処理が完了しました。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3855-I

The process 管理対象プロセス名 will be terminated by SIGKILL. (process ID = プロセス ID)
プロセス 管理対象プロセス名 SIGKILL で停止します... pid = プロセス ID

管理対象プロセスに SIGKILL を送信しました。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。プロセス ID は、起動中の管理対象プロセスのプロセス ID です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3862-E

コンポーネント名: No processes could be started.
コンポーネント名プロセスが一つも起動できませんでした

管理対象プロセスが一つも起動できませんでした。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

プロセス管理を終了します。

(O)

システムのメモリーが不足していないか、また、製品が正しくインストールされているか確認してください。

KAVB3863-E

コンポーネント名: No processes can be reloaded.
コンポーネント名 リロードできるプロセスがありません

管理対象プロセスがすべてリロードできる状態ではありませんでした。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

処理を続行します。

(O)

しばらく待ったあと、再実行してください。

KAVB3870-E

The conf directory path cannot be obtained from the common definition.
共通定義から conf ディレクトリパスが取得できません

共通定義から conf ディレクトリパスが取得できませんでした。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

クラスタシステムで運用している場合

プロセス管理コマンドで指定している引数の論理ホスト名が正しいか確認してください。また、環境変数 JP1_HOSTNAME の設定している論理ホスト名が正しいか確認してください。

クラスタシステムで運用していない場合

環境変数 JP1_HOSTNAME を設定し、起動していないか確認してください。環境変数 JP1_HOSTNAME を設定していない場合は、修正インストールをしてください。

KAVB3871-E

The conf directory path cannot be obtained by using the specified logical hostname.
指定された論理ホスト名で conf ディレクトリパスが取得できません

指定された論理ホスト名で共通定義から conf ディレクトリパスが取得できませんでした。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

クラスタシステムでの運用が前提です。指定した論理ホスト名が正しいか、または設定が正常に終了しているか確認してください。

KAVB3872-E

The log directory path cannot be obtained from the common definition information.
共通定義から log ディレクトリパスが取得できません

共通定義から log ディレクトリパスが取得できませんでした。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

クラスタシステムで運用している場合、論理ホスト名の設定が正しいか、または設定が正常に終了しているか確認してください。クラスタシステムで運用していない場合は、修正インストールを行ってください。

KAVB3873-E

The log directory path cannot be obtained by using the specified logical hostname.

指定された論理ホスト名で log ディレクトリパスが取得できません

指定された論理ホスト名で共通定義から log ディレクトリパスが取得できませんでした。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

クラスタシステムでの運用が前提です。指定した論理ホスト名が正しいか、または設定が正常に終了しているか確認してください。

KAVB3874-E

HNTRLib could not be initialized.

HNTRLib が初期化できませんでした

HNTRLib2 が初期化できませんでした。ログが出力されません。

(S)

処理を続行します。

(O)

プロセス管理起動時の場合は、プロセス管理を停止し、再起動してください。

KAVB3875-E

HNTRLib could not be initialized.

HNTRLib が初期化できませんでした

HNTRLib2 が初期化できませんでした。ログが出力されません。

(S)

処理を続行します。

(O)

プロセス管理起動時の場合は、プロセス管理を停止し、再起動してください。

KAVB3899-E

The work directory path cannot be acquired from the common definition information. (return code = リターンコード)

共通定義から work ディレクトリパスが取得できません

共通定義からwork ディレクトリパスが取得できませんでした。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

クラスタシステムで運用している場合、論理ホスト名の設定が正しいか、または設定が正常に終了しているか確認してください。クラスタシステムで運用していない場合は、修正インストールを行ってください。

KAVB3905-I

A stop request was sent to the process 管理対象プロセス名. (process ID = プロセス ID)

プロセス 管理対象プロセス名に停止要求を送信しました... pid = プロセス ID

管理対象プロセスに停止要求を送信しました。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。プロセス ID は、起動中の管理対象プロセスのプロセス ID です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3908-I

A reload request was sent to the process 管理対象プロセス名. (process ID = プロセス ID)

プロセス 管理対象プロセス名にリロード要求を送信しました... pid = プロセス ID

管理対象プロセスにリロード要求を送信しました。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。プロセス ID は、起動中の管理対象プロセスのプロセス ID です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3910-I

SIGTERM will terminate the process **管理対象プロセス名**. (process ID = **プロセス ID**)
プロセス **管理対象プロセス名** SIGTERM で停止します... pid = **プロセス ID**

管理対象プロセスに SIGTERM を送信しました。**管理対象プロセス名**は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。**プロセス ID**は、起動中の管理対象プロセスのプロセス ID です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3911-E

The process management daemon is busy.
コマンド処理中です

コマンドを処理中です。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

しばらく待ってから再実行してください。起動、停止、またはリロード処理中に、`jegn_spmd_reload` コマンドを実行した場合に出力されているときは、処理が完了するのを待ってから再実行してください。

KAVB3912-I

The process is running.
プロセスは起動しています

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

KAVB3913-I

The process is not running.
プロセスは停止しています

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

KAVB3914-E

An attempt to open the lock file under the conf directory has failed.

conf ディレクトリのロックファイルがオープンできません

conf ディレクトリのロックファイルがオープンできませんでした。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

conf ディレクトリがあるか、または書き込み権限があるか確認してください。

クラスタシステムで運用している場合、定義したconf ディレクトリがあるか、または書き込み権限があるか確認してください。

KAVB3935-E

create_pre_process_entry: Memory allocation failed. (要求コード)

create_pre_process_entry : メモリ確保に失敗しました : 要求コード

起動前処理管理テーブルの作成に失敗しました。起動前処理は行われません。

(S)

処理を続行します。

(O)

メモリー不足が発生していないか確認してください。

KAVB3960-I

Startup preprocessing is being performed.

起動前処理中です

プロセス管理は起動前処理中です。

(S)

プロセス管理の状態通知コマンドを終了します。

KAVB3961-E

The request could not be accepted because startup preprocessing is being performed.

起動前処理中の為、要求を受けられません

プロセス管理は起動前処理中のため、コマンド要求を受け付けられませんでした。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

(O)

しばらく待ってから再実行してください。

KAVB3981-I

jegn_spmd_stop -job: A request to stop job restrictions will be sent to all processes of コンポーネント名.

jegn_spmd_stop -job : コンポーネント名の全プロセスに対しジョブ制限停止要求を送信します

管理対象のプロセスすべてに対しジョブ制限停止要求を送信します。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3984-I

A request to stop job restrictions has been sent to the process 管理対象プロセス名. (process ID = プロセス ID)

プロセス 管理対象プロセス名にジョブ制限停止要求を送信しました... pid = プロセス ID

管理対象プロセスにジョブ制限停止要求を送信しました。管理対象プロセス名は、プロセス管理の管理している各コンポーネントを構成しているプロセスの名前です。プロセス ID は、起動中の管理対象プロセスのプロセス ID です。

(S)

処理を続行します。

KAVB3986-I

Processing to stop コンポーネント名 job restrictions has started.

コンポーネント名のジョブ制限終了処理を開始します

プロセス管理のジョブ制限終了処理を開始します。コンポーネント名は JP1_EGN です。

(S)

プロセス管理コマンドを終了します。

10

トラブルシューティング

この章では、JP1/IM - EG for NNMi でトラブルが発生した場合の対処方法について説明します。

10.1 対処の手順

JP1/IM - EG for NNMi でトラブルが発生した場合は、次の手順で対処してください。

1. 現象の確認

トラブルが発生したときの現象を確認してください。メッセージが出力されている場合は、メッセージの内容を確認してください。トラブルの要因が判明した場合は、対処方法に従ってトラブルを解決します。

2. 資料の採取

手順 1. でトラブルが解消されない場合、または内部エラー、通信エラーなどの場合は、トラブルの要因を調べるために資料の採取が必要です。「[10.3 トラブル発生時に採取が必要な資料](#)」を参照して、必要な資料を採取してください。

3. 問題の調査

採取した資料を基に問題の要因を調査し、問題が発生している部分、または問題の範囲を切り分けてください。

10.2 ログ情報の種類

JP1/IM - EG for NNMi を運用しているときに出力されるログ情報は 3 種類あります。

- 統合トレースログ
- JP1 イベント発行トレースログ
- プロセス別トレースログ

この節では、3 種類のログ情報について説明します。

10.2.1 統合トレースログ

統合トレースログとは、各プログラムが出力するトレース情報を、統合トレース機能 (HNTRLib2) を通じて、一つの出力先ファイルにまとめて採取するログ情報のことです。

統合トレースログのデフォルトの出力先を次に示します。

Windows の場合

```
システムドライブ:¥Program Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥spool¥hntr2{1|2|3|4}.log
```

UNIX の場合

```
/var/opt/hitachi/HNTRLib2/spool/hntr2{1|2|3|4}.log
```

統合トレースログは、任意のテキストエディターで参照できます。統合トレースログの出力例を次に示します。

図 10-1 統合トレースログの出力例

```
**** Microsoft WindowsNT5.2 (Build:3790) Service Pack 1
TZ=(local)-9:00 2009/08/02 16:04:23.343
message (LANG=0x0411)
0062 2009/08/01 10:20:45.765 jegneg4nnmi 00001214 00000B4C KNAG2000-1
JP1/IMEG for NNMi サービスが起動しました(論理ホスト名:HOST2)
```

統合トレースログに出力されるヘッダー情報と出力項目の説明を次に示します。

表 10-1 統合トレースログのヘッダー情報

ヘッダー情報	説明
OS 情報	統合トレース機能が起動している OS の情報です。

ヘッダー情報	説明
ホスト名	統合トレース機能が起動しているホスト名です。
タイムゾーン	Windows の場合 OS のタイムゾーンです。 UNIX の場合 統合トレースプロセスの環境変数TZ です。 環境変数TZ が設定されていない場合は Unknown となります。
統合トレース機能起動時刻	統合トレース機能を起動した時刻です。

表 10-2 統合トレースログの出力項目

出力項目	説明
番号	トレースレコードの通番 (4 けた) 番号はログを出力したプロセスごとに採番されます。
日付	トレースの取得日付: yyyy/mm/dd (年/月/日)
時刻	トレースの取得時刻 (ローカル時刻): hh:mm:ss.sss (時:分:秒.ミリ秒)
AP 名	アプリケーションを識別するための名称 (アプリケーション識別名)。 JP1/IM - EG for NNMi で出力される AP 名は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> JP1/IM - EG for NNMi のサービス jegneg4nnmi プロセス管理 JEGN_SPMD
pid	プロセス ID。OS が付けるプロセス ID。
tid	スレッド ID。スレッドを識別するための ID。
メッセージ ID	メッセージの出力形式で説明したメッセージ ID。この製品で使用するメッセージ ID。
メッセージテキスト	統合トレースログに出力されるメッセージのテキスト。この製品から出力されるメッセージテキスト。

注意

統合トレースログに出力されるログの時刻は、出力したプロセスのタイムゾーンでフォーマットされません。

このため、環境変数TZを変更したユーザーなどがサービスを起動したり、コマンドを実行したりすると、OS に設定されているタイムゾーンと異なる時刻が出力されることがあります。

10.2.2 JP1 イベント発行トレースログ

JP1 イベント発行トレースログは、NNMi インシデントを JP1 イベントに変換したときの変換結果を出力するトレースログです。NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルのフィルター条件文によるフィルタリング結果や、JP1 イベントの発行状況などがわかります。

JP1 イベント発行トレースログのデフォルトの出力先を次に示します。

Windows の場合

- 物理ホスト：EG for NNMi パス¥log¥jegnevent{1|2|3|4}.log
- 論理ホスト：共有フォルダ¥JP1EG4NNMI¥Log¥jegnevent{1|2|3|4}.log

UNIX の場合

- 物理ホスト：/var/opt/jp1eg4nnmi/log/jegnevent{1|2|3|4}.log
- 論理ホスト：共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/log/jegnevent{1|2|3|4}.log

JP1 イベント発行トレースログは、任意のテキストエディターで参照できます。JP1 イベント発行トレースログの出力例を次に示します。

図 10-2 JP1 イベント発行トレースログの出力例

```
**** Microsoft WindowsNT5.2(Build:3790) Service Pack 2
TZ=(local)-9:00 2009/08/02 11:57:38.044
message (LANG=0x0411)
0226 2009/08/01 10:21:28.625 jegneg4nnmi 00000E00 000012AC
FWD1 : 1235092887531 71477e17-47b2-4025-86e9-7e38840abb39 host 2009/08/01 08:42:41 > 572
```

JP1 イベント発行トレースログに出力されるヘッダー情報と出力項目の説明を次の表に示します。

表 10-3 JP1 イベント発行トレースログのヘッダー情報

ヘッダー情報	説明
OS 情報	JP1/IM - EG for NNMi のトレース機能が起動している OS の情報です。
ホスト名	JP1/IM - EG for NNMi のトレース機能が起動しているホスト名です。
タイムゾーン	Windows の場合 OS のタイムゾーンです。 UNIX の場合 トレースプロセスの環境変数TZ です。 環境変数TZ が設定されていない場合は Unknown となります。
トレース機能起動時刻	JP1/IM - EG for NNMi のトレース機能を起動した時刻です。

表 10-4 JP1 イベント発行トレースログの出力項目

出力項目	説明
番号	トレースレコードの通番 (4 けた) 番号はログを出力したプロセスごとに採番されます。
日付	トレースの取得日付 : yyyy/mm/dd (年/月/日)
時刻	トレースの取得時刻 (ローカル時刻) : hh:mm:ss.sss (時:分:秒.ミリ秒)
AP 名	アプリケーションを識別するための名称 (アプリケーション識別名)。 JP1/IM - EG for NNMi で出力される AP 名は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> JP1/IM - EG for NNMi のサービス jegneg4nnmi プロセス管理 JEGN_SPMD
pid	プロセス ID。OS が付けるプロセス ID。
tid	スレッド ID。スレッドを識別するための ID。
メッセージテキスト	JP1 イベント発行トレースログに出力されるメッセージのテキスト。この製品から出力されるメッセージテキスト。

メッセージテキストの形式

JP1 イベント発行トレースログに出力されるメッセージテキストの形式を次に示します。

変換結果△:△取得要求日時△UUID△ソースノード名△作成日時△>△イベント DB 番号

△は一つ以上の連続した半角のスペースまたはタブを示します。

メッセージテキストの出力例を次に示します。

図 10-3 JP1 イベント発行トレースログのメッセージテキストの出力例

変換結果 取得要求日時 UUID ソースノード名 作成日時 イベント DB 番号

FWD1 : 1235092887531 7f477e17-47b2-4025-86e9-7e38840abb39 host 2009/08/01 08:42:41 > 572

メッセージテキストの項目の説明を次の表に示します。

表 10-5 JP1 イベント発行トレースログのメッセージテキストの項目

項目	説明
変換結果	NNMi インシデントを JP1 イベントに変換した結果。 FWDn 転送条件ブロックに記述された n 番目のフィルター条件文を満たしたため、JP1 イベントに変換したことを示します。 EXC 転送条件ブロックに記述されたフィルター条件文を一つも満たさなかったため、JP1 イベントに変換しなかったことを示します。

項目	説明
取得要求日時	NNMi に対して NNMi インシデントの取得を要求した日時。 1970 年 1 月 1 日 00:00:00 (世界標準時) から経過したミリ秒数で表されます。
UUID	NNMi インシデントの UUID。
ソースノード名	NNMi インシデントのソースノード名。
作成日時	NNMi インシデントの作成日時 (ローカル時刻) : yyyy/mm/dd hh:mm:ss (年/月/日 時:分:秒)
イベント DB 番号	NNMi インシデントを変換して発行した JP1 イベントの、イベント DB 内の通し番号。 変換結果が FWDn の場合だけ出力されます。

注意

JP1 イベント発行トレースログに出力されるログの時刻は、出力したプロセスのタイムゾーンでフォーマットされます。

このため、環境変数TZを変更したユーザーなどがサービスを起動したり、コマンドを実行したりすると、OSに設定されているタイムゾーンと異なる時刻が出力されることがあります。

10.2.3 プロセス別トレースログ

プロセス別トレースログとは、JP1/IM - EG for NNMiの各機能が出力するログ情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお、プロセス別トレースログには製品情報が含まれているため、内容は公開していません。

10.3 トラブル発生時に採取が必要な資料

トラブルが発生したときに採取が必要な資料について説明します。

JP1/IM - EG for NNMi では採取が必要な資料を一括採取するための資料採取ツール (jegn_log コマンド) を提供しています。jegn_log コマンドの詳細については、「7. コマンド」の「jegn_log.bat (Windows 限定)」または「jegn_log.sh (UNIX 限定)」を参照してください。

Windows, UNIX のそれぞれで採取する資料について説明します。

10.3.1 採取が必要な資料 (Windows の場合)

Windows の場合にトラブルが発生したときに採取が必要な資料について説明します。

資料採取ツール (jegn_log.bat コマンド) を使用すると、資料を採取する対象フォルダまたはファイルを一次資料および二次資料に区分けし、指定した資料格納フォルダの直下に採取した資料が格納されます。

資料格納フォルダの直下に格納される資料のフォルダ構成および資料内容を次に示します。

表 10-6 資料のフォルダ構成および資料内容 (物理ホスト)

フォルダ名	種類	格納される資料
資料格納フォルダ¥jp1_default¥eg4nnmi_1st¥oslog	一次資料	OS のログ情報
資料格納フォルダ¥jp1_default¥eg4nnmi_1st¥spool		統合トレースログ
資料格納フォルダ¥jp1_default¥eg4nnmi_1st¥eg4nnmi		JP1/IM - EG for NNMi の情報
資料格納フォルダ¥jp1_default¥eg4nnmi_1st¥base		JP1/Base の情報
資料格納フォルダ¥jp1_default¥eg4nnmi_1st¥ucpsb		Web サーバの情報
資料格納フォルダ¥jp1_default¥eg4nnmi_2nd¥oslog	二次資料	OS のログ情報
資料格納フォルダ¥jp1_default¥eg4nnmi_2nd¥base		JP1/Base の情報

表 10-7 資料のフォルダ構成および資料内容 (論理ホスト)

フォルダ名	種類	格納される資料
資料格納フォルダ¥論理ホスト名¥eg4nnmi_1st¥oslog	一次資料	OS のログ情報
資料格納フォルダ¥論理ホスト名¥eg4nnmi_1st¥eg4nnmi		JP1/IM - EG for NNMi の情報
資料格納フォルダ¥論理ホスト名¥eg4nnmi_1st¥base		JP1/Base の情報
資料格納フォルダ¥論理ホスト名¥eg4nnmi_1st¥ucpsb		Web サーバの情報
資料格納フォルダ¥論理ホスト名¥eg4nnmi_2nd¥oslog	二次資料	OS のログ情報

フォルダ名	種類	格納される資料
資料格納フォルダ¥論理ホスト名¥eg4nmi_2nd¥base	二次資料	JP1/Base の情報

jegn_log.bat コマンドの詳細については、「7. コマンド」の「[jegn_log.bat \(Windows 限定\)](#)」を参照してください。

資料採取ツール使用時の注意事項

- 資料採取ツールを実行した場合、資料採取ツールの実行が終了してもマシンのシステム情報が採取されていない場合があります。これは、資料採取ツールの実行が終了しても、内部的に OS の情報を採取するためのプロセスが終了していないためです。タスクマネージャを起動し、[プロセス] タブで「msinfo32.exe」が終了しているのを確認した後、採取した資料を圧縮ツールなどで圧縮したり、移動、削除などの操作を行ってください。
- Windows イベントログ中に、イベントログ発行元製品提供のメッセージフォーマットと埋め文字の数が一致していない Windows イベントが存在する場合、資料採取ツール実行中にアプリケーションエラーが発生することがあります。その場合も、資料は採取されていますので特に問題はありません。なお、本現象が発生した場合、ダイアログが表示され、資料採取ツールの実行が中断することがあります（ダイアログに応答することで、再開します）。ダイアログの表示を抑止したい場合は、次の手順を実行してください。
 - [スタート] メニューを開き、[プログラムとファイルの検索] で gpedit.msc を入力してください。
 - [ローカルグループポリシーエディター] が開くので、左側のツリーで [ローカルコンピューターポリシー] - [コンピュータの構成] - [管理用テンプレート] - [Windows コンポーネント] - [Windows エラー報告] を選択してください。
 - 右側の [設定] で [重大なエラーが発生したユーザー インターフェイスを表示しないようにする] を選択して [有効] にしたあと、[OK] ボタンをクリックしてください。

(1) OS のログ情報

トラブル発生時に採取する OS のログ情報について説明します。OS のログ情報は資料採取ツール (jegn_log.bat コマンド) で採取できます。資料採取ツールで取得できる OS のログ情報を次の表に示します。

なお、ファイル名は資料採取ツールを実行したあとの格納先でのファイル名です。

表 10-8 OS のログ情報 (物理ホストの一次資料)

情報の種類	採取資料	ファイル名
資料採取日時	<ul style="list-style-type: none"> date /t の実行結果 time /t の実行結果 	date.log
日立総合インストーラのログファイル	Windows のインストール先フォルダ¥Temp¥HCDINST¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル

情報の種類	採取資料	ファイル名
マシンに設定されているホスト名の設定	システムルートフォルダ ¥system32¥drivers¥etc¥hosts	hosts
マシンに設定されているサービスポートの設定	システムルートフォルダ ¥system32¥drivers¥etc¥services	services
NIC の実装状況	ipconfig /all の実行結果	ipconfig.log
起動サービス一覧	net start の実行結果	netstart.log
ネットワーク統計情報	netstat -nao の実行結果	netstat.log
マシンの環境変数	set の実行結果	set.log
マシンのシステム情報	msinfo32 /report ファイル名の実行結果	msinfo32.log
レジストリ情報	レジストリHKEY_LOCAL_MACHINE ¥SOFTWARE¥HITACHI または レジストリHKEY_LOCAL_MACHINE ¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥HITACHI の内容をreg コマンドで採取した結果	hitachi_reg.txt
メディアセンス機能の ON/OFF 情報	レジストリHKEY_LOCAL_MACHINE ¥System¥CurrentControlSet ¥Services¥Tcpip¥Parameters ¥DisableDHCPMediaSense の内容をreg コマンドで採取した結果	DisableDHCPMediaSense_reg.txt
JP1/Base のアクセス権限情報(インストールフォルダ)	cacls Base パスの実行結果	cacls_jp1base.log
JP1/Base のアクセス権限情報(ログフォルダ)	cacls Base パス¥log の実行結果	cacls_jp1base_log.log
JP1/Base のアクセス権限情報(コマンド実行履歴フォルダ)	cacls Base パス¥log¥COMMAND の実行結果	cacls_jp1base_log_COMMAND.log
JP1/Base のアクセス権限情報(イベント DB フォルダ)	cacls Base パス¥sys の実行結果	cacls_jp1base_sys.log
	cacls Base パス¥sys¥event の実行結果	cacls_jp1base_sys_event.log
	cacls Base パス¥sys¥event ¥servers の実行結果	cacls_jp1base_sys_event_servers.log
	cacls Base パス¥sys¥event ¥servers¥default の実行結果	cacls_jp1base_sys_event_servers_default.log
JP1/IM - EG for NNMi のアクセス権限情報(インストールフォルダ)	cacls EG for NNMi パスの実行結果	cacls_jp1eg4nnmi.log
JP1/IM - EG for NNMi のアクセス権限情報(ログフォルダ)	cacls EG for NNMi パス¥log の実行結果	cacls_jp1eg4nnmi_log.log

情報の種類	採取資料	ファイル名
JP1/Base のファイル一覧	dir Base パス /s の実行結果	dir_jp1base.log
JP1/IM - EG for NNMi のファイル一覧	dir EG for NNMi パス /s の実行結果	dir_jp1eg4nnmi.log
ネットワークアドレス解決のためのホスト名	jbsgethostbyname の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jbsgethostbyname.log(標準出力) • jbsgethostbyname_err.log(標準エラー出力)
ヘルスチェック	jbshcstatus -debug -a の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jbshcstatus.log(標準出力) • jbshcstatus_err.log(標準エラー出力)
イベントサービスのプロセス稼働状態	jevstat の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jevstat.log(標準出力) • jevstat_err.log(標準エラー出力)
プロセス稼働状態 (JP1/Base)	jbs_spmd_status の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jbs_spmd_status.log(標準出力) • jbs_spmd_status_err.log(標準エラー出力)
プロセス稼働状態 (JP1/IM - EG for NNMi)	jegn_spmd_status の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jegn_spmd_status.log(標準出力) • jegn_spmd_status_err.log(標準エラー出力)
ホストに登録された jp1hosts2 情報	jbshosts2export の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> • jbshosts2export.log(標準出力) • jbshosts2export_err.log(標準エラー出力)
資料採取コマンドの実行結果	jegn_log.bat コマンドの実行結果	jegn_log_result.log
製品情報取得ライブラリ情報およびログ	<%SystemDrive%>%Program Files(x86)%Hitachi%jp1common%jp1imegn%以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
JP1/Base のアクセス権限情報 (ALLUSERSPROFILE フォルダ)	cacls <%ALLUSERSPROFILE%>%Hitachi%jp1%jp1_default%JP1Base%log の実行結果	cacls_programdata_jp1base_log.log
JP1/Base のファイル一覧 (ALLUSERSPROFILE フォルダ)	dir <%ALLUSERSPROFILE%>%Hitachi%jp1%jp1_default%JP1Base /s の実行結果	dir_programdata_jp1base.log

表 10-9 OS のログ情報 (物理ホストの二次資料)

情報の種類	採取資料	ファイル名
資料採取日時	<ul style="list-style-type: none"> • date /t の実行結果 • time /t の実行結果 	date.log

情報の種類	採取資料	ファイル名
Windows イベントログ	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーション：システムルートフォルダ ¥system32¥config ¥AppEvent.Evt システム：システムルートフォルダ¥system32¥config ¥SysEvent.Evt 	<ul style="list-style-type: none"> AppEvent(Backup).evt AppEvent(Backup).txt SysEvent(Backup).evt SysEvent(Backup).txt
クラッシュダンプ※	ユーザー指定フォルダ¥user.dmp	user.dmp
ワトソン博士のログ※	ユーザー指定フォルダ ¥drwtsn32.log	drwtsn32.log

注※

あらかじめクラッシュダンプを出力するように設定しておく必要があります。出力設定の方法については、「2.4.5(1) トラブル発生時の資料採取の準備 (Windows 限定)」を参照してください。

表 10-10 OS のログ情報 (論理ホストの一次資料)

情報の種類	採取資料	ファイル名
資料採取日時	<ul style="list-style-type: none"> date /t の実行結果 time /t の実行結果 	date.log
JP1/Base のアクセス権限情報(共有フォルダ)	cacls 共有フォルダ¥JP1Base の実行結果	cacls_jp1base.log
JP1/Base のアクセス権限情報(ログフォルダ)	cacls 共有フォルダ¥JP1Base¥log の実行結果	cacls_jp1base_log.log
JP1/Base のアクセス権限情報(コマンド実行履歴フォルダ)	cacls 共有フォルダ¥JP1Base¥log ¥COMMAND の実行結果	cacls_jp1base_log_COMMAND.log
JP1/Base のアクセス権限情報(イベント DB フォルダ)	cacls 共有フォルダ¥JP1Base ¥event の実行結果	cacls_jp1base_event.log
JP1/IM - EG for NNMI のアクセス権限情報(共有フォルダ)	cacls 共有フォルダ¥JP1EG4NNMI の実行結果	cacls_jp1eg4nnmi.log
JP1/IM - EG for NNMI のアクセス権限情報(ログフォルダ)	cacls 共有フォルダ¥JP1EG4NNMI ¥log の実行結果	cacls_jp1eg4nnmi_log.log
JP1/Base のファイル一覧	dir 共有フォルダ¥JP1Base /s の実行結果	dir_論理ホスト名_jp1base.log
JP1/IM - EG for NNMI のファイル一覧	dir 共有フォルダ¥JP1EG4NNMI /s の実行結果	dir_論理ホスト名_jp1eg4nnmi.log
ネットワークアドレス解決のためのホスト名	jbsgethostbyname 論理ホスト名の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> jbsgethostbyname.log(標準出力) jbsgethostbyname_err.log(標準エラー出力)
イベントサービスのプロセス稼働状態	jevstat 論理ホスト名 の実行結果	jevstat.log(標準出力)

情報の種類	採取資料	ファイル名
イベントサービスのプロセス稼働状態	jevstat 論理ホスト名の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> jevstat_err.log(標準エラー出力)
ヘルスチェック	jbshcstatus -debug -a -h 論理ホスト名の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> jbshcstatus.log(標準出力) jbshcstatus_err.log(標準エラー出力)
プロセス稼働状態 (JP1/Base)	jbs_spmd_status -h 論理ホスト名の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> jbs_spmd_status.log(標準出力) jbs_spmd_status_err.log(標準エラー出力)
プロセス稼働状態 (JP1/IM - EG for NNMi)	jegn_spmd_status -h 論理ホスト名の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> jegn_spmd_status.log(標準出力) jegn_spmd_status_err.log(標準エラー出力)
ホストに登録された jp1hosts2 情報	jbshosts2export -h 論理ホスト名の実行結果	<ul style="list-style-type: none"> jbshosts2export.log(標準出力) jbshosts2export_err.log(標準エラー出力)
JP1/Base のアクセス権限情報 (ALLUSERSPROFILE フォルダ)	cacls <%ALLUSERSPROFILE%> ¥Hitachi¥jp1¥論理ホスト名 ¥JP1Base¥log の実行結果	cacls_programdata_jp1base_log.log
JP1/Base のファイル一覧 (ALLUSERSPROFILE フォルダ)	dir <%ALLUSERSPROFILE%> ¥Hitachi¥jp1¥論理ホスト名 ¥JP1Base /s の実行結果	dir_programdata_jp1base.log

表 10-11 OS のログ情報 (論理ホストの二次資料)

情報の種類	採取資料	ファイル名
資料採取日時	<ul style="list-style-type: none"> date /t の実行結果 time /t の実行結果 	date.log

(2) 統合トレースログ

統合トレースログは資料採取ツール (jegn_log.bat コマンド) で採取できます。資料採取ツールで取得できる統合トレースログを次の表に示します。

なお、ファイル名は資料採取ツールを実行したあとの格納先でのファイル名です。

表 10-12 統合トレースログ (物理ホストの一次資料)

情報の種類	採取資料	ファイル名
統合トレースログ	システムドライブ:ProgramFiles(x86)¥Hitachi ¥HNTRLib2¥spool	デフォルトで以下のファイル hntr2[1 2 3 4].log

(3) JP1/IM - EG for NNMi の情報

トラブル発生時に採取する JP1/IM - EG for NNMi の情報について説明します。JP1/IM - EG for NNMi の情報は資料採取ツール (jegn_log.bat コマンド) で採取できます。資料採取ツールで取得できる JP1/IM - EG for NNMi の情報を次の表に示します。

なお、ファイル名は資料採取ツールを実行したあとの格納先でのファイル名です。

表 10-13 JP1/IM - EG for NNMi の情報 (物理ホストの一次資料)

情報の種類		採取資料	ファイル名
パッチ適用履歴		EG for NNMi パス¥PATCHLOG.TXT	Patchlog_jp1eg4nnmi.txt
形名、バージョン情報		EG for NNMi パス¥Version.txt	Version.txt
ライセンス種別、使用期限		EG for NNMi パス¥ProductInfo.txt	ProductInfo.txt
設定および定義ファイル		EG for NNMi パス¥conf¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
ログファイル	JP1/IM - EG for NNMi の動作ログ情報	EG for NNMi パス¥log¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
	JP1/IM - EG for NNMi の通信ログ情報	EG for NNMi パス¥Lib¥uCPSB¥CC ¥client¥logs¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
転送フィルター定義ファイル		EG for NNMi パス¥dat¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル

表 10-14 JP1/IM - EG for NNMi の情報 (論理ホストの一次資料)

情報の種類	採取資料	ファイル名
設定および定義ファイル	共有フォルダ¥JP1EG4NNMI¥conf ¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
ログファイル	共有フォルダ¥JP1EG4NNMI¥log ¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
転送フィルター定義ファイル	共有フォルダ¥JP1EG4NNMI¥dat ¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル

(4) JP1/Base の情報

トラブル発生時に採取する JP1/Base の情報について説明します。JP1/Base の情報は資料採取ツール (jegn_log.bat コマンド) で採取できます。JP1/Base の情報を採取しない場合は、-n、-p、または-r オプションを指定して、jegn_log.bat コマンドを実行します。

資料採取ツールで取得できる JP1/Base の情報を次の表に示します。

なお、ファイル名は資料採取ツールを実行したあとの格納先でのファイル名です。

表 10-15 JP1/Base の情報 (物理ホストの一次資料)

情報の種類	採取資料	ファイル名
パッチ情報	Base パス¥PatchLog.txt	Patchlog_jp1base.txt
形名, バージョン情報	Base パス¥Version.txt	Version.txt
ライセンス種別, 使用期限	Base パス¥ProductInfo.txt	ProductInfo.txt
設定および定義ファイル	Base パス¥conf¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
共通定義情報	Base パス¥default¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
ログファイル	Base パス¥log¥以下のファイル	左記フォルダ配下のCOMMAND 以外の全ファイル
プラグインサービスの設定ファイル	Base パス¥plugin¥conf¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
ログおよびテンポラリファイル	Base パス¥sys¥tmp¥event¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
ログファイル (ALLUSERSPROFILE フォルダ)	<%ALLUSERSPROFILE%>¥Hitachi ¥jp1¥jp1_default¥JP1Base¥log ¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル

表 10-16 JP1/Base の情報 (物理ホストの二次資料)

情報の種類	採取資料	ファイル名
コマンド実行履歴ファイル	Base パス¥log¥COMMAND¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
イベント DB	Base パス¥sys¥event¥servers ¥default¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル

表 10-17 JP1/Base の情報 (論理ホストの一次資料)

情報の種類	採取資料	ファイル名
設定および定義ファイル	共有フォルダ¥JP1Base¥conf¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
ログファイル	共有フォルダ¥JP1Base¥log¥以下のファイル	左記フォルダ配下のCOMMAND 以外の全ファイル
イベントサーバの設定	共有フォルダ¥JP1Base¥event	左記フォルダ配下の IMEvent*. *以外の全ファイル
ログファイル (ALLUSERSPROFILE フォルダ)	<%ALLUSERSPROFILE%>¥Hitachi ¥jp1¥論理ホスト名¥JP1Base¥log ¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル

表 10-18 JP1/Base の情報（論理ホストの二次資料）

情報の種類	採取資料	ファイル名
コマンド実行履歴ファイル	共有フォルダ¥JP1Base¥log ¥COMMAND¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル
イベント DB	共有フォルダ¥JP1Base¥event	IMEvent*.*

(5) オペレーション内容

トラブル発生時のオペレーション内容について次に示す情報が必要です。

- オペレーション内容の詳細（トラブル発生時、トラブル発生前後のオペレーション）
- 発生時刻
- マシン構成（各 OS のバージョン、ホスト名、JP1/IM - EG for NNMi のシステム構成）
- 再現性

10.3.2 採取が必要な資料（UNIX の場合）

UNIX の場合にトラブルが発生したときに採取が必要な資料について説明します。

資料採取ツール（jegn_log.sh コマンド）を使用すると、資料を採取する対象ディレクトリまたはファイルを一次資料および二次資料に区分けし、指定した資料格納ディレクトリの直下でアーカイブしたあと、圧縮ファイルを作成します。

資料格納フォルダに格納される圧縮ファイルを次の表に示します。

表 10-19 採取した資料を圧縮したファイル

圧縮ファイル	内容
資料格納ディレクトリ/jp1_default_jp1eg4nnmi_1st.tar.gz	物理ホストの一次資料を格納します。
資料格納ディレクトリ/jp1_default_jp1eg4nnmi_2nd.tar.gz	物理ホストの二次資料を格納します。
資料格納ディレクトリ/論理ホスト名_jp1eg4nnmi_1st.tar.gz	論理ホストの一次資料を格納します。
資料格納ディレクトリ/論理ホスト名_jp1eg4nnmi_2nd.tar.gz	論理ホストの二次資料を格納します。

jegn_log.sh コマンドの詳細については、「7. コマンド」の「[jegn_log.sh \(UNIX 限定\)](#)」を参照してください。

(1) OS のログ情報

トラブル発生時に採取する OS のログ情報について説明します。OS のログ情報は資料採取ツール (jegn_log.sh コマンド) で採取できます。資料採取ツールで取得できる OS のログ情報を次の表に示します。

表 10-20 OS のログ情報 (物理ホストの一次資料)

情報の種類	採取資料	格納先*
インストール済み日立製品情報	/etc/.hitachi/pplistd/pplistd	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/pplistd
Hitachi PP Installer のインストールログファイル	/etc/.hitachi/.install.log*	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/.install.log*
Hitachi PP Installer のアンインストールログファイル	/etc/.hitachi/.uninstall.log*	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/.uninstall.log*
共通定義情報	/opt/jp1/hcclibcfnf/以下のファイル	./opt/jp1/hcclibcfnf/左記ファイルのコピーファイル
JP1/Base インストールログファイル	/tmp/HITACHI_JP1_INST_LOG/jp1base_inst{1 2 3 4 5}.log	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/HITACHI_JP1_INST_LOG/jp1base_inst{1 2 3 4 5}.log
JP1/IM - EG for NNMi インストールログファイル	/tmp/HITACHI_JP1_INST_LOG/jp1eg_inst{1 2 3 4 5}.log	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/HITACHI_JP1_INST_LOG/jp1eg_inst{1 2 3 4 5}.log
JP1/IM - Manager インストールログファイル	/tmp/HITACHI_JP1_INST_LOG/jp1imm_inst{1 2 3 4 5}.log	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/HITACHI_JP1_INST_LOG/jp1imm_inst{1 2 3 4 5}.log
ファイル一覧	<ul style="list-style-type: none"> ls -lRa /opt/jp1eg4nnmi の実行結果 ls -lRa /etc/opt/jp1eg4nnmi の実行結果 ls -lRa /var/opt/jp1eg4nnmi の実行結果 ls -lRa /opt/jp1base の実行結果 ls -lRa /etc/opt/jp1base の実行結果 ls -lRa /var/opt/jp1base の実行結果 ls -lRa /tmp/HITACHI_JP1_INST_LOG の実行結果 ls -lRa /etc/.hitachi の実行結果 ls -lRa /etc/opt/.hlic の実行結果 	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/inst_dir_lRa.log
	<ul style="list-style-type: none"> ls -lRLa /opt/jp1eg4nnmi の実行結果 ls -lRLa /etc/opt/jp1eg4nnmi の実行結果 ls -lRLa /var/opt/jp1eg4nnmi の実行結果 ls -lRLa /opt/jp1base の実行結果 ls -lRLa /etc/opt/jp1base の実行結果 	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/inst_dir.log

情報の種類	採取資料	格納先 [※]
ファイル一覧	<ul style="list-style-type: none"> • <code>ls -lRLa /var/opt/jp1base</code> の実行結果 • <code>ls -lRLa /tmp/HITACHI_JP1_INST_LOG</code> の実行結果 • <code>ls -lRLa /etc/.hitachi</code> の実行結果 • <code>ls -lRLa /etc/opt/.hlic</code> の実行結果 	<code>./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/inst_dir.log</code>
資料採取日時	<code>date</code> の実行結果	<code>./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/date.log</code>
ディスク情報	<code>df -T -k</code> の実行結果	<code>./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/df.log</code>
btrfs ファイルシステム情報	btrfs がインストールされている場合 <code>btrfs filesystem show -all-device</code> の実行結果	<code>./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/btrfs.log</code>
自動起動サービス (systemd) によるプロセス稼働情報	systemd がインストールされている場合 <ul style="list-style-type: none"> • <code>systemctl --all</code> の実行結果 • <code>systemctl list-unit-files</code> の実行結果 • <code>systemctl status jp1_base</code> の実行結果 • <code>systemctl status jp1_eg4nnmi</code> の実行結果 	<code>./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/systemctl.log</code>
マシンの環境変数	<code>env</code> の実行結果	<code>./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/env.log</code>
マシンに設定されているホスト名の設定	<code>/etc/hosts</code>	<code>./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/hosts</code>
プロセス間通信の共有メモリーステータス	<code>ipcs -ma</code> の実行結果	<code>./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/ipcs.log</code>
ネットワークアドレス解決のためのホスト名	<code>jbsgethostbyname</code> の実行結果	<code>./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/</code> <ul style="list-style-type: none"> • <code>jbsgethostbyname.log</code>(標準出力) • <code>jbsgethostbyname_err.log</code>(標準エラー出力)
ヘルスチェック	<code>jbshcstatus -debug -a</code> の実行結果	<code>./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/</code> <ul style="list-style-type: none"> • <code>jbshcstatus.log</code>(標準出力) • <code>jbshcstatus_err.log</code>(標準エラー出力)
イベントサービスのプロセス稼働状態	<code>jevstat</code> の実行結果	<code>./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/</code> <ul style="list-style-type: none"> • <code>jevstat.log</code>(標準出力) • <code>jevstat_err.log</code>(標準エラー出力)
プロセス稼働状態 (JP1/Base)	<code>jbs_spmd_status</code> の実行結果	<code>./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/</code> <ul style="list-style-type: none"> • <code>jbs_spmd_status.log</code>(標準出力) • <code>jbs_spmd_status_err.log</code>(標準エラー出力)

情報の種類	採取資料	格納先 [※]
プロセス稼働状態 (JP1/IM - EG for NNMi)	jegn_spmd_status の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/ <ul style="list-style-type: none"> • jegn_spmd_status.log(標準出力) • jegn_spmd_status_err.log(標準エラー出力)
ホストに登録された jplhosts2 情報	jbshosts2export の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/ <ul style="list-style-type: none"> • jbshosts2export.log(標準出力) • jbshosts2export_err.log(標準エラー出力)
資料採取コマンドの実 行結果	jegn_log.sh コマンドの実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/jegn_log_result.log
IP アドレスの取得	ifconfig -a の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/ifconfig.log
	ip addr show の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/ip_addr_show.log
NIC の実装状況	netstat -ia の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/netstat_ia.log
	ip -s link の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/ip_s_link.log
ネットワーク統計情報	netstat -nap の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/netstat_na.log
	ss -nap の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/ss_na.log
マシンに設定されてい るユーザーの一覧	/etc/passwd	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/passwd
プロセス一覧	ps -elfa の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/ps.log
マシンに設定されてい るサービスポートの 設定	/etc/services	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/services
メモリー情報	cat /proc/meminfo	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/swapinfo.log
システム診断情報	dmesg の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/sys_info.log
シスログ(syslog)	/var/log/messages	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/syslog.log
OS のバージョン情報	uname -a の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/uname_a.log
カーネルパラメーター 情報	<ul style="list-style-type: none"> • sysctl -a の実行結果 • ulimit -a の実行結果 	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/ oslog/

情報の種類	採取資料	格納先 [※]
カーネルパラメーター情報	<ul style="list-style-type: none"> • sysctl -a の実行結果 • ulimit -a の実行結果 	<ul style="list-style-type: none"> • sysctl.log • ulimit.log
ページサイズ情報	dmesg の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/pagesize.log
OS のパッチ適用状況	rpm -qa の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/rpm.log
init デーモンが使用するプロセス起動情報	/etc/inittab	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/inittab
ブート・プロセス情報	Oracle Linux 6 の場合 /etc/init 以下のファイル	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/左記ファイルのコピーファイル
ディスクマウント情報	/etc/fstab	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/fstab
ディストリビューション情報	Linux 6 または Linux 7 の場合 /etc/redhat-release Oracle Linux 6 または Oracle Linux 7 の場合 /etc/oracle-release CentOS 6 または CentOS 7 の場合 /etc/centos-release SUSE Linux 12 の場合 /etc/SuSE-release	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/左記ファイルのコピーファイル
JP1/IM - EG for NNMi の製品情報のログ	インストール時に出力するトレースログおよびエラーログ <ul style="list-style-type: none"> • hliccmd{n}.log • hlicliberr{n}.log • hliclibmgrerr{n}.log • hliclibtrc{n}.log • hliclibmgrtrc{n}.log 	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/hliclog/左記ファイルのコピーファイル

注※
資料採取ツールを実行して作成された圧縮ファイル「jp1_default_jp1eg4nnmi_1st.tar.gz」を解凍したあとの格納先です。

表 10-21 OS のログ情報（物理ホストの二次資料）

情報の種類	採取資料	格納先 [※]
資料採取日時	date の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/oslog/date.log

注※
資料採取ツールを実行して作成された圧縮ファイル「jp1_default_jp1eg4nnmi_2nd.tar.gz」を解凍したあとの格納先です。

表 10-22 OS のログ情報 (論理ホストの一次資料)

情報の種類	採取資料	格納先※
資料採取日時	date の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_論理ホスト名/ oslog/date.log
ネットワークアドレス解決のためのホスト名	jbsgethostbyname 論理ホスト名の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_論理ホスト名/ oslog/ <ul style="list-style-type: none"> • jbsgethostbyname.log(標準出力) • jbsgethostbyname_err.log(標準エラー出力)
イベントサービスのプロセス稼働状態	jevstat 論理ホスト名の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_論理ホスト名/ oslog/ <ul style="list-style-type: none"> • jevstat.log(標準出力) • jevstat_err.log(標準エラー出力)
ヘルスチェック	jbshcstatus -debug -a -h 論理ホスト名の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_論理ホスト名/ oslog/ <ul style="list-style-type: none"> • jbshcstatus.log(標準出力) • jbshcstatus_err.log(標準エラー出力)
プロセス稼働状態 (JP1/Base)	jbs_spmd_status -h 論理ホスト名の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_論理ホスト名/ oslog/ <ul style="list-style-type: none"> • jbs_spmd_status.log(標準出力) • jbs_spmd_status_err.log(標準エラー出力)
プロセス稼働状態 (JP1/IM - EG for NNMi)	jegn_spmd_status -h 論理ホスト名の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_論理ホスト名/ oslog/ <ul style="list-style-type: none"> • jegn_spmd_status.log(標準出力) • jegn_spmd_status_err.log(標準エラー出力)
ホストに登録された jp1hosts2 情報	jbshosts2export -h 論理ホスト名の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_論理ホスト名/ oslog/ <ul style="list-style-type: none"> • jbshosts2export.log(標準出力) • jbshosts2export_err.log(標準エラー出力)
ファイル一覧	<ul style="list-style-type: none"> • ls -lRa 共有ディレクトリ/jp1base の実行結果 • ls -lRa 共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi の実行結果 • ls -lRa 共有ディレクトリ/event の実行結果 	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_論理ホスト名/ oslog/share_dir_lRa.log
	<ul style="list-style-type: none"> • ls -lRa 共有ディレクトリ/jp1base の実行結果 • ls -lRa 共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi の実行結果 • ls -lRa 共有ディレクトリ/event の実行結果 	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_論理ホスト名/ oslog/share_dir.log

注※

資料採取ツールを実行して作成された圧縮ファイル「論理ホスト名_jp1eg4nnmi_1st.tar.gz」を解凍したあとの格納先です。

表 10-23 OS のログ情報 (論理ホストの二次資料)

情報の種類	採取資料	格納先*
資料採取日時	date の実行結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_論理ホスト名/oslog/ date.log

注※

資料採取ツールを実行して作成された圧縮ファイル「論理ホスト名_jp1eg4nnmi_2nd.tar.gz」を解凍したあとの格納先です。

(2) 統合トレースログ

統合トレースログは資料採取ツール (jegn_log.sh コマンド) で採取できます。資料採取ツールで取得できる統合トレースログを次の表に示します。

表 10-24 統合トレースログ (物理ホストの一次資料)

情報の種類	採取資料	格納先*
統合トレースログ	/var/opt/hitachi/HNTRLlib2/ spool/以下のファイル	./var/opt/hitachi/ HNTRLlib2/spool/左記ファイル のコピーファイル

注※

資料採取ツールを実行して作成された圧縮ファイル「jp1_default_jp1eg4nnmi_1st.tar.gz」を解凍したあとの格納先です。

(3) JP1/IM - EG for NNMi の情報

トラブル発生時に採取する JP1/IM - EG for NNMi の情報について説明します。JP1/IM - EG for NNMi の情報は資料採取ツール (jegn_log.sh コマンド) で採取できます。資料採取ツールで取得できる JP1/IM - EG for NNMi の情報を次の表に示します。

表 10-25 JP1/IM - EG for NNMi の情報 (物理ホストの一次資料)

情報の種類	採取資料	格納先*
パッチ適用履歴	/opt/jp1eg4nnmi/patch_history	./opt/jp1eg4nnmi/patch_history
パッチログ情報	/opt/jp1eg4nnmi/update.log	./opt/jp1eg4nnmi/update.log
設定および定義ファイル	/etc/opt/jp1eg4nnmi/conf 以下の ファイル	./etc/opt/jp1eg4nnmi/conf/左記ファイル のコピーファイル
ログファイル	JP1/IM - EG for NNMi の動作ログ情報	/var/opt/jp1eg4nnmi/log 以下のファイル
	JP1/IM - EG for NNMi の通信ログ情報	/opt/jp1eg4nnmi/lib/uCPSB/CC/ client/logs/以下のファイル
core 解析情報 (seraph による解析結果)	/var/opt/jp1eg4nnmi/log 以下の core ファイルの解析結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/ _jp1_default/oslog/core_モジュール 名.log

情報の種類	採取資料	格納先※
転送フィルター定義ファイル	/var/opt/jp1eg4nnmi/dat 以下のファイル	./var/opt/jp1eg4nnmi/dat/左記ファイルのコピーファイル
自動起動および自動終了スクリプト	/etc/opt/jp1eg4nnmi 以下のファイル	./etc/opt/jp1eg4nnmi/左記ファイルのコピーファイル

注※

資料採取ツールを実行して作成された圧縮ファイル「jp1_default_jp1eg4nnmi_1st.tar.gz」を解凍したあとの格納先です。

表 10-26 JP1/IM - EG for NNMi の情報（物理ホストの二次資料）

情報の種類	採取資料	格納先※
core 解析情報（car コマンドの結果）	/var/opt/jp1eg4nnmi/log 以下の core ファイルの car ファイル	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_jp1_default/core/core_モジュール名_car.tar.gz

注※

資料採取ツールを実行して作成された圧縮ファイル「jp1_default_jp1eg4nnmi_2nd.tar.gz」を解凍したあとの格納先です。

表 10-27 JP1/IM - EG for NNMi の情報（論理ホストの一次資料）

情報の種類	採取資料	格納先※
設定および定義ファイル	共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/conf 以下のファイル	./共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/conf/左記ファイルのコピーファイル
ログファイル	共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/log 以下のファイル	./共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/log/左記ファイルのコピーファイル
core 解析情報（seraph による解析結果）	共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/log 以下の core ファイルの解析結果	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_論理ホスト名/os log/core_モジュール名.log
転送フィルター定義ファイル	共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/dat 以下のファイル	./共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/dat/左記ファイルのコピーファイル

注※

資料採取ツールを実行して作成された圧縮ファイル「論理ホスト名_jp1eg4nnmi_1st.tar.gz」を解凍したあとの格納先です。

表 10-28 JP1/IM - EG for NNMi の情報（論理ホストの二次資料）

情報の種類	採取資料	格納先※
core 解析情報（car コマンドの結果）	共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/log 以下の core ファイルの car ファイル	./var/opt/jp1eg4nnmi/log/_論理ホスト名/core/core_モジュール名_car.tar.gz

注※

資料採取ツールを実行して作成された圧縮ファイル「論理ホスト名_jp1eg4nmi_2nd.tar.gz」を解凍したあとの格納先です。

(4) JP1/Base の情報

トラブル発生時に採取する JP1/Base の情報について説明します。JP1/Base の情報は資料採取ツール (jegn_log.sh コマンド) で採取できます。JP1/Base の情報を採取しない場合は、-n、-p、または-r オプションを指定して、jegn_log.sh コマンドを実行します。

資料採取ツールで取得できる JP1/Base の情報を次の表に示します。

表 10-29 JP1/Base の情報 (物理ホストの一次資料)

情報の種類	採取資料	格納先※
自動起動および自動終了スクリプト	/etc/opt/jp1base/以下のファイル	./etc/opt/jp1base/左記ファイルのコピーファイル
設定および定義ファイル	/etc/opt/jp1base/conf/以下のファイル	./etc/opt/jp1base/conf/左記ファイルのコピーファイル
共通定義情報	/etc/opt/jp1base/default/以下のファイル	./etc/opt/jp1base/default/左記ファイルのコピーファイル
プラグインサービスの設定ファイル	/opt/jp1base/plugin/conf/以下のファイル	./opt/jp1base/plugin/conf/左記ファイルのコピーファイル
パッチ適用履歴	/opt/jp1base/PatchInfo	./opt/jp1base/PatchInfo
パッチログ情報	/opt/jp1base/PatchLog	./opt/jp1base/PatchLog
ログファイル	/var/opt/jp1base/log	./var/opt/jp1base/log/左記ディレクトリ以下のCOMMAND および core ファイル以外の全ファイル
ログおよびテンポラリファイル	/var/opt/jp1base/sys/tmp/以下のファイル	./var/opt/jp1base/sys/tmp 左記ファイルのコピーファイル

注※

資料採取ツールを実行して作成された圧縮ファイル「jp1_default_jp1eg4nmi_1st.tar.gz」を解凍したあとの格納先です。

表 10-30 JP1/Base の情報 (物理ホストの二次資料)

情報の種類	採取資料	格納先※
SES 設定ファイル	<ul style="list-style-type: none">• /tmp/.JP1_SES*• /usr/tmp/jp1_ses• /usr/lib/jp1_ses/log• /usr/lib/jp1_ses/sys	<ul style="list-style-type: none">• ./tmp/.JP1_SES*• ./usr/tmp/jp1_ses• ./usr/lib/jp1_ses/log• ./usr/lib/jp1_ses/sys

情報の種類	採取資料	格納先※
SES 設定ファイル	<ul style="list-style-type: none"> • /usr/bin/jp1_ses/jp* • /var/opt/jp1_ses 	<ul style="list-style-type: none"> • ./usr/bin/jp1_ses/jp* • ./var/opt/jp1_ses
コマンド実行履歴ファイル	/var/opt/jp1base/log/COMMAND/ 以下のファイル	./var/opt/jp1base/log/ COMMAND/左記ファイルのコ ピーファイル
イベント DB	/var/opt/jp1base/sys/event/ servers/default/以下のファ イル	./var/opt/jp1base/sys/ event/servers/default/左 記ファイルのコピーファイル

注※

資料採取ツールを実行して作成された圧縮ファイル「jp1_default_jp1eg4nmi_2nd.tar.gz」を解凍したあとの格納先です。

表 10-31 JP1/Base の情報 (論理ホストの一次資料)

情報の種類	採取資料	格納先※
設定および定義ファイル	共有ディレクトリ/jp1base/ conf/以下のファイル	.共有ディレクトリ/jp1base/ conf/左記ファイルのコピー ファイル
ログファイル	共有ディレクトリ/jp1base/log	.共有ディレクトリ/jp1base/ log/左記ディレクトリ以下の COMMAND および core ファイ ル以外の全ファイル
イベントサーバの設定	共有ディレクトリ/event	.共有ディレクトリ/event/左 記ディレクトリ以下の IMEvent*以外の全ファイル

注※

資料採取ツールを実行して作成された圧縮ファイル「論理ホスト名_jp1eg4nmi_1st.tar.gz」を解凍したあとの格納先です。

表 10-32 JP1/Base の情報 (論理ホストの二次資料)

情報の種類	採取資料	格納先※
コマンド実行履歴ファイル	共有ディレクトリ/jp1base/log/ COMMAND/以下のファイル	.共有ディレクトリ/jp1base/ Log/COMMAND/左記ファイルの コピーファイル
イベント DB	共有ディレクトリ/event	.共有ディレクトリ/event/ IMEvent*.*

注※

資料採取ツールを実行して作成された圧縮ファイル「論理ホスト名_jp1eg4nmi_2nd.tar.gz」を解凍したあとの格納先です。

(5) オペレーション内容

トラブル発生時のオペレーション内容について次に示す情報が必要です。

- オペレーション内容の詳細（トラブル発生時，トラブル発生前後のオペレーション）
- 発生時刻
- マシン構成（各 OS のバージョン，ホスト名，JP1/IM - EG for NNMi のシステム構成）
- 再現性

付録

付録 A ファイルおよびディレクトリー一覧

JP1/IM - EG for NNMi で使用するファイルおよびディレクトリーについて説明します。

付録 A.1 ファイルおよびフォルダ (Windows の場合)

JP1/IM - EG for NNMi (Windows 版) で使用するフォルダを次の表に示します。

表 A-1 JP1/IM - EG for NNMi のフォルダ一覧 (Windows 版)

フォルダ名	内容	
EG for NNMi パス	¥bin	コマンド格納フォルダ
	¥lib	ライブラリ格納フォルダ
	¥conf※1	定義ファイル格納フォルダ
	¥log※1	ログ格納フォルダ
	¥dat※1	dat ファイル格納フォルダ
	¥tmp	一時ファイル格納フォルダ
	¥tools	ツール格納フォルダ
システムドライブ:¥Program Files(x86)¥Hitachi¥jp1common ¥※2	製品情報格納フォルダ	

注※1

論理ホストの場合は、共有フォルダ¥JP1EG4NNMI の下にconf, log, およびdat フォルダが作成されます。

注※2

「システムドライブ:¥Program Files」 と表記している部分は、インストール時の OS 環境変数によって決定されるため、環境によって異なる場合があります。

上記フォルダに格納されているファイルのうち、ユーザーが参照・編集できるファイルを次の表に示します。

表 A-2 ユーザーが参照・編集できるファイル一覧 (Windows 版)

フォルダ名	ファイル名	内容	参照	編集
¥conf	imevtgw_nnmi_cia_map.conf	カスタム属性マッピング定義ファイル※2	○	○
	imevtgw_nnmi_forward_filter.conf	NNMi インシデント転送フィルター定義ファイル	○	○
	imevtgw_nnmi_forward_filter.conf.sample	NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルのサンプルファイル	○	○※1
	imevgw_nnmi_label_mapping_category_NNNMiの言語.conf	マッピング定義ファイル (カテゴリ用)	○	○

フォルダ名	ファイル名	内容	参照	編集
¥conf	imevgw_nnmi_label_mapping_category_NNMiの言語.conf.sample	マッピング定義ファイル（カテゴリ用）のサンプルファイル	○	○※1
	imevgw_nnmi_label_mapping_family_NNMiの言語.conf	マッピング定義ファイル（ファミリー用）	○	○
	imevgw_nnmi_label_mapping_family_NNMiの言語.conf.sample	マッピング定義ファイル（ファミリー用）のサンプルファイル	○	○※1
	jegn_service_0700.conf	拡張起動プロセス定義ファイル	○	△
	jegn_service_0700.conf.model	拡張起動プロセス定義ファイルのモデルファイル	○	△※1
	jegn_param_V7.conf	JP1/IM - EG for NNMi パラメーター定義ファイル	○	×
	jegn_param_V7.conf.model	JP1/IM - EG for NNMi パラメーター定義ファイルのモデルファイル	○	×
	jegn_env.conf	環境変数ファイル	○	△
	jegn_env.conf.model	環境変数ファイルのモデルファイル	○	△※1
¥log	jegnevent{1 2 3 4}.log	JP1 イベント発行トレースログ	○	×
¥tools	jegn_log.bat	資料採取ツール	○	×

(凡例)

- ：できる。
- △：一部編集できる。
- ×：できない。

注※1

コピーして使用してください。

注※2

このファイルはカスタム属性マッピングを設定していない場合は存在しません。

付録 A.2 ファイルおよびディレクトリ (UNIX の場合)

JP1/IM - EG for NNMi (UNIX 版) で使用するディレクトリを次の表に示します。

表 A-3 JP1/IM - EG for NNMi のディレクトリ一覧 (UNIX 版)

ディレクトリ名	内容
/opt/jp1eg4nnmi/bin	コマンド格納ディレクトリ
/opt/jp1eg4nnmi/lib	ライブラリ格納ディレクトリ
/opt/jp1eg4nnmi/tools	ツール格納ディレクトリ
/etc/opt/jp1eg4nnmi	スクリプトファイル格納ディレクトリ

ディレクトリ名	内容
/etc/opt/jp1eg4nnmi/conf*	定義ファイル格納ディレクトリ
/var/opt/jp1eg4nnmi/log*	ログ格納ディレクトリ
/var/opt/jp1eg4nnmi/dat*	dat ファイル格納ディレクトリ
/var/opt/jp1eg4nnmi/tmp	一時ファイル格納ディレクトリ

注※

論理ホストの場合は、共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi の下にconf, log, およびdat ディレクトリが作成されます。

上記ディレクトリに格納されているファイルのうち、ユーザーが参照・編集できるファイルを次の表に示します。

表 A-4 ユーザーが参照・編集できるファイル一覧 (UNIX 版)

ディレクトリ名	ファイル名	内容	参照	編集
/etc/opt/jp1eg4nnmi	jegn_start	JP1/IM - EG for NNMi を自動的に起動するためのスクリプト	○	△※ 4
	jegn_start.model	JP1/IM - EG for NNMi を自動的に起動するためのスクリプトのモデルファイル	○	×※ 1
	jegn_stop	JP1/IM - EG for NNMi を自動的に終了するためのスクリプト	○	△※ 4
	jegn_stop.model	JP1/IM - EG for NNMi を自動的に終了するためのスクリプトのモデルファイル	○	×※ 1
	jegn_start.cluster	論理ホスト上の JP1/IM - EG for NNMi を起動するためのスクリプト	○	×
	jegn_stop.cluster	論理ホスト上の JP1/IM - EG for NNMi を終了するためのスクリプト	○	×
	jegn_killall.cluster	クラスタシステムで運用している場合に、JP1/IM - EG for NNMi のプロセスを強制的に終了するためのスクリプト	○	×
/etc/opt/jp1eg4nnmi/conf	imevtgw_nnmi_cia_map.conf	カスタム属性マッピング定義ファイル※3	○	○
	imevtgw_nnmi_forward_filter.conf	NNMi インシデント転送フィルター定義ファイル	○	○
	imevtgw_nnmi_forward_filter.conf.sample.文字コード名※2	NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルのサンプルファイル	○	○※ 1

ディレクトリ名	ファイル名	内容	参照	編集
/etc/opt/jp1eg4nnmi/ conf	imevgw_nnmi_label_mapping_category_ja.conf	マッピング定義ファイル (カテゴリ日本語用)	○	○
	imevgw_nnmi_label_mapping_category_ja.conf.sample.文字コード名 ^{※2}	マッピング定義ファイル (カテゴリ日本語用) のサンプルファイル	○	○ ^{※1}
	imevgw_nnmi_label_mapping_category_en.conf	マッピング定義ファイル (カテゴリ英語用)	○	○
	imevgw_nnmi_label_mapping_category_en.conf.sample	マッピング定義ファイル (カテゴリ英語用) のサンプルファイル	○	○ ^{※1}
	imevgw_nnmi_label_mapping_family_ja.conf	マッピング定義ファイル (ファミリー日本語用)	○	○
	imevgw_nnmi_label_mapping_family_ja.conf.sample.文字コード名 ^{※2}	マッピング定義ファイル (ファミリー日本語用) のサンプルファイル	○	○ ^{※1}
	imevgw_nnmi_label_mapping_family_en.conf	マッピング定義ファイル (ファミリー英語用)	○	○
	imevgw_nnmi_label_mapping_family_en.conf.sample	マッピング定義ファイル (ファミリー英語用) のサンプルファイル	○	○ ^{※1}
	jegn_service_0700.conf	拡張起動プロセス定義ファイル	○	△
	jegn_service_0700.conf.model	拡張起動プロセス定義ファイルのモデルファイル	○	△ ^{※1}
	jegn_param_V7.conf	JP1/IM - EG for NNMi パラメーター定義ファイル	○	○
	jegn_param_V7.conf.model	JP1/IM - EG for NNMi パラメーター定義ファイルのモデルファイル	○	○ ^{※1}
	jegn_env.conf	環境変数ファイル	○	△
jegn_env.conf.model	環境変数ファイルのモデルファイル	○	△ ^{※1}	
/var/opt/ jp1eg4nnmi/log	jegnevent{1 2 3 4}.log	JP1 イベント発行トレースログ	○	×
/opt/jp1eg4nnmi/ tools	jegn_log.sh	資料採取ツール	○	×

(凡例)

- ：できる。
- △：一部編集できる。
- ×：できない。

注※1

コピーして使用してください。

注※2

ファイル名の最後に文字コード名 (UTF-8 または SJIS) が付きます。

注※3

このファイルはカスタム属性マッピングを設定していない場合は存在しません。

注※4

環境変数 LANG の設定行だけ変更できます。

付録 B プロセス一覧

JP1/IM - EG for NNMi のプロセスについて説明します。

付録 B.1 プロセス一覧 (Windows の場合)

Windows のタスクマネージャのプロセスに表示されるプロセス名を次の表に示します。なお、表内の括弧 () 内の数値は同時に実行するプロセス数です。

表 B-1 JP1/IM - EG for NNMi のプロセス (Windows)

親プロセス名	機能	子プロセス名	機能
jegn_spmd.exe (1)	JP1/IM - EG for NNMi のプロセス管理	jegneg4nnmi.exe (1)	JP1/IM - EG for NNMi のメインサービス (プロセス管理表示名：jegneg4nnmi)
jegn_service.exe (1)	JP1/IM - EG for NNMi の Windows サービス制御	—	—

(凡例)

—：なし。

クラスタシステムで運用する場合、物理ホストおよび論理ホストごとに、上記のプロセスを実行します。

付録 B.2 プロセス一覧 (UNIX の場合)

ps コマンドを使用したときに表示されるプロセス名を次の表に示します。なお、表内の括弧 () 内の数値は同時に実行するプロセス数です。

表 B-2 JP1/IM - EG for NNMi のプロセス (UNIX)

親プロセス名	機能	子プロセス名	機能
jegn_spmd (1)*	JP1/IM - EG for NNMi のプロセス管理	jegneg4nnmi (1)	JP1/IM - EG for NNMi のメインサービス (プロセス管理表示名：jegneg4nnmi)

注※

一時的にプロセス数が増加することがあります。

クラスタシステムで運用する場合、物理ホストおよび論理ホストごとに、上記のプロセスを実行します。

付録 C 制限値一覧

JP1/IM - EG for NNMi の各種の制限値を次の表に示します。

表 C-1 制限値一覧

項目	制限値
NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルのサイズ	10MB
NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルに記述できる転送条件ブロックの数	100 個
マッピング定義ファイル (カテゴリ用) のサイズ	10MB
マッピング定義ファイル (ファミリー用) のサイズ	10MB

付録 D 性能と見積もり

JP1/IM - EG for NNMi のメモリー所要量およびディスク占有量については、リリースノートを参照してください。

付録 E 正規表現

NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルのフィルター条件文では、比較キーワードの REGEX で正規表現を使用できます。フィルター条件文で使用できる正規表現について説明します。

付録 E.1 正規表現の文法

JP1/IM - EG for NNMi では、次に示す正規表現を使用できます。正規表現を使用する場合、次の表記法に従って指定してください。

注意

ここで紹介する正規表現以外の正規表現の使用は、機種や OS によって仕様が異なるため、お勧めしません。正規表現を使用する場合は、ここで紹介する正規表現だけを使用してください。

(1) 通常文字

通常文字とは、正規表現としてその文字自体を検索対象に指定した場合に一致する文字です。通常文字として扱わないのは「制御コード」と「特殊文字」だけです。

(2) 特殊文字

特殊文字とは、`^ $. * + ? | () { } [] ¥`です。それぞれの特殊文字について次の表に示します。

表 E-1 正規表現の特殊文字

特殊文字	説明
<code>^</code>	先頭指定（前方一致）を意味します。正規表現の最初の文字として使用する場合だけ特殊文字になります。先頭以外で使用する場合は通常文字として扱われます。
<code>\$</code>	末尾指定（後方一致）を意味します。正規表現の最後の文字として使用する場合だけ特殊文字になります。末尾以外で使用する場合は、通常文字として扱われます。
<code>.</code> （ピリオド）	任意の 1 文字であることを意味します。
<code>*</code>	直前の文字の 0 回以上の繰り返しを意味します。
<code>+</code>	直前の文字の 1 回以上の繰り返しを意味します。
<code>?</code>	直前の文字の 0 回または 1 回の繰り返しを意味します。
<code> </code>	「 <code>[]</code> 」の左右に指定した正規表現の OR 条件を意味します。特殊文字 <code>()</code> と組み合わせて使用します。
<code>()</code>	<code>()</code> 内で指定した正規表現のグループ化を意味します。主に「 <code>[]</code> 」を使用するときに利用します。
<code>{ }</code>	直前の文字の <code>{ }</code> 内で指定した値分の繰り返しを意味します。
<code>[]</code>	<code>[]</code> 内の文字列のどれかと一致することを意味します。 <code>[]</code> 内の先頭に <code>^</code> を指定した場合は、 <code>[]</code> 内の文字列以外と一致することを意味します。

特殊文字	説明
¥	特殊文字の打ち消しを意味します。¥を特殊文字の前に指定すると、その特殊文字は通常文字として扱われます。 また、¥n は改行文字、¥t はタブ文字として扱われます。

付録 E.2 正規表現の指定方法

正規表現の指定方法を次の表に示します。

表 E-2 正規表現の指定方法

指定方法	説明
文字列	指定の文字列の行に一致します。
^文字列	行頭にある指定の文字列に一致します。
文字列\$	行末にある指定の文字列に一致します。
^文字列\$	^と\$の併用です。指定した文字列だけの行に一致します。
^\$	^と\$の併用です。空行に一致します。
.(ピリオド)	任意の 1 文字に一致します。
文字*	直前の文字が 0 回以上繰り返されている文字列に一致します。
.*	.(ピリオド) と*の併用です。任意の文字列に一致します。
文字+	直前の文字が 1 回以上繰り返されている文字列に一致します。
文字?	直前の文字が 0 回または 1 回繰り返されている文字列に一致します。
正規表現 正規表現	左右の正規表現のどちらかに一致します。
(正規表現)	正規表現をグループ化します。主に「 」を使用するときに利用します。
文字{n}	直前の文字が n 回繰り返されている文字列に一致します。
文字{n,}	直前の文字が n 回以上繰り返されている文字列に一致します。
文字{n,m}	直前の文字が n 回以上、m 回以内の文字列に一致します。
[文字列]	[]内の文字列に指定された文字のどれかに一致します。
[^文字列]	[]内の文字列に指定された文字以外の文字に一致します。
[文字-文字]	文字コードの昇順で範囲内のどれか 1 文字に一致します。
[^文字-文字]	文字コードの昇順で範囲外のどれか 1 文字に一致します。
¥特殊文字	特殊文字を通常文字として扱います。

付録 E.3 正規表現を使用する際のヒント

- 制御コード（改行、タブなど）は、製品や OS によって扱いが異なることがあります。このため、メッセージに対する条件を正規表現で記述する場合は、制御コード以外の部分を記述するようにしてください。
- 正規表現で、すべての文字に一致する表現の「.*」を多用すると、検索に時間が掛かることがあります。長いメッセージなどに対して「.*」を使用する場合は、必要な個所にだけ「.*」を使用するようにしてください。

また、拡張正規表現を使用できる環境で、かつ、スペース以外の文字に一致させたい場合には、「.*」の代わりに「[[^]]*」が使用できます。「[[^]]*」を使用した方が検索に掛かる時間を短縮できます。

- 特殊文字である「|」は OR 条件を表します。この OR 条件を正規表現中に使用する際は、次のことに注意してください。

OR 条件の「|」は正規表現の中で優先度が低いため、OR 条件がかかる範囲を明示的に指定する必要があります。範囲を指定しない場合、動作しない、または誤動作する原因になることがあります。OR 条件の範囲は、条件がかかる範囲を小括弧「()」で囲むことで指定できます。

ソースノードに gyoumu または host が含まれている NNMi インシデントを選択するときの指定例を次に示します。

```
SRC_NODE_NAME REGEX ^.* (gyoumu|host) .*$
```

- 特殊文字である「|」の前後にスペースが含まれていると、スペースが文字として認識されます。スペースを含まない場合、「|」の前後にスペースを入れないでください。

付録 E.4 正規表現の指定例

正規表現の指定例を次の表に示します。

表 E-3 正規表現の指定例

指定方法	機能	正規表現として指定した文字列	正規表現に一致するパターンと一致しないパターン	判定
文字列	指定の文字列の行に一致する	spring	spring has come.	○
			winter-summer-autumn-spring	○
			-----spring-----	○
[^] 文字列	行頭にある指定の文字列に一致する	[^] spring	spring has come.	○
			winter-summer-autumn-spring	×
			-----spring-----	×
文字列 ^{\$}	行末にある指定の文字列に一致する	spring ^{\$}	spring has come.	×
			winter-summer-autumn-spring	○
			-----spring-----	×

指定方法	機能	正規表現として指定した文字列	正規表現に一致するパターンと一致しないパターン	判定
^文字列\$	指定の文字列だけの行に一致する	^spring\$	spring has come.	×
			winter-summer-autumn-spring	×
			spring	○
			spring	×
^\$	空行に一致する	^\$		○
			spring	×
. (ピリオド)	任意の 1 文字に一致する	i.n.e	winter has come.	○
			mother of invention	○
			life is in everything	○
			eight nine ten	×
		increasing population	×	
		s..ing	picnic in spring	○
skiing in winter	○			
文字*	直前の文字が 0 回以上繰り返されている文字列に一致する	ro*m	terminal	○
			cd-rom	○
			living room	○
		h.*n	This is a pen.	○
			That is an apple.	○
正規表現 正規表現	左右の正規表現のどちらかに一致する	[0-9]+ apple	That is an apple.	○
			spring in 2009	○
(正規表現)	正規表現をグループ化する。主に「 」を使用するときに利用する。	i(n.e ng)	winter has come.	○
			interesting book	○
[文字列]	[]内の文字列に指定された文字のどれかに一致する	[pr]	spring has come.	○
			today is monday.	×
[文字-文字]	文字コードの昇順で範囲内の文字のどれか 1 文字に一致する	[a-i]	spring has come.	○
[^文字-文字]	文字コードの昇順で範囲外の文字のどれか 1 文字一致する	[^a-i]	spring has come.	○
¥特殊文字	特殊文字を通常文字として扱う	o%.h	<stdio.h>	○
			another man	×

(凡例)

太字：指定した正規表現と一致する文字列

○：一致する文字列がある

×：一致する文字列がない

付録 F 定義ファイル

JP1/IM - EG for NNMi の定義ファイルの一覧を次の表に示します。

表 F-1 定義ファイル一覧

定義ファイル名	説明
カスタム属性マッピング定義ファイル (imevtgw_nnmi_cia_map.conf)	NNMi インシデントに設定されたカスタム属性を JP1/IM-EG で扱う際に、どの順序で使用するかを定義するファイルです。 インストール時には存在しません。必要に応じて、新規にファイルを作成してください。 詳細は、「4.3 カスタム属性マッピング定義ファイルのファイルの作成」を参照してください。
NNMi インシデント転送フィルター定義ファイル (imevtgw_nnmi_forward_filter.conf)	NNMi から取得した NNMi インシデントを JP1 イベントに変換するときの条件を定義するファイルです。 インストール時には存在しません。必要に応じて、サンプルファイルをコピーしてリネームしたあと、定義内容を編集してください。 詳細については、「4.1 NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルの作成」を参照してください。
マッピング定義ファイル (カテゴリ用) (imevgw_nnmi_label_mapping_category_NNMIの言語.conf)	NNMi インシデントの属性であるカテゴリのラベル名を定義するファイルです。 インストール時には存在しません。必要に応じて、サンプルファイルをコピーしてリネームしたあと、定義内容を編集してください。 詳細については、「4.2 マッピング定義ファイルの作成」を参照してください。
マッピング定義ファイル (ファミリー用) (imevgw_nnmi_label_mapping_family_NNMIの言語.conf)	NNMi インシデントの属性であるファミリーのラベル名を定義するファイルです。 インストール時には存在しません。必要に応じて、サンプルファイルをコピーしてリネームしたあと、定義内容を編集してください。 詳細については、「4.2 マッピング定義ファイルの作成」を参照してください。
拡張起動プロセス定義ファイル (jegn_service_0700.conf)	JP1/IM - EG for NNMi を構成する機能のプロセス情報を定義するファイルです。 あらかじめ必要な定義内容が設定されているモデルファイルを提供しています。設定を変更する場合は、モデルファイルをコピーして、「再起動可否」のパラメーターだけを運用にあわせて編集してください。 詳細については、「F.1 拡張起動プロセス定義ファイル (jegn_service_0700.conf)」を参照してください。
JP1/IM - EG for NNMi パラメーター定義ファイル (jegn_param_V7.conf)	JP1/IM - EG for NNMi のプロセスの異常時や異常終了からの自動復旧時に JP1 イベントを発行するかどうかを定義するファイルです。 あらかじめ必要な定義内容が設定されているモデルファイルを提供しています。設定を変更する場合は、モデルファイルをコピーして、内容を編集してください。 詳細については、「F.2 JP1/IM - EG for NNMi パラメーター定義ファイル (jegn_param_V7.conf)」を参照してください。

定義ファイル名	説明
環境変数ファイル (jegn_env.conf)	JP1/IM - EG for NNMI の環境変数を設定したファイルです。UNIX の場合にだけ、JP1/IM - EG for NNMI の動作する言語コードを設定します。 ご使用の環境に合わせて、環境変数 LANG の値を設定してください。 詳細については、「2.4.2(1) 環境変数ファイルの設定」を参照してください。

格納先

Windows の場合

- 物理ホスト：EG for NNMI パス¥conf
- 論理ホスト：共有フォルダ¥JP1EG4NNMI¥conf

UNIX の場合

- 物理ホスト：/etc/opt/jp1eg4nnmi/conf
- 論理ホスト：共有ディレクトリ/jp1eg4nnmi/conf

付録 F.1 拡張起動プロセス定義ファイル (jegn_service_0700.conf)

形式

プロセス名 パス 起動オプション 再起動可否 再起動回数 リトライ間隔 再起動回数リセット時間

ファイル

jegn_service_0700.conf (拡張起動プロセス定義ファイル)

jegn_service_0700.conf.model (拡張起動プロセス定義ファイルのモデルファイル)

説明

JP1/IM - EG for NNMI を構成する機能のプロセス情報を定義するファイルです。

JP1/IM - EG for NNMI はプロセス管理機能によって、プロセス異常終了時の再起動を制御しています。プロセス管理機能は、拡張起動プロセス定義ファイルの定義に従ってプロセスを制御します。

拡張起動プロセス定義ファイルは、あらかじめ必要な定義内容が設定されているモデルファイルを提供しています。設定を変更する場合は、モデルファイルをコピーして、「再起動可否」のパラメーターだけを運用にあわせて編集してください。ほかのパラメーターは、各プロセスに合わせて適切な値がデフォルトで設定されているため、通常は設定を変える必要はありません。

空白など、不要な文字を記述しないでください。「再起動可否」のパラメーターの数値だけを編集してください。

クラスタ構成では、論理ホストのプロセス管理のプロセスを起動する際、論理ホストのconf フォルダに拡張起動プロセス定義ファイルがない場合、物理ホストの拡張起動定義ファイルがコピーされます。

定義の反映時期

定義ファイルの内容は、JP1/IM - EG for NNMi の起動時、または `jegn_spmd_reload` コマンドを実行して定義を再読み込みしたときに有効になります。`jegn_spmd_reload` コマンドの詳細については、「7. コマンド」の「`jegn_spmd_reload`」を参照してください。

記述内容

プロセス名

JP1/IM - EG for NNMi のプロセス管理機能によって起動および停止するプロセス名を指定します。JP1/IM - EG for NNMi のプロセス名があらかじめ指定されているため、編集しないでください。なお、ここで指定した名称は、`jegn_spmd_status` コマンドでプロセス名として表示されます。

パス

プロセスの実行ファイルを絶対パスで指定します。

JP1/IM - EG for NNMi のプロセスのパスがあらかじめ指定されているため、編集しないでください。

起動オプション

プロセスの起動オプションを指定します。

起動オプションの指定が必要なプロセスについては、あらかじめ指定されているため、編集しないでください。

再起動可否

プロセスが異常終了した場合に、再起動するかどうかを指定します。

再起動しない場合は 0、再起動する場合は 1 を指定します。

デフォルトは 0 です。

再起動回数

プロセスの再起動の試行回数を指定します。

指定できる値は、0~99 です。デフォルトは 3 です。

なお、再起動可否のフィールドに 0 が指定されている場合は、値が指定されていても無効になります。

リトライ間隔

プロセスの再起動のリトライ間隔を、秒単位で指定します。

指定できる値は、0~3600 です。デフォルトは 3 です。

なお、再起動可否のフィールドに 0 が指定されている場合は、値が指定されていても無効になります。

再起動回数リセット時間

再起動によってプロセスが起動してから何時間後に再起動回数をリセットするかを、秒単位で指定します。

指定できる値は、3600~2147483647 です。デフォルトは 21600 です。

プロセスが起動してから、指定した時間が経過すると、再起動回数がリセットされます。再度プロセスが異常終了した場合は、再起動回数が 1 からカウントされます。再起動によってプロセスが起動してから、指定した時間より前に再度異常終了した場合は、前回の再起動回数を引き継ぎます。

なお、再起動可否のフィールドに 0 が指定されている場合は、値が指定されていても無効になります。

注意事項

クラスタシステムを運用している場合

JP1 のプロセス管理による再起動を使用しないでください。クラスタソフトからの制御で JP1 を再起動してください。

付録 F.2 JP1/IM - EG for NNMi パラメーター定義ファイル (jegn_param_V7.conf)

形式

```
[論理ホスト名¥JP1EG4NNMI]
"SEND_PROCESS_TERMINATED_ABNORMALLY_EVENT"=dword:値
"SEND_PROCESS_RESTART_EVENT"=dword:値
```

ファイル

jegn_param_V7.conf (JP1/IM - EG for NNMi パラメーター定義ファイル)

jegn_param_V7.conf.model (JP1/IM - EG for NNMi パラメーター定義ファイルのモデルファイル)

説明

JP1/IM - EG for NNMi のプロセスの異常時や異常終了からの自動復旧時に JP1 イベントを発行するかどうかを定義するファイルです。プロセスの異常時や異常終了からの自動復旧時に JP1 イベントを発行することによって、JP1/IM - EG for NNMi 自身のトラブルを履歴管理できるようになります。このため、この定義ファイルを使って、JP1 イベントを発行する設定にすることをお勧めします。

JP1/IM - EG for NNMi パラメーター定義ファイルは、あらかじめ必要な定義内容が設定されているモデルファイルを提供しています。設定を変更する場合は、モデルファイルをコピーして、内容を編集してください。

JP1/IM - EG for NNMi のプロセス、および発行できる JP1 イベントを次に示します。

JP1/IM - EG for NNMi のプロセス

- JP1/IM - EG for NNMi のプロセス管理 (jegn_spmd)
- JP1/IM - EG for NNMi のメインサービス (jegneg4nnmi)

発行できる JP1 イベント

イベント ID	発行契機
0x000061F0	プロセスが異常終了した場合
0x000061F1	プロセス起動時にタイムアウトした場合
0x000061F2	異常終了したプロセスが再起動を完了した場合

JP1 イベントの詳細については、「[8.4.2 JP1 イベントの詳細](#)」を参照してください。

定義の反映時期

この定義ファイルを引数に JP1/Base の jbssetcnf コマンドを実行し、JP1/IM - EG for NNMi を再起動したあとに有効になります。jbssetcnf コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

記述内容

〔論理ホスト名*JP1EG4NNMI〕

JP1/IM - EG for NNMi の環境設定のキー名称です。

論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は JP1_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

”SEND_PROCESS_TERMINATED_ABNORMALLY_EVENT”=dword:値

値を 1 にすると、次の場合に JP1 イベントを発行します。

- プロセスが異常終了した場合
イベント ID が 0x000061F0 の JP1 イベントが発行されます。
- 起動時に起動通知がなく、タイムアウトした場合
イベント ID が 0x000061F1 の JP1 イベントが発行されます。

デフォルトは 0 です。0 の場合、JP1 イベントは発行されません。

”SEND_PROCESS_RESTART_EVENT”=dword:値

値を 1 にすると、次の場合に JP1 イベントを発行します。

- プロセス再起動の機能によって、異常終了したプロセスの再起動が完了した場合
イベント ID が 0x000061F2 の JP1 イベントが発行されます。

デフォルトは 0 です。0 の場合、JP1 イベントは発行されません。

付録 G 各バージョンの変更内容

各バージョンでの変更内容を示します。

付録 G.1 12-00 の変更内容

(1) 資料番号 (3021-3-D57) の変更内容

- 次の前提 OS を削除した。
 - Windows Server 2008 R2
- NNMi との https 接続で、TLSv1.2 に対応した。これに伴い、SSL の表記を TLS の表記に変更した。
- 資料採取ツールで取得できる情報を増やした。

付録 G.2 11-50 の変更内容

(1) 資料番号 (3021-3-A13-10) の変更内容

なし。

付録 H このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 H.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

JP1 関連

- JP1 Version 12 JP1/Base 運用ガイド (3021-3-D65)
- JP1 Version 12 JP1/Base メッセージ (3021-3-D66)
- JP1 Version 12 JP1/Base 関数リファレンス (3021-3-D67)
- JP1 Version 12 ネットワーク管理 基本ガイド (3021-3-E01)
- JP1 Version 12 JP1/Network Node Manager i セットアップガイド (3021-3-E02)
- JP1 Version 12 JP1/Power Monitor (3021-3-D34)
- JP1 Version 10 JP1/Cm2/Network Node Manager i インストールガイド (3021-3-241)
- JP1 Version 10 JP1/Cm2/Network Node Manager i セットアップガイド (3021-3-242)
- JP1 Version 10 JP1/NETM/DM 構築ガイド(Windows(R)用) (3021-3-176)
- JP1 Version 10 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1 (Windows(R)用) (3021-3-177)
- JP1 Version 10 JP1/NETM/DM Client (UNIX(R)用) (3021-3-181)

JP1/IM 関連

- JP1 Version 12 統合管理 基本ガイド (3021-3-D50)
- JP1 Version 12 JP1/Integrated Management 2 - Manager 導入・設計ガイド (3021-3-D51)
- JP1 Version 12 JP1/Integrated Management 2 - Manager 構築ガイド (3021-3-D52)
- JP1 Version 12 JP1/Integrated Management 2 - Manager 運用ガイド (3021-3-D53)
- JP1 Version 12 JP1/Integrated Management 2 - Manager 画面リファレンス (3021-3-D54)
- JP1 Version 12 JP1/Integrated Management 2 - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス (3021-3-D55)
- JP1 Version 12 JP1/Integrated Management 2 - Manager メッセージ (3021-3-D56)
- JP1 Version 11 統合管理 基本ガイド (統合コンソール編) (3021-3-A06)
- JP1 Version 11 JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド (3021-3-A07)
- JP1 Version 11 JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド (3021-3-A08)
- JP1 Version 11 JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド (3021-3-A09)

- JP1 Version 11 JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス (3021-3-A10)
- JP1 Version 11 JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス (3021-3-A11)
- JP1 Version 11 JP1/Integrated Management - Manager メッセージ (3021-3-A12)

付録 H.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記		製品名
JP1/IM	JP1/IM - Manager	JP1/Integrated Management - Manager
		JP1/Integrated Management 2 - Manager
	JP1/IM - View	JP1/Integrated Management - View
		JP1/Integrated Management 2 - View
JP1/IM - EG for NNMi		JP1/Integrated Management - Event Gateway for Network Node Manager i
		JP1/Integrated Management 2 - Event Gateway for Network Node Manager i
Linux ^{※1}	CentOS 6 (x64)	CentOS 6 (x64)
	CentOS 7	CentOS 7
	Linux 6 (x64)	Red Hat Enterprise Linux(R) Server 6 (64-bit x86_64)
	Linux 7	Red Hat Enterprise Linux(R) Server 7
	Oracle Linux 6 (x64)	Oracle Linux(R) Operating System 6 (x64)
	Oracle Linux 7	Oracle Linux(R) Operating System 7
	SUSE Linux 12	SUSE Linux(R) Enterprise Server 12
NNMi	JP1/Cm2/NNMi	JP1/Cm2/Network Node Manager i 10-00 以降
		JP1/Cm2/Network Node Manager i Advanced 10-00 以降
	JP1/NNMi	JP1/Network Node Manager i 11-00 以降
		JP1/Network Node Manager i Advanced 11-00 以降

注※1 UNIX と表記することがあります。

注※2 これらの製品は日本語環境だけで動作する製品です。

付録 H.3 このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	正式名称
AP	Application Program
API	Application Programming Interface
DB	Database
FTP	File Transfer Protocol
GUI	Graphical User Interface
ID	Identification number
IP	Internet Protocol
MSCS	Microsoft Cluster Service
OS	Operating System
PC	Personal Computer
SNMP	Simple Network Management Protocol
SSL	Secure Socket Layer
TLS	Transport Layer Security
URL	Uniform Resource Locator
WWW	World Wide Web

付録 H.4 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024² バイト, 1,024³ バイト, 1,024⁴ バイトです。

(英字)

JP1/Base

イベントサービス機能を提供するプログラムです。サービスの起動順序を制御したり、JP1 イベントを送受信したりできます。また、JP1/Base は JP1/IM - EG for NNMi の前提プログラムです。

JP1/Cm2/NNMi

ネットワークの構成管理、性能管理および障害管理のための統合ネットワーク管理プログラムの総称です。バージョン 11 以降は製品名称が JP1/NNMi に変更になりました。

JP1/IM - Manager

システム全体の一元的な監視と操作を実現することで、システムを統合管理するためのプログラムです。

JP1/IM - View

JP1/IM でのシステム統合管理を実現するためのビューアー機能を提供するプログラム（GUI 提供プログラム）です。

JP1/NETM/DM

ソフトウェアの配布およびクライアントの管理を、ネットワークを利用し一括して行うシステムの総称です。

JP1/NNMi

ネットワークの構成管理、性能管理および障害管理のための統合ネットワーク管理プログラムの総称です。

JP1/Power Monitor

ホストを自動的に起動・終了するプログラムです。スケジュールを設定してホストを起動・終了したり、離れた場所にあるホストを起動・終了したりできます。

jp1hosts 情報

JP1 独自のホスト名と IP アドレスの対応付けを定義する hosts 情報です。

複数のネットワークに接続された環境などで、JP1 の通信の動作をカスタマイズする場合に使用します。jp1hosts 情報は JP1/Base が管理します。

jp1hosts 情報は、IPv6 アドレスを使用した通信には対応していません。IPv6 アドレスを使用して通信する場合は、jp1hosts2 情報を設定する必要があります。

→「jp1hosts2 情報」を参照してください。

jp1hosts 情報が設定されていると、JP1 が通信をするときに hosts などの設定より優先して参照されます。このため、JP1 独自に、OS とは別のホスト名と IP アドレスの対応付けをして通信できます。

jp1hosts2 情報

JP1 独自のホスト名と IP アドレスの対応付けを定義する hosts 情報です。

複数のネットワークに接続された環境などで、JP1 の通信の動作をカスタマイズする場合に使います。jp1hosts2 情報は JP1/Base が管理します。

IPv6 アドレスを使用して通信する場合は、jp1hosts2 情報を設定する必要があります。

jp1hosts2 情報が設定されていると、JP1 が通信をするときに hosts などの設定より優先して参照されます。このため、JP1 独自に、OS とは別のホスト名と IP アドレスの対応付けをして通信できます。

なお、JP1/IM - EG for NNMi は IPv4/IPv6 混在環境（デュアルスタック環境）に対応していますが、IPv6 だけの環境には対応していません。

JP1 イベント

システムで発生した事象を JP1 で管理するための情報です。

JP1 イベントは、次のような属性に分けて、事象を記録しています。

- 基本属性

すべての JP1 イベントが持つ属性です。

属性名を表記する場合、例えばイベント ID は **B. ID**（または単に **ID**）のように記述します。

- 拡張属性

JP1 イベントの発行元が任意に指定できる属性です。拡張属性は、次の共通情報と固有情報によって構成されます。

- ・ 共通情報（JP1 イベントによって形式が統一されている拡張属性の情報）
- ・ 固有情報（共通情報以外の各製品固有の形式の情報）

属性名を表記する場合、例えば重大度は **E. SEVERITY**（または単に **SEVERITY**）のように記述します。

JP1 イベントは、JP1/Base のイベントサービス機能が管理しています。システムで発生した事象を JP1 イベントとしてデータベースに記録しています。

JP1 共通定義情報

→「共通定義情報」を参照してください。

NNMi インシデント

JP1/NNMi または JP1/Cm2/NNMi が管理しているネットワーク機器で、何らかの事象が発生した場合に通知される、障害事象の単位を指します。

(ア行)

イベント ID

JP1 イベントの属性の一つで、JP1 イベントを発行したプログラムや、発生した事象の内容を示す識別子です。JP1 イベントの基本属性で、属性名は「B.ID」です。

イベント ID は、例えば、7FFF8000 のような値で、16 進数で表記します。

イベント ID は、JP1 シリーズの各製品で一意になるように割り当てられています。JP1 シリーズの各製品が発行する JP1 イベントについては、各製品のマニュアルを参照してください。

ユーザーが使用できるイベント ID は、0~1FFF および 7FFF8000~7FFFFFFF です。

なお、JP1 イベントの詳細は、基本コード（上位 4 バイト）と拡張コード（下位 4 バイト）に分かれた 8 バイトの数値です。通常は、基本コードだけを使って 4 バイトで表記します。拡張コードは、ユーザーが API で設定するなど特別な場合を除いて 0 です。基本コードと拡張コードの表記が必要な場合は、「:」でつなげて、7FFF8000:0 のように表します。

【イベントコンソール】画面

JP1/IM - View の画面の一つで、セントラルコンソールの受信した JP1 イベントを時系列に表示します。JP1/IM - Central Console にログインすると最初に表示されます。

JP1/IM では、各ホストで発生した事象を JP1 イベントによって記録し、そのうち重要な JP1 イベントを JP1/IM のマネージャーホストに転送して集中管理しています。この JP1 イベントを、【イベントコンソール】画面に表示することで、システムで発生した事象を集中監視できます。

イベントサーバ

JP1/Base で JP1 イベントを管理する機能を持つプログラムです。イベントサーバを起動すると、JP1 イベントを収集・配布できる状態になります。

イベントサービス

システム内で発生した事象を JP1 イベントとして登録、および管理するための機能です。

インシデント

IT サービスの品質を低下させたり、システムの正常な運用を妨げたりする障害事象の単位を指します。

エージェント

システム上でほかのプログラムに管理される役割を持つプログラムのことです。または、システム上でほかのホストに管理される役割を持つホストのことです。JP1/IM - EG for NNMiはエージェントホストにインストールします。

(カ行)

拡張属性

JP1 イベントが持つ情報（属性）のうち、イベント発行元プログラムが任意に指定する属性のことです。

→ 「JP1 イベント」を参照してください。

基本属性

JP1 イベントが持つ情報（属性）のうち、すべてのJP1 イベントが持っている属性のことです。

→ 「JP1 イベント」を参照してください。

共通定義情報

JP1 の実行環境の定義パラメーターを格納しているデータベースのことで、JP1/Base が管理しています。データベースは、各サーバのローカルディスクにあり、定義パラメーターが物理ホストおよび論理ホストごとに分けて格納されています。

なお、JP1 をクラスタシステムで運用する場合は、実行系・待機系の各サーバにある共通定義情報の論理ホストの定義内容を同じにする必要があります。このため、セットアップや環境設定をしたときは、実行系サーバでパラメーターを設定したあとで、待機系サーバに設定をコピーします。

クラスタシステム

複数のサーバを連携させて一つのシステムとして運用するシステムのことです。

障害が発生してもほかのサーバに処理を引き継ぐことで業務が中断することを避け、可用性を向上させることを目的としています。この処理を引き継ぐことをフェールオーバーといいます。

業務を実行中のサーバ（実行系）で障害が発生すると、待機していた別のサーバ（待機系）が業務の処理を引き継ぎます。実行「系」から待機「系」へ業務を切り替えるので、「系切り替えシステム」とも呼びます。

なお、クラスタシステムの種類には、複数のサーバが並列処理をして負荷分散することを目的としたシステム構成などもありますが、このマニュアルでは、フェールオーバーによって業務の中断を防ぐシステム構成のことだけを指します。

系切り替えシステム

→「クラスタシステム」を参照してください。

(サ行)

重大度

JP1 イベントの属性の一つで、システムで発生した事象の重大さを示す情報です。

JP1 イベントの拡張属性の共通情報で、属性名は「E.SEVERITY」です。

重大度には、緊急、警戒、致命的、エラー、警告、通知、情報、およびデバッグがあります。

条件文

条件に一致した NNMi インシデントを変換対象にするフィルター条件文です。NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルのフィルター条件ブロックに記述します。

除外条件文

条件に一致した NNMi インシデントを変換対象から除外するフィルター条件文です。NNMi インシデント転送フィルター定義ファイルのフィルター条件ブロックに記述します。

(ハ行)

ビューアー

JP1/IM のシステム統合管理のために、目的に沿った画面を提供するためのプログラム (GUI 提供プログラム) のことです。または、ビューアーを実行するホストのことです。

フェールオーバー

JP1 を実行するサーバに障害が発生した場合に、ほかの正常なサーバに JP1 を移動させて処理を続行することです。または、システム管理者の操作によって、JP1 を実行するサーバを切り替えることです。

実行系サーバから待機系サーバにフェールオーバーするため、系切り替えともいいます。

物理ホスト

クラスタシステムで JP1 を運用する場合の、クラスタシステムを構成する物理的なサーバのことです。論理ホスト (物理的なサーバに依存せずに、フェールオーバーできる論理的なサーバ) に対する用語です。

(マ行)

マネージャー

システム上のほかのプログラムを管理する役割を持つプログラムのことです。または、システム上のほかのホストを管理する役割を持つホストのことです。

JP1/IM - EG for NNMi から発行された JP1 イベントは、マネージャーホストにインストールされた JP1/IM - Manager によって管理されます。

(ラ行)

論理ホスト

クラスタシステムで JP1 を運用するときに、JP1 の実行環境となる論理上のサーバです。また、障害が発生した場合に、フェールオーバーするときの単位です。

論理ホストは、フェールオーバーの時に引き継がれる論理 IP アドレスと共有ディスクを持ち、それらを使って実行する JP1 などのアプリケーションから構成されます。

フェールオーバー時は、論理 IP アドレスと共有ディスクを引き継いで JP1 の実行を継続します。これによって、JP1 を実行するサーバが物理的に変わっても、ほかのホストからは同じ IP アドレスでアクセスでき、一つのホストが常に動作しているように見えます。

索引

H

Hitachi PP Installer 26
hosts ファイルの変更 86

I

IP アドレスの変更 86

J

jegn_killall.cluster (UNIX 限定) 95
jegn_log.bat (Windows 限定) 96
jegn_log.sh (UNIX 限定) 99
jegn_setup 102
jegn_setup_cluster 107
jegn_spmd_reload 109
jegn_spmd_status 111
jegn_start.cluster (UNIX 限定) 114
jegn_start (UNIX 限定) 113
jegn_stop.cluster (UNIX 限定) 116
jegn_stop (UNIX 限定) 115
JP1/Base (用語解説) 264
JP1/Cm2/NNMi (用語解説) 264
JP1/IM - EG for NNMi 15
 運用の流れ 16
 起動する 80
 システム構成 17
 終了する 81
 前提 OS 17
 前提プログラム 18
JP1/IM - EG for NNMi パラメーター定義ファイル 258
JP1/IM - Manager
 定義ファイル 73
 用語解説 264
JP1/IM - View (用語解説) 264
JP1/NETM/DM
 用語解説 264
 リモートインストール (UNIX) 25

 リモートインストール (Windows) 24
JP1/NNMi (用語解説) 264
JP1/Power Monitor 33
 用語解説 264
jp1hosts2 情報 (用語解説) 265
jp1hosts2 定義ファイルの変更 86
jp1hosts 情報 (用語解説) 264
jp1hosts 定義ファイルの変更 86
JP1 イベント 117
 一覧 126
 拡張属性 118
 基本属性 118
 詳細 126
 属性 118
 用語解説 265
JP1 イベント発行トレースログ 219
JP1 共通定義情報 (用語解説) 265

K

KAVB3501~KAVB3999 181
KNAG0001~KNAG0999 138
KNAG1000~KNAG1999 142
KNAG2000~KNAG2999 160

M

Microsoft へのエラー報告の抑止設定 (Windows 限定) 35

N

NNMi インシデント 15
 JP1 イベントへの変換 51
 属性 57
 属性値 59
 変換の流れ 19
 用語解説 266
NNMi インシデント転送フィルター定義ファイル 52
オペランド 56

形式 53
サンプルファイル 67
定義例 67
比較キーワード 55
フィルター条件ブロック 55
マッピングブロック 63

あ

アプリケーション実行定義ファイル 78
アンインストール (Windows) 24
アンインストール (UNIX) 26

い

一次資料 (UNIX) 99
一次資料 (Windows) 96
イベント ID
 0x00006100 の詳細 126
 0x000061F0 の詳細 126
 0x000061F1 の詳細 127
 0x000061F2 の詳細 127
用語解説 266
イベント拡張属性定義ファイル 73
[イベントコンソール] 画面 (用語解説) 266
イベントサーバ (用語解説) 266
イベントサービス (用語解説) 266
インシデント (用語解説) 266
インストール (UNIX) 25
インストール (Windows) 23
インストールとセットアップの流れ 22
インストールに関するメッセージ 138
インストールに関するメッセージの出力先 129

う

上書きインストールまたはバージョンアップインストール (UNIX) 25
上書きインストールまたはバージョンアップインストール (Windows) 24
上書きセットアップ 30
運用上の注意事項 90
運用の流れ 16

え

エージェント 17
用語解説 267

お

オペランド 56

か

拡張起動プロセス定義ファイル 256
拡張属性 118
 共通情報 118
 合計サイズ 66
 固有情報 118
 マッピング 66
 マッピング結果の確認 66
 用語解説 267
カスタム属性マッピング定義ファイル 70
 書式 71
 ファイル名と格納先 70
環境変数の設定 30
環境変数ファイルの設定 30

き

起動管理機能 33
起動順序定義ファイル 33
起動する 80
基本属性 118
 用語解説 267
共通定義情報 (用語解説) 267
共通定義への言語環境設定 31

<

クラスタシステム 37
 環境設定の流れ 38
 クラスタ運用に関する注意事項 50
 クラスタソフトへの登録 44
実行系サーバのインストールとセットアップ 40
設定変更時の作業 43
待機系サーバのインストールとセットアップ 42

用語解説 267
論理ホストのインストールとセットアップ 40
論理ホストの削除 49

け

系切り替えシステム (用語解説) 268
言語コード 30

こ

コマンド 91
jegn_killall.cluster (UNIX 限定) 95
jegn_log.bat (Windows 限定) 96
jegn_log.sh (UNIX 限定) 99
jegn_setup 102
jegn_setup_cluster 107
jegn_spmd_reload 109
jegn_spmd_status 111
jegn_start.cluster (UNIX 限定) 114
jegn_start (UNIX 限定) 113
jegn_stop.cluster (UNIX 限定) 116
jegn_stop (UNIX 限定) 115
一覧 93
記述形式 92
起動・終了, セットアップ 93
トラブルシューティング 94
コマンド実行に関するメッセージ 142
コマンド実行に関するメッセージの出力先 129

さ

サービスに関するメッセージ 160
サービスに関するメッセージの出力先 131

し

システム管理者の方へ 137
システム構成 17
システムのタイムゾーン変更 88
システムの日時変更 87
実行系サーバのインストールとセットアップ 40
自動起動 32

自動起動スクリプト 33
自動終了 32
自動終了スクリプト 33
重大度

マッピング 65
用語解説 268

終了する 81

条件文 55
用語解説 268

除外条件文 55
用語解説 268

資料採取ツール 222

せ

正規表現 250
指定方法 251
指定例 252
使用する際のヒント 252
文法 250
制限値 248
性能と見積もり 249
セットアップ 29
前提 OS 17
前提プログラム 18

そ

属性
JP1/IM - EG for NNMi が出力する JP1 イベント 125
NNMi インシデント 57
NNMi インシデントを変換した JP1 イベント 119

た

待機系サーバのインストールとセットアップ 42

て

定義ファイル 255
JP1/IM - EG for NNMi パラメーター定義ファイル 258
NNMi インシデント転送フィルター定義ファイル 52

イベント拡張属性定義ファイル 73
拡張起動プロセス定義ファイル 256
カスタム属性マッピング定義ファイル 70
マッピング定義ファイル 68
モニター画面呼び出し定義ファイル 78
定義ファイルの設定 32
定義ファイルを変更する 85
ディスク占有量 249
ディレクトリ一覧 (UNIX) 243

と

統合トレースログ 217
トラブルシューティング 215
 一次資料 (UNIX 用) 99
 一次資料 (Windows 用) 96
 採取が必要な資料 (UNIX) 230
 採取が必要な資料 (Windows) 222
 使用するコマンド 94
 対処の手順 216
 二次資料 (UNIX 用) 99
 二次資料 (Windows 用) 96
 ログ情報の種類 217
トラブルに備えた設定 34
トラブル発生時の資料採取の準備 (Windows) 34

な

内部属性の表示 77

に

二次資料 (UNIX) 99
二次資料 (Windows) 96

は

バックアップ 83

ひ

比較キーワード 55
ビューアー 17
 用語解説 268

ふ

ファイル一覧 (UNIX) 243
ファイル一覧 (Windows) 242
フィルター条件ブロック 55
フィルター条件文 55
 記述例 61
 書式 55
フェールオーバー (用語解説) 268
フォルダ一覧 (Windows) 242
物理ホスト (用語解説) 268
プロセス 247
プロセス異常検知時の JP1 イベントの発行の設定 36
プロセス異常終了時の再起動の設定 35
プロセス管理に関するメッセージの出力先 132
プロセス別トレースログ 221

へ

変換の流れ 19

変更

 hosts ファイル 86
 IP アドレス 86
 jp1hosts2 定義ファイル 86
 jp1hosts 定義ファイル 86
 システムのタイムゾーン 88
 システムの日時 87
 設定情報 85
 定義ファイル 85
 ポート番号 86
 ホスト名 86
 ホスト名 (クラスタシステム) 86

ほ

ポート番号の変更 86
ホスト名の変更 86
ホスト名の変更 (クラスタシステム) 86

ま

マッピング定義ファイル 68
 書式 69

- ファイル名と格納先 68
- マッピングブロック 63
 - 拡張属性のマッピング 66
 - 重大度のマッピング 65
 - メッセージのマッピング 63
- マネージャー 17
 - 用語解説 269

め

- メッセージ 128
 - 一覧 138
 - 記載形式 136
 - 出力形式 136
 - 出力先一覧 129
- メッセージ内容の編集 63
- メッセージの最大サイズ 65
- メッセージのマッピング 63
- メモリー所要量 249

も

- モニター画面呼び出し定義ファイル 78
- モニター起動させる NNMi の Web ブラウザを変更する場合 78

よ

- 用語解説 264

り

- リストア 84
- リモートインストール (UNIX) 25
- リモートインストール (Windows) 24

ろ

- ログ情報 217
- 論理ホスト
 - インストールとセットアップ 40
 - 削除 49
 - 用語解説 269

 株式会社 日立製作所

〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号
